

会 議 録

会議の名称	長期計画審議会起草委員会（第3回）
事務局	企画財政部企画政策課企画政策係
開催日時	平成21年10月11日（日） 午前10時00分～午後4時00分
開催場所	小金井市役所第二庁舎8階801会議室
出席者	別紙のとおり
傍聴の可否	<input checked="" type="radio"/> 可 一部不可 ・ 不可
傍聴者数	1人
傍聴不可等の理由等	
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 委員からの意見について 2 市民フォーラムに関する検討事項について 3 第4次基本構想（素案）前半の修正について <ol style="list-style-type: none"> （1）「基本構想の目的と策定意義・役割」について （2）「基本構想の枠組み」について （3）「社会の潮流と本市の課題」について （4）「まちづくりの基本姿勢」について 4 第4次基本構想（素案）後半の修正について <ol style="list-style-type: none"> （1）「施策の大綱」の構成及び4つの柱について （2）「みどりあふれる快適で人にやさしいまち（環境と都市基盤）」について （3）「ふれあいと活力のあるまち（地域と経済）」について （4）「次世代の夢と希望をはぐくむまち（文化と教育）」について （5）「誰もが安心してくらすせる思いやりのあるまち（福祉と健康）」について （6）「計画の推進」について
会議結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 市民フォーラムに関する検討事項について 事務局より起草委員会資料4に基づき市民フォーラムに関して①チラシの配布について②開催日程・進行等についてのたたき台の提示があった。 委員からは①に関して市民に呼び掛けるという意味で広報の観点から実施すべきではという意見があり、別途広報紙（市報等）で対応するかB4ハガキ付きチラシを全戸配布するか検討する②3月中で2日間とすることとした。

→起草委員会後、事務局と会長・職務代理者との打ち合わせで①については、市報による広報を行い、B4ハガキ付きチラシは22年5月に実施するパブリックコメントと同時期に実施する方向で検討する。②3月27、28日の2日間とすることとなった。

2 第4次基本構想（素案）前半の修正について

主に第3章「社会潮流と小金井市の現状（主要な特徴と課題）」、第4章「まちづくりの基本姿勢」、第5章「小金井市の将来像」について、議論を行った。主な内容として、第3章については、三橋委員から前回までの議論（資料53）を踏まえて、たたき台（起草委員会資料5）の提示があり、社会潮流については、「少子高齢社会の進行」など5つの項目について委員会で表現等の検討を行った。市の主要な特徴と課題については、社会潮流や市民意向調査、データブック2008、施策の大綱等を踏まえ、本文を作成したとの説明があり、その後委員会にて各項目に関して表現等の修正を行ったほか、特徴と課題の各項目を対にしてまとめ、「行政サービスと行財政改革」など5つの項目を設定することとした。

第4章「まちづくりの基本姿勢」については、淡路委員が作成した修正案（資料51）をもとに議論を行った結果、「市民生活優先のまちづくり」「参加と協働によるまちづくり」「総合的なまちづくり」の3つを基本姿勢とすることとした。また、特に「総合的」の意味するところとしては、環境変化への「最適」な対応と、地域特性を生かすということ等を確認し、「最適」については、別途注記を付けることとした。

第5章「小金井市の将来像」については、市の素案（市内の中学生の案）である「みどりが育つ・子どもが育つ・笑顔が育つ 小金井市」と、それを一部修正した「みどりが萌える・子どもが育つ・絆を結ぶ 小金井市」の2案を審議会に提示することとした。また、評価指標については、複数の委員から「住みやすさ」「住み続けたい」の2つの要素が素案として提示されているが、両者は同じような内容であり、1つにできないかという意見が出された。一方で、他の委員からは、2つの指標は別のものであるという意見もあり、結果としては、市の素案のまま両者を評価指標とした。

3 第4次基本構想（素案）後半の修正について

施策の大綱の各分野及び計画の推進について、以下の通り、委員間の分担を決め、担当委員が次回までに素案を検討した結果を提示することとなった。

・環境と都市基盤 永田委員

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域と経済 渡辺委員 ・ 文化と教育 鮎川委員 ・ 福祉と健康 玉山委員 ・ 計画の推進 淡路委員
発言内容・ 発言者名（主 な発言要旨）	別紙のとおり
提出資料	4 市民フォーラムに関する検討事項について 5 第4次基本構想（素案）第3章修正案

目 次

委員からの意見について	-----	1
市民フォーラムに関する検討事項について	-----	2～6
第4次基本構想（素案）前半の修正について	-----	6～81
(1) 「基本構想の目的と策定意義・役割」について	-----	6～8
(2) 「基本構想の枠組み」について	-----	8～9
(3) 「社会の潮流と本市の課題」について	-----	9～63
(4) 「まちづくりの基本姿勢」について	-----	64～81
将来像について	-----	81～90
役割分担	-----	90～97

第3回小金井市長期計画起草委員会

日 時 平成21年10月11日（日）午前10時00分～午後4時00分

場 所 小金井市役所第2庁舎 8階801会議室

出席委員 7人

委員長 武藤博己 委員

副委員長 三橋 誠 委員

委員 玉山京子 委員 永田尚人 委員

淡路富男 委員 鮎川志津子 委員

渡辺嘉二郎 委員

事務局職員

長期総合計画等担当部長 伊藤茂男

企画政策課長 天野建司

企画政策係主任 堤直規

傍聴者 1人

（午前10時00分開会）

◎武藤委員長 お休みのところ、お集まりいただきありがとうございます。第3回長期計画起草委員会をはじめます。

配付資料はオーケーですね。切りのいいところで日程調整をしたいと思います。

では、最初に、今井委員からの意見の取り扱いについて、検討したいと思います。意見をまとめた表の資料に追加し、具体的には第4次基本構想の施策の大綱及び前期基本計画の該当部分で取り扱うことにしたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

◎武藤委員長 はい。どうもありがとうございます。今申し上げた意見集は三橋委員につくっていただいているんですね。

こちらの横長の意見をまとめた意見一覧ですね。

◎三橋委員 はい。

◎武藤委員長 それどこにあったかな。その中に加えて該当するところで扱うということですが。

◎三橋委員 はい。わかりました。

◎武藤委員長 中身についてはご覧いただければわかりますが、商工会関係、商店会、商工会に関するご提案ということですので、基本構想の中、あるいは計画の中でこういうことが入れられるかどうかということだと思います。

では続きまして、市民フォーラムに関する検討事項について、事務局からその資料についてご説明ください。今日の起草委員会資料4です。

◎長期総合計画等担当部長 はい。資料4をご覧いただきたいと思います。まず1のほうなんですけど、1につきましては、前回10月7日の長期計画審議会のほうに日程をお示しをしております。こここのところで、市民フォーラムを平成22年3月ごろに予定をしているので、それについて全戸配布で資料を配布したいとお話をしております。ただ、狛江市さんの例をとりまして、B4の用紙の表と裏に記事を書いて、はがき大のものを印刷、刷り込みまして、返信用のはがきということで入れるという書式を予定しております。

下の矢印のところなんですけれども、市民フォーラムは、基本計画について市民の意見を聞くという考え方ですので、そのチラシの中は本来ですと、基本計画案を書き込むようなことになるんですけれども、B4の表裏ですと、どう考えても、基本計画についてお知らせするというのはなかなか難しいと思われまして、チラシの配布ということ自体は難しいのではないかなと思われまして。

この書式で何かをやるとすれば、基本構想についてですと、狛江市さんは基本構想をやってらっしゃいますので、それはできると思います。そうすると、12月補正でそれをやることとなりますので、基本構想についてチラシを配るとすれば、ここに書いてありますように、早くても1月末ごろになってしまうので、集約していくとなると2月ごろになりますから、12月に市民懇談会を開いて、その意見を取りまとめて、一定の基本構想をまとめてしまうと、その後でまた意見が出てくることとなりますので、そこをどうするのかをご協議いただきたいと思っております。

それから2番ですが、市民フォーラムということで、まだ全然形が定まっていないので、検討をお願いしたいと思います。それで既にお示ししてあります工程表ですと、来年の3月に基本計画の答申案について、市民の意見を聞くというのが市民フォーラムだと考えております。案の1なんですけど、3月ということになりますと、日程的にはおそらくそこに書いてありますように、3月26、27、28日ごろしかないのではないかなということで、考え方としては3月26日に、とりあえず2時間ぐらいでおおざっぱな説明をして、27、28はそれぞれ4つの柱がありますので、柱に沿って4つぐらいに分けてやるのかなということで、ひとまず3日間ですとりました。

その後の日程ということになると、4月2日から4日ごろに桜まつりが予定されておりますので、なかなか市民の方に集まっていたくのは難しそうなので、その次の週ということになりますと、4月9、10、11あたりになります。仮に補正予算をとって3月にやるということになって、3月中にお手元の基本計画の案がまとまらないという事態になり、繰越明許という形をとらないと、その予算は4月に執行できないこととなりますから、もしも当初から3月が難しいということであれば、当初予算の中で、この件についての予算は措置させていただいたほうがいいのかということが考えられます。

それから3の進行等のところにつきましては、さっきも言いましたけれども、4つの柱といいましてもかなりありますので、長計審の中でテーマを決めていただいて意見を聞いたかどうかということと、3日連続同じ人が参加していただければ一番いいんでしょうけれども、そうでなくて、個別のテーマを決めていけば、日程はその都度来ていただくことも考えられるのかなと思います。それから短時間でということで、なかなか市の職員だけでやるのも難しいということであれば、業者さんの手も煩わせなきゃいけないということで、予算措置が必要になるということが、ウのところを書いてあります。

資料の説明は以上になります。

◎武藤委員長 はい。ありがとうございました。最初のところの市民フォーラムを、このところは、B4では基本計画までは全部入らないというようなご説明で、この1番のほうは、資料をどうするかということですか。

◎事務局 そうです。

◎武藤委員長 2のほうは、日程と形式等ですね。事前の資料ということですか。

◎長期総合計画等担当部長 そうです。結局、12月に補正予算を出さないと、予算措置がありませんので、その予算措置の締め切り自体が、12月議会ですので、今月の20日ごろまでなんです。今ここで、前回お示ししたものはB4の表裏ですが、本来市民フォーラムで使う予定の資料ですから、そうするとB4表裏ということではなくて、もっといっぱい資料を送るとなると、なかなかそれは予算措置が難しいと思います。ですので、基本計画についての資料を市民の方に送るという考え方自体がどうなのかということを検討いただきたいと思います。

◎武藤委員長 はい。

◎三橋委員 今の部長さんのご指摘のとおり、基本的な考え方は、基本計画全体を入れることは無理だと思うんです。基本計画の個別テーマについて市民の意見を聞くとなっていますが、一方で基本構想を聞くというと、市民懇談会をやっていますし、基本計画の中で、あるいは基本構想・基本計画両方あってもいいんですけれども、どっちにしても裏表のところがあります。テーマを絞って、市民にいかに来てもらうかというような観点で、こういったことを議論するんだよということをお示しして、細かいところを知りたいということであれば、ホームページや市の施設で文書を見てもらう。逆に言えばB4表裏ぐらいに興味を引くようなものでなければ、みんな来てくれないと思いますので、それぐらいが配るにしても限度なのだと思います。それを見て全部がわかるというよりは、まずきっかけをつかんでもらうような資料にするということがいいんじゃないかなとは思いますが。

◎武藤委員長 その基本計画は、現行計画と同じぐらいの内容ということなんですよ。この冊子は、各家庭、全戸に配布されているわけでは、もちろんないですよ。これを全戸配布するような資料でつくるとなると、一番コストが安いのは、大量につくるときは新聞のような、あれですよ。市報の厚いようなので、レイアウトを変えたりしてつくるんでしょうか。

◎渡辺委員 すごい金を使うんだね。市報じゃだめなの？

◎長期総合計画等担当部長 もともと、考え方としては、狛江市さんの例がございましたので、基本構想レベルですと、市民の方に一定知っていただいて、それについて意見があれば返信用のはがきがついていますので、書いていただけるといふ形を想定しているんですけども、市民フォーラム自体が基本計画についてのものでありますので、その段階でこれを送ってもあまり意味がないと思われるんです。三橋委員がおっしゃったように、意見を聞くというよりも、それだと来てくださいという広報のビラのような形になってしまいますので、それを全戸配布する必要があるのかどうかというところがございます。最終的に、基本計画なり基本構想がまとまるとすれば、市報の特集号のような形を当然考えますので、8面は難しいと思うんですが、4面はとれると思いますので、結構なボリュームで書けるとは思います。

◎三橋委員 ごみ処理施設のときなんかは、その地域住民に全戸配布すると、全然集まりが違ったりしたんです。本来であれば、委員長がおっしゃられるような、小冊子全体が市民全員に行き渡るようになればベストですけど、さすがにそういうわけにはいかないと思います。一方で、市報もなかなか難しいらしいんです。B4の表裏ぐらいの分量を使って記事を書くというのも、そんなに簡単ではないようなところがあると思います。一番大事なものは、基本構想・基本計画として、我々は何を市民に訴えたいか、何を聞きたいかというところをきちんと論点として、チラシという言い方がいいのか資料という言い方がいいのかわかりませんが、そういうところにちゃんと示した上で、フォーラムをやっているということを周知することが大事なのかなとは思っています。

◎武藤委員長 完成したものを全戸配布するために、市報の特別号みたいなのをつくって、コストを安くこの内容を伝えるというのはありとしても、その前の段階の素案を全戸配布するのはあまり意味がないです。もちろん参加者には資料として提供しなくちゃいけませんけれども、事前の広報は、こういうことを議論しますからという広報の内容としてまとめることにしましょうか。そうすれば、広報紙の中に入れてもらうのか、あるいは狛江的なB4のチラシを配布するのかということで議論できます。その場合には広報に差し込むのか、入れ込むのか、それとも個別に配布するのかという技術的なことを考えればいいということになります。

では1のほうはそういうことで、2のほうは日程ですが、3月中に行えるかどうかということのも、3月までに審議会のほうの意見がまとまるかどうかということにかかわってくるのかなと思うんですが、そこはいかがでしょうか。基本構想のほうは素案が前半、後半全部出てきたんですが、基本計画のほうは、事務的な準備段階というのはどうなんでしょうか。あまり問題ありませんか。

◎長期総合計画等担当部長 一応、予定では1月ごろ、審議会のほうにお示ししますので、スケジュール的には3回。

◎武藤委員長 1月、2月、3月の3回の審議会で議論できるということですか。

◎三橋委員 少ないと言えば少ないですけどね。少ないですね。

◎武藤委員長 うん。

◎事務局 一応、予算では4回。

◎武藤委員長 4回の審議会を経て。

◎事務局 ええ。

◎武藤委員長 じゃあもう、市民フォーラムになるという。

◎事務局 はい。

◎武藤委員長 そうですか。まあ4回あれば、計画ですのでそれほど、基本構想から踏まえて出てくる具体的な計画、施策の話ですから、それに市民フォーラムでまた意見をいただくということで完成版ではありませんから、4回あれば大丈夫かなと思います。4月に入ると、この時期はもう大学が始まってしまいます。ですから3月中のほうがいいですね。3月中のこの時期でしたら、ちょっとした空白期間になりまして、卒業式と入学式の間の、3月中のほうが私も日程はとりやすいです。ただ、そのやり方として、3日間連続で最初の金曜日の夜にまず説明をし、そして土曜日と日曜日は10時から3時ということなんですが、2カ所でやるということを考えていらっしゃるんですか。今度の市民懇談会のような。そうではなくて、4つの分科会を2時間ずつ。

◎長期総合計画等担当部長 ですから、2時間ずつということではなくて……。

◎武藤委員長 並行して。やったらどうかみたいな。

◎長期総合計画等担当部長 並行してやるか、2時間で終わらせるのは多分無理ですから……。

◎武藤委員長 2時間じゃ難しいですね。

◎長期総合計画等担当部長 並行して、4会場で2回やることになりますか。

◎武藤委員長 その前日の説明と次の日に来られる方が一致しない場合は難しいので、やっぱり説明と質疑を合わせて、最低で1分科会3時間はとらないと無理ではないかと思うんです。そこは一緒にやってしまったほうがいいんじゃないかと思うんですけど。説明をたっぷり聞いて、そろそろ聞き飽きたというところで意見を言う。そうすれば3時間でできていくかと。4つの分科会、4つの柱でそれぞれやって、1つの分科会に10人、20人くらい来ていただけるようなことでいくと、4つという80人くらい来ていただくということで、これはなかなか難しいんじゃないかと思います。80人の方に参加してもらえるというのは。

◎三橋委員 厳しいですね。

◎武藤委員長 ねえ。今まで小金井のこういう市民フォーラム、市民懇談会で人数が集まったのは何人くらいですか。この前の子育ては何人でしたっけ。町田委員の市民討議会では。

◎三橋委員 あれはかなり仕掛けをつくってますよね。

◎武藤委員長 100人くらい？

◎事務局 いや、市民討議会の参加者は29人です。2,000人に参加依頼書をお送りして、最終的な参加者は、2008が35人で、2009が29人でした。

◎三橋委員 それは参加を希望した人ですか。それとも……。

◎事務局 実際に参加した人です。どうしても当日キャンセルが出ます。あれは2日間連続で

参加しなければいけないという制約が大きかったので、1日ならば出られたんだけどという方もいらっしゃると思いますので。

◎三橋委員 最初の35人に絞るときは、抽選にかけたんですか。

◎事務局 結局、今回は抽選をしていません。定員よりも多くなってもキャンセルが出るのを見込んで、もしいらしたらお受けするつもりで実行委員会ではやったんだけど、やはり最終的に29人となり、キャンセルが出ました。

◎三橋委員 2,000人で30人ということは何%だ？1%ぐらいですかね。1.5%。

◎事務局 ただ、一番大きいのは、2日間両方とも出なければいけないというのが制約だということです。どちらかだけというのはそのときはだめだというスタンスで公募して、そこは1日ずつでも可とかだと、また条件が変わるんじゃないかとは思われます。

◎淡路委員 でも、これ全部を聞く必要、お客様はあるのかな。私は保健福祉だけ聞きたいとか、私は文化だけ聞きたいというから、セグメンテーションしても、2つぐらいで、全部聞くという人はよっぽどのマニアじゃない限り、いないんじゃない？普通の市民の方を相手にしたら、自分が関心のあるところに、チラシがまかれて、ああ、これ聞きに行こうと。自分の生活の制約があるから、5時間も張りつくとか、そんなことはあり得ないと思うんだよね。だったら分けてあげて、選択できるようにしてあげたほうがいいような気がしますけどね。

◎渡辺委員 今日は日程だけ決めて、具体的なところはちょっと。今日は肝心な議論があるから。

◎武藤委員長 そうですね。

◎長期総合計画等担当部長 今の委員長のお言葉ですが、3日間ではなくて、ひとまず2日にして、1つの分科会で、例えば3時間3時間ぐらいのコースで。

◎淡路委員 4つやるんでしょう。

◎事務局 4つに分けます。

◎淡路委員 今のところはね。

◎武藤委員長 そうですね。

◎三橋委員 2時間半とか、例えば30分で説明して2時間議論とか、45分説明して……、2時間3時間だと……。

◎長期総合計画等担当部長 いや、4つに分けて……。

◎三橋委員 いけますか。9時から11時ですか。やりますか。9時半から11時？

◎事務局 コースとしては、1つの分科会について2時間半と2時間半の5時間です。

◎長期総合計画等担当部長 じゃあそういうふうな形で考え方を再度まとめさせていただいて、最終的には11月11日にお示しをしたいと思いますので、よろしくお願いします。

◎武藤委員長 はい。よろしく申し上げます。

では続きまして、素案の前半の修正について入っていきたいと思います。まず1の基本構想の目的と策定の意義・役割というところから、前回審議会でも議論したところですが、ここか

ら入っていきたいと思います。画面に出ておりますが、この前、淡路委員に訂正してもらったものですね。

◎事務局 はい。そういう形に打ち直してあります。

◎武藤委員長 ではこここのところですが、配付資料は前回の、画面を見ていただければいいということですね。でも、ちょっと全体像が見えないので、手元に資料が、これですね。

特に審議会ではご意見はなかったですよ。どうでしたっけ。

◎淡路委員 あったのは、議員をどうするかということだけですね。

◎武藤委員長 そうでしたね。私たちのところに議員というのを、下の説明ということですね。修正部分の説明のところでは議員さんをどうするかという提起があったということです。ここは社会環境のところが出てこない、第3段落、第4段落がまとまらないので、下の修正部分の説明のところは入らないですよ。

◎淡路委員 入らない、これは。

◎武藤委員長 入らないですよ。あくまで注のようなことですから、ここにももちろん議員さんとはこの説明には書いてないけれども、市民の中に入るということが前提だということですよ。

◎鮎川委員 そうですね。

◎武藤委員長 ではこの部分はこれで、第3段落、第4段落については、もう一度後ほど戻るということで、よろしいですか。ではどうぞ。

◎鮎川委員 質問してよいですか。

◎武藤委員長 はい、どうぞ。

◎鮎川委員 この中の最後の意義のところ、「参加と協働で推進することが必要になる」とありますが、この主語は何になるのでしょうか。これは「行政が」ではなくて、市民、「私たちが」という理解でよろしいのでしょうか。

◎淡路委員 そうです。もっと正確に言えば、「一層」の前に、主語をつけてもよかったかなと思っているんです。はっきりさせるために。主語を1回しか使っていないので、3行目に「私たちは」と言ったきり、ずっとまだ前提でやっているんですが、最後の6行は意義のところなので、ここで改めて「まちづくりを、私たちの一層の参加と協働で推進する」と入れてもいいかなと思ったんです。そういう意味でちょっと主語が途切れていると感ずるかもしれませんね。

◎鮎川委員 文章としてというのではなく、自分の理解のためにお伺いしたかっただけなので、文章として入れたほうがよいとか、そういう意味ではございません。

◎淡路委員 意味はそういう意味です。

◎鮎川委員 はい。

◎三橋委員 多分、1回通してみると、文体とかあとはこの主語述語ですか、例えば1行目も、基本構想は策定しますとなっています。基本構想は普通であれば、策定されますとか、私たちは策定しますとかという形で、一個一個細かいところと検討する必要があるとは思いますが。人

によって書き方とかが変わってくるところがあるので、最後、全体を通してだれか事務局でもいいですし、委員長でもいいと思うので、直したほうがいいかなと。ちょっと今このところで一個一個そういうところを細かく見ていくと、また時間が幾らあっても足りなくなってしまうので。

◎武藤委員長 では次の基本構想の枠組みのところに行きたいと思いますが、このところでは事務局から説明を受けて、事務局から数字が細かいのではないかという意見が出ましたけれども、確かに基本計画の記述だったらいいんですが、基本構想としてはちょっと細かいかなとは思いますが。どちらかという現状がわかるような、あまり細かくしないでつくり直していただくという以外にないかなと思うんですけど。

◎事務局 わかりました。ちょっと確認なんですけれども、現状をここに書くことに、若干個人的には違和感があったりしないでもないんですが、委員の皆様方に違和感がないとなれば、ここに現状は書いて、将来に向かう方向性の部分はどこか別に書くという理解でよろしいのでしょうか。

◎武藤委員長 そうなりますね。

◎渡辺委員 だから枠組みというのは、変えようがないところですからね、10年間通して。

◎事務局 はい。

◎渡辺委員 現況というのは、変えられるようなものであっても、現在こうなっている、そして将来こうしましょうと、3段階ありますよね。枠組みという言葉を使うんだったら、元来変えようがないことを書くべきだと僕は思っているんですけど。

◎三橋委員 3章のところでは現状と課題と書いているので、そのところで財政の話とか、若干土地利用にもかかわってくる場所もあるので、それを踏まえてまたフィードバックしてもらえたらなというところはあるんですけど。

◎事務局 そうすると、理解としては、とにかく現況について数字が細か過ぎるので、それを外した傾向がわかるような文章として修正する。それが枠組みなのか、現況に当たるのかというのがあるので、それは第2章に持っていくか、第3章に持ってくるかは、全体を見たところで調整をするということによろしいでしょうか。わかりました。

◎淡路委員 それで1つですけども、この章の位置づけをはっきり書いたほうがいいかなと思うんです。すぐ本文に入るの、市民の方は、見ていてこれは何のために書いているのかなというところの思考のフレームワークをきっちりつくってあげないと、数字の羅列なので、これはこういう意味なんだ、こういうふうに使えよという。ほかの文章もみんなそうなっているんですが、そこに二、三行入れたほうがいいかなという感じはします。すぐフレームワークの議論になるでしょう。だから、こういう意味ですよというのを2行ぐらい入れてね。

◎事務局 それは、基本構想の枠組みの(1)の目標年次の間に二、三行必要だということですね。

◎淡路委員 そうそう。

◎事務局 わかりました。

◎渡辺委員 基本構想の目的、策定意義・役割というところは、タイトルを読むとわかるんですよね、このところは記述がなくても。

◎武藤委員長 ここはね、はい。次のところは、枠組みという言葉についても、基本構想を考えていく上での前提となることだというわけです。まずは目標年次が10年間で考える、5年5年で考えますよということであったり、それから人口については大きく変化しないけど12万人くらいになるでしょうという予測ですよね。それから土地利用も、ここまで細かく書かなくても面積がこんなに小さいところで、緑地はこのくらいで、公園がこういうふうに占めていてとか、野川が縦に流れればいいのか、そういうことはもう変えられないわけですから、今ある現状という意味での目標年次、人口予測、土地の現状、財政の状況と、何か課題に移る前の基本的な前提のようなものを書いていくということで。そんなに長くはなくていいので。それで3章のところでは、課題につながるような現状を書くからだと。これはそっちが難しくなってきましたね。

では次に、社会潮流と小金井市の現状、3章のほうにいきたいと思いますが、よろしい……。

◎玉山委員 今のって、ひょっとして前回の起草委員会で配られました？

◎三橋委員 いや、前回の審議会です。

◎玉山委員 審議会なんですか。何番でしょう。

◎事務局 62です。

◎玉山委員 61と62は、私の手元にはないんですけど。

◎三橋委員 いや、62ですね。

◎武藤委員長 61、62……、あ、62ですね、今のは。

◎事務局 それで、資料62は第2章の部分だけをお配りしたんですが、今打ち出されているものは1章から4章まで続けて打ち直したものなんです。

◎武藤委員長 3章にあってよろしいですか。では3章にいきたいと思います。社会潮流と本市の課題……。

◎事務局 すいません。

◎武藤委員長 はい。

◎事務局 間が悪くて申しわけないですが、基本的に財政についての記述は、おおむねあのようなもので、また、全体を見直したところで手が入るかもしれないぐらいに見ておいてよろしいと。そうしたら、位置づけのところと、土地利用の現況のところについて、事務局として考えてみたいと思いますので。

◎武藤委員長 細か過ぎるということでしたら、もう少し基本的な前提としての状況ですね。

◎事務局 ありがとうございます。

◎武藤委員長 では、次は3章のところですが、社会潮流で、ここは三橋委員から……。

◎三橋委員 今日の資料の5番です。

◎武藤委員長 今日の資料の5番ですね。全部つくっていただいて、これはもう入っているんですね。そこに入っているのがこれですね。わかりました。じゃあ、今日配られたばかりですから、読んでいきましょうか。どなたか読んでいただけますか。

◎事務局 三橋委員の資料ですよ。

◎武藤委員長 うん。じゃあ三橋さんから説明をしてもらえますか。

◎三橋委員 わかりました。1番の前段のところは、市の素案と変わっていないと思います。

「社会を取り巻く環境は大きく変化しています。このような社会潮流を認識した上で、将来の本市のまちづくりを進めていきます」というところで、1つ目は、少子高齢社会の進行で、これは「人口減少社会」も入っていたんですけども、すっきりさせるという意味で、「人口減少社会」は除いています。

若干この部分だけ長くなってしまっているのは、本文のところの網かけ部分が人口減少社会のことを書いているからなんですけど、「我が国の合計特殊出生率は、平成19年で1.34と先進国の中でも最低レベル、高齢化率は平成20年現在で22%と過去最高を更新し、2055年（平成67年）には、40%を超えるとも予想されています。同時に国全体では出生数が死亡数を下回る人口減少社会が既に到来しており、福祉・教育・労働・社会保障などあらゆる面での影響が懸念されています。一方で、団塊の世代の大量退職や高齢者の増加による新たな需要の創出や地域社会の担い手の役割も期待されています」。

4行目ですが、「あらゆる面での影響が懸念されています」の「影響」は強いかなと思ったんですが、これは基本計画のところでも使われている文言なので入れさせていただいているのと、少子高齢化社会の進行といったときに、単純に悪い面だけではなくていい面もある。新たな需要の創出や地域社会の担い手の役割ということで結ばせていただいているところがポイントです。

次の安定成長……、こんな感じでいいですか。

◎武藤委員長 じゃ、1つずついきますか。でも、「懸念されている」という表現がちょっと気になるんですけどね。

◎三橋委員 強いといえば、確かに僕も最初は強いなと思ったんですけど。

◎武藤委員長 もう最初からマイナスの評価をしているような感じがしちゃうものですから、影響があるというだけで、いい影響もあるし、悪い影響もあるしということ。長生きして悪いことはないんですから。「あらゆる面での影響があります」ぐらいでどうですかね。

◎玉山委員 「影響が考えられます」とか。

◎武藤委員長 「影響が考えられます」。ま、それはどちらでもいいですが、「懸念されている」と最初から懸念しないで、みんな長生きしていいことだというふうに、積極的に考えたいと思うんですけどね。

◎三橋委員 じゃ、文言を考えさせていただいて。「影響が生じています」でもいいし、何か考えます。

- ◎淡路委員 それと2055年まで……、これ、55年を入れた理由は何ですか。
- ◎武藤委員長 2055年、今は2009年、2010年。
- ◎淡路委員 これは10年の計画だから、そこは何かしんしゃくしたほうがいいかなと。
- ◎三橋委員 そうですね。これも、大分前に書いたんですけど、この数字の大きさを踏まえて、この後の施策をいろいろ考えなきゃいけませんよという意味で、市でも使っている表現だったんです。これは単純に人口動向、社会人口……、あ、ど忘れしちゃった、あそこの数字で、その中位推計ですので、ここのところをあえて言う必要がないということであれば、別に取ってしまうのも1つかなという意味で網かけをかけています。
- ◎淡路委員 両方大事だと思うんですが、こんなに先だとまた政策が変わって、増えていることもあるから、推測できる妥当な範囲で数値を入れたほうがいいかなと。
- ◎三橋委員 そうすると、正直なところ5年、10年だとあんまり大きくインパクトを、見られないんですよ。だから、そういうふうを考えるのであれば、入れなくてもいいのかなという。むしろ、前に事務局のほうからも話があったとおり、平成35年で小金井市でも人口減少するとか、幾つかポイントはあるんですけども。
- ◎淡路委員 そっちはミクロでやるんでしょう？
- ◎三橋委員 そうですね。そんなにここで問題じゃないということであれば消しちゃいましょうか。
- ◎武藤委員長 だからここは、「22%と過去最高を更新し、長期的にはこの傾向が継続すると考えられます」。しかし、目標年次の2020年前後ではこうだといって、この10年間はそれほど大きな影響はまずはない。その先の10年後に大きく変化するのを今から準備するのはなかなか難しいですよ。そういう記述はどうですか。
- ◎三橋委員 了解です。あとは、どちらかというところのバランスの中で、少子高齢社会の進行だけ、人口減少社会というのが少し大きな話であったので、あえて量が多くなっちゃったんです。だから、減らすといたら今のところを削ってもいいかなと。これも後ほど相談させていただいて。
- ◎渡辺委員 だから、今言ったあそこを全部消しちゃって、「長期的にはこの傾向が継続されます」と。それで、次の「福祉・教育・社会、あらゆる面での影響があると考えられます」。
- ◎三橋委員 そうですね。
- ◎武藤委員長 じゃ、次、ここの4つの説明をお願いします。
- ◎三橋委員 はい。安定成長のところ。ここもタイトルが難しかったのですが、よくあるのは経済情勢とか経済構造という言い方なんです。経済構造だと大き過ぎて、経済情勢だとどちらかというところと景気をイメージするような表現なので、ここでは成長率が鈍化している。鈍化というのもあまりいい表現じゃないなと思ったんで、安定成長。特に、安定成長下の中でどういった成長戦略、今までとは違った成長戦略が求められているよというところなんです。それをイメージしたくて言っているんですが、タイトルが弱いかなとは正直思っているところです。

中身としては、「経済の成長率は90年代以降の平均で約1%、今後も右肩上がりの高成長経済を見込むことはできず、持続的成長を目指していく経済構造の中で、新たな価値を創造していくことや雇用の安定などが求められています」というふうに、さらっと書いています。

次が価値観の多様化です。これも市民活動の活発化とか市民ニーズの多様化とかいろんな言い方はあるし、包含するところがあるんですが、あくまで社会潮流ということで、一番大きな意味では価値観の多様化かなと広くとっています。

「グローバル化により社会経済活動が地球的規模で展開され、人々の生活が均一化・相対化する中で、個人の価値観やライフスタイルの多様化が見られます。また、社会貢献に対する意識の高まりや元気な高齢者の増加などにより、市民活動や地域独自の活動が活発化しています」。

環境問題の深刻化。こちらのほうも地球規模というのを除いて、身近なところによりフォーカスしたいという気持ちで、地球規模というのを取っています。

「より快適で便利な生活の」……、ごめんなさい、「を」が抜けていますね。「より快適で便利な生活を追及してきたことで、身近な自然が失われつつあり、森林の減少や大気汚染、温暖化などは、地球規模の問題となっています。地球環境を守り、次世代に引き継ぐために、廃棄物の抑制、リサイクルを進め、環境に優しい循環社会の構築に向けた取り組みが進められています」。

地方分権の進展。ここは上の4つを受けてという意味合いで、図をつけていたときはそういうふうな書き方をしていたので、受け方として「社会経済環境の変化により」というのを入れています。「地方分権改革は進展し、これまで以上に地方自治体の権限の強化・財源の拡充により、多様化する市民ニーズへのきめ細かい対応が期待される一方、財政健全化法が施行されるなど、自立した行政経営を行っていくことが責務となっています」。

◎武藤委員長 はい。以前の8項目を5項目にまとめていただいたということなんですが、もう一つ、第3段落と第4段落は、第3段落の淡路委員に書いていただいた外部と内部とか……、すいません、資料61です。社会潮流、社会経済環境の変化について触れているんですが、最初の文は少子高齢化、地方分権、経済不況というようなもので、次の第4段落は、「また、日本経済の見通しは不透明さを増し」という、この2つの段落は何か違った側面を持っていたんですね。

◎淡路委員 そうですね。ただ、上はマクロで下は特に小金井市に特化したミクロでやろうというフレームワークだったんで、それを反映しているということです。

◎武藤委員長 そういう意味で言うと、ここはみんなマクロですね。ここは社会潮流だから全部マクロでいいということになると、第3段落で1つにまとまるということですかね。

◎三橋委員 そういう位置づけで書いているつもりですけども。

◎淡路委員 だから51のほうをちょっと直さないと、決まればね。51は直さなきゃだめですね。

◎武藤委員長 地方分権の進展は、最近の状況でいうと、再度、地方分権改革推進委員会も見

直すとか言っています。でも、民主党も地方分権とは言っているので大きな流れは変わらないんでしょうが、現実的にこれまでの地方分権というのは、権限は幾らか来て、財源も三位一体改革で来たんですが、総額は抑制されて、これまで分権をよかったなと思っている自治体は意外と少ないんですよ。今度の地方分権改革推進委員会にほとんど期待はしていないんじゃないかと思うんです。

ま、いいですかね。

◎事務局 すいません、事務局ですが、安定成長だけ単語でとまっているので、「の進行」とか、安定成長の何とかがあるとわかりがいいかなと。

◎三橋委員 そうなんです、おっしゃるとおり。僕もそれをわかっていてなかなかいいアイデアがなかったので、もしあれば。

◎武藤委員長 じゃ、ここは日本社会の安定成長とか経済の安定成長とか。安定成長の持続…、安定成長は望ましいんですよ。

◎事務局 それもちょっと、安定成長を続けていると考えるか、部分的にはマイナスもあったので、今後は安定成長をきちんと確保していく戦略なりを描く必要があるという意味で、安定成長を確保していかないといけないという社会的な圧力が強まっているのかによって書き方が変わるんだとは思いますが。

◎三橋委員 根本的なことを言うと、社会経済環境というときに、これをすごく深刻にとらえてそういった書き方をするのか、善し悪し両面あるんだよという書き方をするのが一番の大きなポイントだと思うんですよ。正直、僕のほうは、両方の考え方があるよと少しにじませているところがあるんです。そこのところをどうするかだとは思いますが。

◎事務局 単純にほかの書き方に近い書き方をすると、多分経済成長の安定化とかなんだと思うんですけども、安定化という言葉に、いや、もっと厳しいよとかいうのが入ってくるので、文言の調整が必要なのかなと感じるんです。

◎渡辺委員 まず価値観として、安定成長でいいのかということはどうなんですか。急速成長をやらなくていいの、小金井市は。

要するにそれくらいのことがないと、安定成長だからこんな調子でいやということになるかもしれないし、これじゃまずいよ、もう少し発展させたいと、商工会とかいろんなところはそう思っているかもしれないです。

◎淡路委員 でも、これはマクロだからね。マクロというのは我々の意図はあんまり関係ないんですよ。だれでも共通に影響を与える要因。

◎渡辺委員 社会潮流ですか。

◎淡路委員 うん、ミクロは全然だめだけど。

◎武藤委員長 社会潮流ですから、日本の過去10年ぐらいの動きを総括するということなので……。

◎淡路委員 それで将来を見たときにどうかと書いてあるわけでしょう？

- ◎事務局　すると、経済成長の安定化ということになるのでしょうか。
- ◎三橋委員　成長の安定に特化しちゃいますよ。
- ◎淡路委員　「安定」と使うかどうかだね。日本全体がどういう方向でいくのかということですよね、分析した結果。
- ◎渡辺委員　まず社会の成長だよ。経済のほうも、すべてだけど。成熟化しているわけでしょう？ 成熟社会化しているわけでしょう。だから、これ、何だろうね。
- ◎武藤委員長　経済、社会の成熟化ですかね。
- ◎渡辺委員　要するに、安定成長というところごくパッシブだけど、成熟化というところが質が高くなる、成長はないけど質はよくなるという離れている感じですよ。
- ◎武藤委員長　そうですね。経済、社会の成熟化。
- ◎淡路委員　社会は価値観の多様化のほうで対応しているんですよ。
- ◎武藤委員長　そうか、経済の成熟化か。
- ◎淡路委員　そうそう、経済成熟化。あ、成熟化だ。
- ◎事務局　すいません、また関連して質問したかったんですが、三橋委員はあえて要らないというお考えだとは思いますが、お考えの中では、淡路委員に前にご提出していただいた人口、自然、社会、政治、経済、技術というフレームで見ていくんだということだったので、最初に（人口）と入れて、「（人口）少子高齢社会の進行」みたいに書くか、逆に「少子高齢社会の進行（人口的側面）」とかでもいいと思うんですけど、そういうのを明示するかとかいうことなんですけど。その辺は、とりあえず……。
- ◎淡路委員　この分類がそうになっているよね。これは技術を除いて全部踏まえているんだけど、これを見て市民の方がわかるかどうかということだね、その分類を。
- ◎事務局　はい。だからラベルをつけたほうが……。
- ◎淡路委員　いいのか、注釈したほうがいいか。
- ◎事務局　側面ごとに見ているんだというのがわかるのでつけるか、かえってこんがらがるのでなくすかというところなんだと思います。すいません、事務局的にはタイトルがある程度固まるとありがたいなと思っているもので、今の方向性だけをご確認したいんです。三橋委員はあえて書く必要はないと多分お考えなんだと思うので、それを確認したかったんですけど。
- ◎渡辺委員　ちょっとよろしいですか。安定成長というタイトルは中身から決まると思うんですけど、前段のカンマまで見ると、これは現状認識ですよ。それで、「新たな価値を」というところからみんな望むであろう潮流的な方向性を書いていると。これは「新たな価値を創造していくことや」というよりは、「創造することで雇用の安定とか質の高い生活を実現していく」とかいうほうが、ポジティブな表現になるんじゃないかという気がするんです。
- ◎三橋委員　そうですね、わかりました。
- ◎武藤委員長　具体的にどういうふうに直せば。

その画面をもうちょっと大きく、いっぱいぐらいまで広げてもらえますか。横はまだ余白あ

るでしょう。どこだろう、画面の表示か。表示の大きさを120%ぐらいにするとか。あ、そうですね。

◎渡辺委員 グラデーションはないほうがいいんだけど。

◎淡路委員 なくてもいい。

◎武藤委員長 うん、グラデーションがあると字が見づらくなっていますね。美しいんだけども見づらい。後から入れることにして、なしで。そうですね、そこで。

経済の成熟化のところですか。

◎渡辺委員 前段までは問題なくて、「新たな価値を創造し」——新たな価値を創造しない限り成長はないですから、「雇用を安定するとともに、生活の質を向上、充実していきます」とか。

◎三橋委員 「生活の質」ですね。

◎武藤委員長 「雇用の安定を」、何でしたっけ。「新たな価値を創造していくことや雇用の安定」……。

◎渡辺委員 「創造していくことや」というか、これが原因になって。

◎淡路委員 なって……。

◎渡辺委員 だから、「創造し、雇用の安定や」——まず雇用の安定を図らないとどうしようもないわけですから、「雇用の安定を図り、生活の質の向上を図っていきます」とか。そうすると、安定成長の中身が出てくる。

◎武藤委員長 施策の方向は入らないんだよな。

◎三橋委員 潮流なので、「図っていきます」という施策的なところは「求められます」といったような述語の感じだとは思いますが……。

◎武藤委員長 「生活の質の向上を」……。

◎渡辺委員 いわゆる皆さんの社会潮流の認識としてはそう。

◎三橋委員 そういうことですね。ええ、了解です。

◎武藤委員長 順番はどうでしょうか、安定成長と価値観の多様化と。価値観の多様化を上を持ってくるほうがいいかなという気がするんですけど。少子高齢化の進行、価値観の多様化、安定成長と環境。成長と環境はある意味で一体化するものですよ。

◎三橋委員 少子高齢社会の進行というのがやっぱり1番なんですよ。小金井市の場合、常にこれが1番に来ているなど思ったんです。一般的には経済のほうがでかかったりとかいうのがあるんですけど、まず少子高齢化が1番ですか、市にとってみると。

◎渡辺委員 安定成長と質の充足。

◎武藤委員長 自治体の政策で一番影響が強いのは、やっぱり価値観の多様化でしょうね、政策に影響を及ぼすという意味では。価値観が多様化し……。

◎渡辺委員 政策がバラエティーに富むわけですよ。

◎武藤委員長 うん、政策の。安定成長とかは、小金井市自体が成長で寄与していないとは言

いませんけれど、何か寄与しているというわけでも。少子高齢化も、それほど小金井市自体には大きな影響がないわけですよ。やっぱり生物多様性じゃないですが、一番最初に持つてくるのは価値観の多様化かなと個人的には思いますけれども。

◎三橋委員 ここも難しいんですよ。

◎鮎川委員 どれが最初かよくわからないのですけれども、少子高齢化、人口というのは行政にとって大きな問題で、やはり収入とかにも直接かかわってくる部分なので、それなりに大切かなという気がします。

多様化が1番とおっしゃる説ももちろんとは思いますが、労働力ですとか、収入ですとか、学校なども含めて施設ですとか、いろいろなものがありますよね。そのあたりで、年齢による割合や全体の人口などはかなり、長期で見た場合、市の大切な部分かなとは思いますが。

◎武藤委員長 はい。別にそこで対決することじゃないので。

◎鮎川委員 すいません、私も決して……。

◎武藤委員長 もちろんそれでいいです。少子高齢化で、価値観の多様化を2番目にして、安定成長を3番目で、環境問題の深刻化、経済の安定と環境問題の役割は相当かかわります。

◎渡辺委員 今回の、経済の安定化という表題の……。

◎武藤委員長 経済の成熟化。

◎渡辺委員 経済って成熟するんですかね。

◎三橋委員 成熟という言い方も……。

◎渡辺委員 社会、文化は成熟するけども。

◎三橋委員 なるほどね。

◎渡辺委員 だから、僕は経済の安定化と生活の質の充実とか何かで。経済は成長しなくても生活の質は上げられるでしょうということですよ。

◎淡路委員 ここは経済だけでいいんじゃないですか。

◎武藤委員長 うん、経済だけのほうがいいような気もするんですけどね。なぜかという、どちらかというそれは方向性とかのほうにかかわってくるので、ここも……。

◎渡辺委員 じゃ、経済の安定成長。

◎武藤委員長 そう、考えてみたら、生活の質を向上させていくことが求められているという方向性が出ていますよね、社会潮流というよりも。

◎渡辺委員 ええ。僕が言ったのは、みんながそういうふうに感じているという意味で、社会潮流かなと。だから「雇用の安定を図り、生活の質の向上などが求められます」というのがいいのかなと思いますけどね。

◎武藤委員長 求められているようなこと、あるいは向上させること、求められていることが1つの社会潮流だということなんですよ。

◎渡辺委員 価値観の多様化の前文、これが理由で価値観の多様化が起きているんですかね。むしろ、みんな衣食住がそれなりに足りてきたから、価値観が多様化しているんじゃないかな

と思うんだけど。地球規模の経済活動だからライフスタイルとか価値観などが多様化しているというのは、何となくぴんとこないんです。それから、生活が均一化・相対化するから価値観が多様化してきている……。

◎三橋委員 ちょっとここは難しいですかね。一般的に均一化・相対化が進んでいくと、自己のアイデンティティーを求めるといような意味合いで、どこだっけ……。

◎渡辺委員 そうすると、2番目の「人々の生活が均一化・相対化する中で、自己のアイデンティティー」、そこまで入れなくてもいいけど、それであれば何となくわかるけど。

◎三橋委員 「社会経済活動が地球的規模で展開される中、自由時間の増大、生活水準の向上も相まって」という表現も入っていますね。それで、「市民の価値観や生活意識が大きく変わってきています」なので、「自由時間の増大や生活水準の向上なども相まって」というのを一言入れるのも1つかなとは、今の趣旨を踏まえるのであれば。

◎渡辺委員 うん、何となく。どうしますか。

◎武藤委員長 具体的にどこをどうということですか。

◎三橋委員 人々の……。

◎武藤委員長 「人々の生活が均一化・相対化する中で」というのは、なかなか難しい表現ですね。均一化し相対化するって、一方では格差社会とかいう表現も出てきていますから。

◎三橋委員 ああ、なるほど。じゃ、そうしましょうか。ここで「生活水準の向上や」とかで。「生活水準の」……。

◎武藤委員長 グローバル化によって、いろんな世界の文化が近いものになってきたということはあるよな。それから外国人が住んでいるということも、やっぱり多様化につながっているところはあると思うんです。だから、このグローバル化により経済活動が地球規模で展開されるということによって、みんなが同じPCを使うようになってしまったとかいうことは、むしろ多様化よりも独占化とかいう動きのほうが強いかなと思うんですが、外国人も住んで、イスラムの人たちもあるし、イスラムの寺院も日本にある、インドのヒンズー教の寺院も日本にある。在日外国人の人たちも文化をどんどん成熟させているというような国際的な価値観の多様化と同時に、小金井市の中でも、例えば子育てについても昔は学校に任せておけば安心というところが、もう少しいろんな、多様な価値観が出てきて、子育ても1つの、小金井のこきんちゃんの育ち方だけじゃない、こきんちゃんの兄弟もいるし、友達もいる、多様な子供たちがいるような価値観もある。あるいはお年寄りの介護も、かつてのような1つのパターンだけじゃなくて、多様な介護の仕方もあるしというような、そういう市民ニーズの多様化もこの多様化の中に含まれるわけですよな。

◎三橋委員 そうですね。要は、社会学的というか、経済でもそうなんですけども、一番最初は大量生産から始まって、それがどんどん地球規模で展開されていって、物事が均一化とか相対化すればするほど、人々は自分らしさとか自分のアイデンティティーを求めてきている。より広い情報化とかが進めば進むほど、そういったことを求めてくるというような、学説といっ

たらなんですけども、そういったものだというふうに理解を。それが市民にはなかなか難しいんで、そこまでこだわることはないなと今は思っています。

◎渡辺委員 例えば、今、委員長が言われた言葉で、「国際化、生活水準の向上、地域コミュニティの充足に伴い、個人の価値観やライフスタイルの多様化が見られます」というのはどうですか。

◎三橋委員 国際化ですか。

◎渡辺委員 国際化というのは、いろんな人種の人に来ていてその影響を受けるということですよ。

それから生活水準、要するに余暇がなきゃ多様化はできない。地域コミュニティの充足で、いろんな人の地域の間で会話ができて、こんな考え方もあるんだということ。

◎三橋委員 わかりました。「生活水準の向上」？

◎渡辺委員 「生活水準の向上」。いや、わかりませんがね。

◎三橋委員 「地域コミュニティの充足」という言い方がいいですかね。

◎武藤委員長 充足じゃないですね。「地域コミュニティの」……。

◎渡辺委員 「充実」はひっかかる。「コミュニティの活性化」？

◎永田委員 私の意識だと、喪失しているような感じがあるんですが。

◎武藤委員長 うん、むしろコミュニティ意識がね。

◎三橋委員 「国際化と生活水準の向上」ぐらいでいいんじゃないんですかね。

◎武藤委員長 「生活水準の向上」、うん。

◎渡辺委員 確かに委員長が言われたのは、地域コミュニティということ自身が多様化の1つの側面だと言ったわけで、原因ではないわけですよ。

◎武藤委員長 そうですね、結果として、地域コミュニティの多様化。

◎三橋委員 それが下の、第4行目に「市民活動や地域独自の活動が活発化」という形になっているんで、原因ではなく結果として出てきているところですよ。

◎淡路委員 社会環境ですよ。1つは、国際的な影響を書こうとしているわけでしょう？

◎三橋委員 そうですね。

◎淡路委員 多様化につなげる立場で。それともう一つは国内的な事情だよ。国内で何がキーワードかと。今までの話で、格差とか諸条件における違いとか、昔みたいにお父さんがいてファミリーがあって何かという社会ではだんだんなくなっているんですよ。格差が出たり地域バランスが崩れたり、価値観が前よりもばらけてきている中でどういうふうな政策を打っていくかという意味の多様化もあるかなと。だから、それに充当する単語があると、それで新しい価値観やライフスタイルの多様化があってもいいかなという気がするんだけど。国内的な事情の多様化。

◎渡辺委員 核家族化ですか。

◎淡路委員 いや、もっと。すごく、ここは深刻なほうの多様化が。

- ◎渡辺委員 核家族ってすごく深刻な……。
- ◎淡路委員 いや、深刻なんだけど。何なんだろう。この前……。
- ◎玉山委員 玉山です。昔より個々の意識が強まっているという印象はあります。
- ◎淡路委員 うん、個々の意識ね。
- ◎渡辺委員 そうのことだよ。
- ◎玉山委員 うん。ひとり暮らしの人が、核家族というより一人世帯も増えていることが。
- ◎淡路委員 そういふことの対応課題がね。
- ◎武藤委員長 そうですね。ひとり住まい、お年寄りの単身が増えて、若者も単身になっているから。
- ◎玉山委員 お年寄り、うっとうしいから家族とは住まないという方もじわじわ。
- ◎淡路委員 個々の社会環境とか生活環境が非常にばらけてきたという意味の多様化でね。それはいいのか、悪いのかちょっとわからないんだけど。
- ◎三橋委員 それは何ですかね。なぜ個人のほうになっているんですかね。
- ◎渡辺委員 地域コミュニティーの分断ですね。
- ◎武藤委員長 コミュニティー意識の希薄化。
- ◎玉山委員 あと、やっぱり三橋さんの書いたグローバル化によって世界中の価値観が入ってきているから、好き勝手にチョイスができるように、許される範囲でしてきたのが原因でもあるのかなと思うんです。
- ◎三橋委員 そうすると、今回は社会潮流の中で市民活動の活発化が1つ入っていたと思うんです。だからそのところは、逆にいえば潮流としては違うんじゃないかという意見のほうが強いという感じですかね。
- ◎事務局 よろしいですか、事務局です。事務局というより個人的な感想みたいなことですけど。
- ◎武藤委員長 どうぞどうぞ。
- ◎事務局 三橋委員の書き方でいえば、要は価値観の多様化にはいい側面も悪い側面もあるということで、いい側面は自己実現等を求めて市民活動とか地域貢献とかを考える人も増えてきている。70年代、80年代的な、会社への滅私奉公だけでない働き方とかがあるということだと思っんです。また、家庭を支えるとかだけでない。
- ただ一方で、今若年層の貧困化とか高齢者の貧困化とかも統計上で指摘されているような事態だと思いますけども、淡路委員がおっしゃったような社会生活的な形態が、文字どおり個別化・多様化してきてしまっているという面もあるということだと思っんです。だから、市民活動についてもプラスの側面としては書けるんじゃないかを感じるんですが、いかがですか。
- ◎武藤委員長 市民活動についての何が？
- ◎三橋委員 プラスとマイナスの両方があるということですよ。
- ◎事務局 プラスの側面に入ってくるだろうと考えられるんですけども。

◎三橋委員 ただ、要因として書くにはちょっと難しいですね。結果として両方あるというならともかくとして。

◎淡路委員 自立と離散が混在しているんだよね、今。片方で自立的な人も生まれているんだけど、片方でばらけている。だから協働という形で、後で出てくると思うんだけど、それをうまく表現できると。

◎武藤委員長 だから伝統的な町内会型のコミュニティ意識はどんどん薄れているんですが、市民活動型の、テーマコミュニティと言われるんですが、テーマ型の地域意識というのは広がっているとも言えるので。

それからもう一つそこに出てくるのは、重要なのは、個人の、ちょっとおしょうゆが足りないとか、みそが足りないとかで隣のうちに借りたのが、全部コンビニで足りちゃうようになってコミュニティが不要になってきたんですね。コンビニがいけないんじゃないかと私は思っているんですけど。

◎淡路委員 これ、三橋さん書けるんじゃない？ もう書けますでしょう？

◎三橋委員 書けますけどね。

◎武藤委員長 そうですか。いや、ここで直しちゃいましょうよ。

◎淡路委員 ここで直します？

◎武藤委員長 どうですか。「コミュニティ意識の希薄化」は、ここに入れるのはどうかなと思うんですけど。

◎渡辺委員 価値観の多様化ですものね、これは。

◎武藤委員長 うん。国際化という言葉とグローバル化のどちらがいいかなんですけど。

◎渡辺委員 グローバル化というと、すぐ経済とか情報というあれになりますよね。

◎武藤委員長 そうですね。国際化というと社会的なものも含んでいますね、文化の国際化とか。どっちのほうがいいか。

◎渡辺委員 でも、価値観の多様化というのはポジティブな話しかないですよ。さっき言われた、個我で分断されていると。独居老人が孤独死しているとかいうのは、また別な社会の潮流といたらいいんですかね。

◎武藤委員長 確かに価値観の多様化ではないですね。

◎淡路委員 それはタイトルが間違っ……。

◎渡辺委員 むしろ価値観の多様化はこれはこれでまとめて、起こすなら何かまた起こすかどうかということですね。

◎三橋委員 多様化自体には、ポジティブもネガティブもないと思ったりはするんですけども。

◎淡路委員 確かに、それで政策を打つんだから。だから、ありのままの潮流を書く。10年前の潮流と、今の、これからの潮流は違うと思うんです。10年前は、右肩上がりですべてよくなるという潮流だったんですが、今はよくなるものもあれば悪くなるものもあると。その中でどういう政策を打っていくかという意味で、多様化の意味も両面かなという気がします。

◎三橋委員 そうですね。あえて書かなかったんですけど、個性とか女性の自立とか、よく使われるのはそういったところなんですよね、価値観の多様化の中に入ってくる場所。だからちょっと、そうするとまた違った議論が出てくるんで、もしかしたら個の自立とか個性の尊重とかいった表現を入れてもいいのかなと思った次第なんですけども。

◎武藤委員長 じゃ、ここはそのことも踏まえて文章をつくってもらいたいということにしますか。ここではなかなか難しいので。括弧して、「(三橋さんの素案を待つ)」とかで。

◎三橋委員 ま、これぐらいはそんなに時間かけずに。多分いろんなところで同じ使ったような表現があります。

◎武藤委員長 そうですね。じゃ、今日の昼休みに。

◎三橋委員 いやいや。ちょっと使われている表現とかを調べてみます。

◎武藤委員長 はい。環境問題の深刻化は、今の人類が直面している大きな問題ですからこれでいいでしょう。

◎淡路委員 委員長、1行目の言葉なんですけど、より快適に便利な生活を追及したことで自然が失われつつあるということでした。これだと、下の文章から振り返ると上のことはあんまりよくないというふうになっているんですが、この「快適」というのはいろんなところで、おそらく小金井市は小さな町で、コンパクトな市で快適な町という言葉がそこら中で使われると思うので、ここで否定的な言葉で使われると。

◎武藤委員長 なるほど、そういうこと。

◎淡路委員 後で大変なことになって。僕は、ほかの団体の代表もしているのだから。ちょっとそんな気がしましたね。

◎武藤委員長 それはそうですね。

◎渡辺委員 僕は快適といったらエアコンを思い出します。だから、むしろ「過剰追求」とか、そっちがいいんじゃないの？

◎三橋委員 過剰。

◎武藤委員長 でも、そうしたらこれまでの経済活動の結果とか、経済活動だけではないと思いますけど……。

◎渡辺委員 でも快適で便利な生活を追求してきたのは消費者ですからね。

◎淡路委員 これは別に悪いことじゃないのでね。ただ、後ろの文章が自然につながっているから。

◎三橋委員 追求すること自体は悪いことじゃないんですよ。ただ、そこから引き起こされた一要因として、環境問題が出てきたことも事実ではあると思うんですけども。

◎淡路委員 ま、「快適」だけなんですけどね。

◎永田委員 環境問題の地球規模化なんていうのは昨今の潮流のほうがはるかに、主張自体が昨今の主張ですよ、どっちかというと。私、個人的には、やっぱり途上国が発展することの負の要因がでかいと思います。

- ◎三橋委員 それはそうですよ。でも、それに……。
- ◎永田委員 書き方がちょっと、そうすると何かひっかかるんですよ。
- ◎三橋委員 いや、ただそれを言うてしまうと、それは先進国と途上国の対立みたいな話になってしまうんで、我々の周りの社会潮流というふうになってくると、大量生産とか消費とか、過剰なライフスタイルの無駄が多いような、まさにコンビニでご飯とかを捨てているような、ああいった状況ですよ。
- ◎武藤委員長 賞味期限の切れたものをいっぱい捨てますよね。
- ◎三橋委員 切れたようなやつとか、エアコンをがんがんきかせたりとかをどういった表現にするかというときに。
- ◎渡辺委員 例えば、20世紀型の経済活動の結果としてとか、市民は出さないと。
- ◎永田委員 工業化の進展みたいな話なんですよ。
- ◎渡辺委員 ま、そういうことです。
- ◎永田委員 結局、三橋さんはそうやって言われるんだけれども、大気汚染、CO₂にしても、結局7割が先進国というよりもアメリカと中国、ロシアと特定の国に固まっちゃうわけです。これからインドも高くなってくるでしょうし。日本がそこに寄与しているかということ、ほとんど寄与していなかったりするんです。だから、その辺がひっかかってはくるんです、個人的に。
- ◎三橋委員 その気持ちはよくわかります。じゃ、そうすると何で鳩山さんは25%と言ったのかというね。
- ◎永田委員 それはもう、先導するという。
- ◎三橋委員 そういうことですよね。それを含めてという感じの意味です。
- ◎玉山委員 「身近な自然」の前に「一方で」と入れてみると。私たちが快適を目指してきた一方で、言葉にはしなくても負の部分としてこういう現象も社会潮流としてあるということだと思っんですよね。
- ◎武藤委員長 じゃ、ここはまとめちゃったほうがいいですよ。「20世紀型の生産というふうに、より快適で便利な生活を迫ってきた一方で、身近な自然が失われつつあり」……、「一方で」を入れて解決というのがよさそうですが。
- ◎玉山委員 ちょっとファジーになりますよね、つながりは。
- ◎三橋委員 じゃ、「一方」ぐらいですか。「で」は要らないかな。
- ◎武藤委員長 「より快適で便利な生活を迫ってきた一方、身近な自然が失われつつあり」、そうすると、そこは追求してきたからいけないんだという話になって、一方で追求、他方で自然が失われるという、切り離せられますよね。
- ◎玉山委員 どっちも大切。
- ◎武藤委員長 そうですね。こうなると別に、快適な生活をしてきたから、それが直接的に自然破壊につながったという感じじゃなくなりますね。
- ◎玉山委員 全くイコールではなくて。

- ◎武藤委員長 じゃ、これでどうですか。「一方」を入れて。
- ◎淡路委員 「追及」は使う？ いい意味でしたっけね。
- ◎武藤委員長 これは人を追うほうですね。
- ◎淡路委員 追い求める、追い求めてきたか……。
- ◎三橋委員 ああ、そういうことですか。
- ◎淡路委員 いや、何かここもほかの単語があったらいいかなという語感の感じですね。
- ◎武藤委員長 より快適で便利な生活を……。
- ◎渡辺委員 「キュウ」は求めるなんです、及ぶじゃなくて。
- ◎武藤委員長 及ぶじゃなくて求めるか。
- ◎三橋委員 あ、ごめんなさい。
- ◎淡路委員 辞書引いて語源を探せばいいね。何か「追及」だと、非常にこう、なるんで。
- ◎玉山委員 一心に目指してきた意識が強過ぎるというか。
- ◎淡路委員 ま、そんな程度ですよ。
- ◎渡辺委員 「地球環境を守り、次世代に引き継ぐために」、ばくっと、ほんとはやらなきゃいけないことがたくさんあると思うんだけど。「廃棄物の発生抑制、リサイクル、循環」、こんな程度のことじゃ次世代に引き継げないということがあると思うので。だから、新たな産業の枠組みをつくるとともに、我々市民としてはこういうことをやっていくというふうに、みんな感じ始めていると思うんです。
- ◎武藤委員長 確かに、廃棄物の発生抑制、リサイクルだけでは……。
- ◎三橋委員 そうなんですよね。
- ◎武藤委員長 産業構造の転換とか、産業における……、とにかく産業が一番問題なんですかね。
- ◎渡辺委員 つまりエコ型産業にするということですよ。
- ◎武藤委員長 そうですね。「地球に優しい産業構造への転換」ですかね。
- ◎三橋委員 産業を入れると消費のほうも入れたくなりますけどね。
- ◎武藤委員長 消費ね、うん。
- ◎渡辺委員 消費はその後でいいんじゃないの、リサイクルとか。
- ◎三橋委員 リサイクルで。それで廃棄物抑制を。
- ◎武藤委員長 そうですね、廃棄物のリサイクル。
- ◎淡路委員 「みどりが萌える」というのが後で用意されているんだけど、それとの関連は何か。自然のことはここ、これは環境、自然じゃないですか？
- ◎三橋委員 いや、自然も含めて。入れます。
- ◎淡路委員 自然も入れた環境ね。そうだよ。
- ◎三橋委員 「身近な自然が失われつつある」というところですね。
- ◎淡路委員 あ、そこで言っているんだね。

◎三橋委員 まさにそうなんです。地球環境問題だけじゃなくて、やっぱり身近なことのほうをより言いたいなというところがあるので。

◎淡路委員 いや、そのわりには産業廃棄物とかいう解決方法になっているので、もっと森を守る、みどりを何する、そういうのも1つあったほうがいいかなと。

◎渡辺委員 循環社会の構築……。

◎武藤委員長 それは方向性になっちゃいますよ。

◎淡路委員 うん、方向性になるんですよ、ちょっと。ここだけ方向性になっちゃう。

◎三橋委員 でも、それが求められているというような書き方でいいんじゃないですかね。「みどりを守り育てることが求められています」みたいな。

◎渡辺委員 「循環社会の構築及びみどりを守り育てることの」……。

◎淡路委員 ここだよね。環境に優しいの事例として挙げると。

◎武藤委員長 それから、順番としては産業構造の転換が前に来ないと。廃棄物発生抑制よりも前ですよ。わかります？ そこです、「産業構造の転換を引き継ぐために」、そこに入れていただいて、「産業構造の転換、廃棄物の発生抑制、リサイクル等を進め、環境に優しい循環社会の構築に向けた取り組み、みどりを守り育てる必要がある」……。「環境に優しい循環社会」の前ですか、みどりは。

◎淡路委員 みどりは最初じゃだめですか、産業の前の。

◎武藤委員長 みどりは最初のほうか。そこのところ、「みどりを守り育てる」……。

◎渡辺委員 「循環社会の構築及びみどりを守り育てることが望まれている」。

◎三橋委員 でも、それを一番最初に持ってくるべきだというお話ですよ。 「次世代に引き継ぐために、みどりを」……。

◎淡路委員 自然環境の保全？

◎三橋委員 ただ、みどりを守り育てることと同時に産業構造の転換という感じなんですよ。いきなりミクロからマクロよりは、マクロからミクロのほうが入りやすいなという感じはありますけど。だから、「引き継ぐために産業構造の転換、廃棄物の発生抑制、リサイクル等を進め、みどりを守り育てるなど環境」……。

◎武藤委員長 なるほど、「環境に優しい循環社会の構築」。じゃ、「みどりを守り育てると同時に」というのは……。

◎三橋委員 最後ですね。

◎武藤委員長 そうですね、そっちに持ってくる。「同時に」が前に行くんですね。「産業構造の転換、廃棄物の発生抑制、リサイクル等を進めると同時に、みどりを守り育て環境に優しい循環社会の構築に向けた取り組みが進められています」。

◎三橋委員 それとも「求められています」にする？

◎武藤委員長 「求められています」、そうですね。いいんじゃないですか。

◎三橋委員 最後、全体を通して何かあればという感じですね。

◎武藤委員長 では、次に行きましょか。(2)市の特徴と課題ですね、2ページ。ここを三橋さん、またお願いします。

◎三橋委員 はい。地方分権はいいんですね。

◎武藤委員長 地方分権はいいんじゃないですか。

◎三橋委員 じゃ、2番行きます。

◎武藤委員長 「自治体経営」とかいう言葉もありますが、いいですよ。どうですか、地方分権。

地方分権は行が変わっちゃった、次の……。

◎渡辺委員 これ、「行政経営」なの、「自治体経営」なの? 「自立した行政経営を行っていく」、自治体経営の……。

◎武藤委員長 枠が小さくなって、枠を広げるんですね、そこで。「自治体経営」がいいか、「行政経営」がいいか。経営というふうに言うか……。

◎渡辺委員 何か経営ってあんまり好きじゃないので。同じ意味だけどマネジメントとか。

◎三橋委員 僕は、別にそこはこだわりはないですよ。横文字がいいか……。

◎淡路委員 いや、マネジメントは管理と訳されたり経営と訳されたりしていますから、日本語のほうがいいでしょうね、はっきりさせたほうが。

◎渡辺委員 でも管理も含むんじゃないの。

◎淡路委員 うーん、管理。だから両方の概念になりますよね。とる人は管理ととったり、とる人は経営ととったりしてしまう。

◎渡辺委員 経営とやっちゃうと金勘定だけになるじゃないですか。

◎淡路委員 だからその発想をどうするかなんです。行政もそういう発想になっているんです。でもお金の問題は非常に大事なんですね、財政の問題は。税金をいかに有効に使うかと。それは、一応英語でいえばマネジメント、日本語でいえば経営と。小金井市の中に経営の概念も入れていくかどうかですよ。商店が商店経営をやっているのと同じようなことなんですけど。

◎渡辺委員 ああ、そういうこと。

◎淡路委員 うん。だから、金勘定なんですが悪いことでもない。

◎渡辺委員 だから、行政と限定しちゃうと、行政マンだけに任せるという感じがするんですが。自治体っていうとね。

◎武藤委員長 自治体経営というと、確かに市民の貢献みたいなものも入ってきますかね。行政経営というと行政組織の経営だけになるけど、自治体経営は自治体にいる市民も含む私たちの経営みたいな話になりますから。

◎鮎川委員 そのほうがいい感じですよ。

◎武藤委員長 自治体経営のほうがいいですね。

◎事務局 すいません、事務局なんですけど、「リツ」は行革とかでも「律する」のほうを使っているの、「立つ」よりも「律する」にさせていただけると。

◎三橋委員 そうですか。別にそれは。

◎事務局 整合がとれる理由もありまして。

◎三橋委員 すいません、ちゃんと見たつもりだったんですけど。

◎武藤委員長 あ、「自立した」か。「立つ」というのは経済的な意味だけですから、「律する」ほうが広がりますね。

◎渡辺委員 オートノマスという意味でいいと思ったんだけど。

◎三橋委員 あと、1行目の「社会経済環境の変化により」という言い方をするか、「地方分権改革の進展により」という言い方をするかというところで、要は地方分権の進展というのは、上の4つを受けて踏まえるべきものだというような見方で今まで議論してきたと思っていたんですけども、そういう理解でいいか、それとも地方分権ということ自体が、1つの独立した概念という形で考えるかというところなんですけれども。

できれば図をちょっと、もしも使えるんだったら、過去に資料の50幾つで前に出した図とかを載せたりしたいなとも思ったりはしたんで。これは将来的な話ですけど。

◎淡路委員 地方分権は政治、法律、環境要因の1つとして取り上げたんですよね。

◎三橋委員 そうですね。

◎渡辺委員 財政健全化法の施行されることなんか関係なく、小金井市は自律して自治体経営を行っていくと。つまり、この文章は要りますか？

◎武藤委員長 そうですね。財政健全化法は夕張とか、特に問題となっているのはそうですが、小金井はそういう意味での危機的な状況は乗り越えたということですよ。

◎渡辺委員 「期待される一方、自律した」って。この財政法というのは取っちゃったらどうかと。

◎武藤委員長 そうですね。それから私としては、見ていると地方自治のうち分権というのはやっぱり地方自治の充実で、「参加と協働」というのは自治の問題なんですよ。ただ、それは方向性……、先ほどからそういう動きがあることはもう大きな流れですので、「地方分権・地方自治の進展」とか。最初のタイトルのところですね。

◎三橋委員 タイトルですか。

◎武藤委員長 「地方分権・地方自治の進展」と。一応、「参加と協働」を地方自治とって、「地方分権・自治」、「地方」は要らないか。「自治の進展」とやるか。地方分権・自治の。地方は両方にかかるんだって言ってしまえば……。

◎三橋委員 すると自治の内容を入れなきゃいけないですよ。

◎武藤委員長 そうですね、「参加と協働」ですね。最初の意義と役割の中に入れましたので、じゃあ、「自律した」の前に「参加と協働」を……、この文章のどれだったっけな。この前直したんです。「参加と協働」のところは……。「一層の参加と協働で推進することが必要になります」という文章なので。

◎三橋委員 じゃあ、そういうふうにしましようか。

◎武藤委員長 そうですね。「多様化されるニーズが期待される一方」、そこですね。

◎三橋委員 「一方の」？ 「一層の」？

◎武藤委員長 「一層の『参加と協働』を推進し」、「一層の」だからちょっとおかしいか。

◎三橋委員 「参加と協働」をとめる……。

◎武藤委員長 「一層の『参加と協働』」……。

◎三橋委員 「の推進」ですか。

◎武藤委員長 そこは「一層の」をとるか。意義のほうに「一層」が入っていましたから、そこは「一方、『参加と協働』を推進し、自律した自治体経営を行っていく必要があります」。いいですね。よろしいですか。

では、次の2のほうにいきましょう。「市の特徴と課題」ですね。

◎三橋委員 ここはえいやというか、とりあえず書いてみたらどうかと。多分このところは人によってさまざまな意見が出ますし、身近な問題なので議論が百出するのではないかと思います。ただ、アプローチとしては社会潮流の話と、あと市民意向調査、あるいはデータブックですとか、市長への手紙ですとか、施策の大綱というものをかんがみつつつくってみたいところなんです。あとは施政方針演説といったところもいろいろと踏まえてはいますが、特徴としては大きく4つ挙げています。ポイントとしては上の3つです。

課題も5つ挙げていますけれども、これについても一個一個やっていきたいと思います。

まず(2)市の特徴と課題ということで、「私たちの住む小金井市には様々な特徴(強み)と課題(弱み)があり、まちづくりを進めていく上では、課題を解決しつつ、特徴を生かしたまちづくりを進める必要があります。その中から特に主要なものとして、社会潮流(や施策の大綱)を鑑み、第4次基本構想において踏まえるべき市の特徴と課題は以下のとおりです」ということで、この後の施策の大綱につなげていきたいなど。

①特徴(強み)として、「みどり豊かで閑静な住環境」。読んじゃっていいですか。

◎武藤委員長 はい。

◎三橋委員 「本市は野川、玉川上水や国分寺崖線、武蔵野公園、野川公園、小金井公園等、豊かな水とみどりに恵まれています。雨水浸透ますの設置比率は全国トップ、野川流域では都内で唯一の自然再生事業の指定を受けるなど、私たちはこれらの貴重な自然を守り育ててきました。また、市域に占める宅地の半分近くが第一種低層住居専用地域となっており、みどり豊かで良好な住環境を形成しています」。

「B. 便利な市内外へのアクセス。本市は中央線で新宿まで」、すいません、これは後で記載します。「何分という場所に位置し、約4キロメートル四方と入り組みが少ないコンパクトな地形となっており、比較的発達した路線バス網が整備されています。また、平成21年度中には、中央本線下りの高架化が完成し、踏切による慢性的な交通渋滞の解消や、鉄道により南北に分断されていたまちの一体化が実現する見込みです」。

「C. 元気な高齢者と充実した教育環境。本市における高齢者の就業率は何%と全国的にも高

く、シルバー人材センターの組織率は全国においてもトップクラスです。教育は学校教育のみならず、生涯学習を含めた地域や家庭との連携と努力により、社会全体で子どもを支える体制の整備を進めた結果、都内でもトップクラスの学力を誇っています」。この「生涯学習を含めた」というところは、施政方針演説のところからとらせていただきました。

「D. 活発な市民活動。小金井市内には平成19年9月末現在でNPO法人は56を数え、そのほかにも多くの市民活動団体等が様々な分野で活動しています。また、市と市民活動団体等との相互の連携・協力を進めるため小金井市協働推進基本方針を策定しています。市の重要な施策を実施するに当たっては、市民参加条例に基づき、住民参加による推進が実施されており、まちづくり条例・環境基本条例等の市民参加による制度づくりなどが進展しています」。これは意義と策定のところからとらせていただきました。

Cのところ、「こきんちゃん」の話をどこかに入れたいというところがあったので、それは後でまた相談させていただけたらなと思っています。特徴のところには何かあっていいかなと。すいません。書いていて後で気がつきました。ここまで一回議論します？ それとも……。

◎武藤委員長 全部やってしましましょう。なぜかという、施策の大綱の上のところにある「現況の課題と概要」というのが今度後半の中に出てきたんですね。そうすると、ここと大分重複するので、せっかく三橋さんがつくってくれたものですから、先に全部説明していただく……。

◎三橋委員 「A. みどりの保全と拡大・ごみ対策。第3次基本構想実施期間を通じて、みどりの保全と拡大を進めてきたにもかかわらず、市内のみどりは何%減少しました。全国で最も高い雨水浸透ますの設置比率も近年はほぼ横ばいで推移しています。これまでと同じ施策ではこれらの傾向を改善することは難しく、抜本的な対策が不可欠です。また、新ごみ処理施設の建設に向けた着実な取り組み、ごみ減量のさらなる推進、広域支援体制の維持は、市政の最重要の課題です。ご協力をいただいている関係自治体、各施設並びに周辺にお住まいの皆様から深く感謝すると同時に、広域支援先の御負担が少しでも軽減されるよう、ごみ減量・リサイクルに、引き続き最大限の努力を払っていく必要があります」。

◎武藤委員長 何かここで突然基本構想の文章じゃなくて、何かお願い文みたいになってますね。

◎三橋委員 ちょっと説明すると、まず1つが、強みを弱みを一体として書くか書かないかというところを後で相談させていただきたいということと、もう1つ、ここで市政の最重要課題として新ごみ処理施設の建設に向けた話があります。この10年間、広域支援体制の維持というのは間違いなく出てくる話で、この表現もそのまま施政方針演説の最初に出てきている表現を使わせてもらっているんです。小金井市にとって基本構想をつくる中で、こういったものは普通考えられないという考え方もあるかもしれないんですが、一方でこの10年間、小金井市の特殊性と言ったらなんですけれども、市のホームページのトップにも必ずこういったところにすぐリンクできるようなものを載せていないと、近隣市、あるいは市議会の方とか市民から

も結構いろいろと問題を指摘される中で、基本構想が広域支援先に対する配慮の言葉がないのも逆におかしいかなと思って入れています。

◎武藤委員長 はい。

◎三橋委員 「駅周辺開発、道路等の整備」です。「平成21年に武蔵小金井駅南口第1地区のまちびらきは実施されましたが、今後更に利便性の高い生活環境を整備するため、フェスティバルコートや市民交流センター（仮称）の活用、商店街の活性化など、ハード面のみならず、ソフト面での取り組みが求められます。また、北口や第2地区の再開発、東小金井駅北口の土地区画整理事業等についても、地権者や市民の意向を踏まえつつ、整備を進めていく必要があります。都市計画道路の整備については、基幹道路の拡幅整備等により、円滑な交通と通勤通学者の安全確保や利便性を高めるとともに、周辺住民の防災対策の向上、地域経済の振興につなげていく必要があります」。

「C.子育て支援・高齢者・障害者福祉」。これは左側のCと対応させるような感じですが、高齢者数が過去20年で倍増しており、元気な高齢者が要介護状態になることの防止、就業支援などによる高齢者の生きがいつくり、今後も安心して暮らせる環境づくり等が課題です。また本市の合計特殊出生率は平成19年度で1.00と多摩26市中25番目となっており、15歳未満の年少人口も他自治体と比べて低下が進行しています。待機児童の解消や保育サービスの充実、放課後児童クラブガイドラインを踏まえた適正規模の学童保育のための環境整備等が課題となっています」。ここは学童保育の建てかえも進んでいますので、ガイドラインを踏まえるためにということなんですけれども、「さらに、障害者福祉については、ノーマライゼーションやバリアフリーの推進、就労支援の更なる強化等が求められています」と。

「D.市民との協働の推進。市民活動が活発化する一方で、核家族化による地域交流の希薄化、町会・自治会の加入者の減少等、地域とのつながりが薄い市民も多く、いわゆるサイレント・マジョリティの意見を市の施策にどう反映させていくのかについては、市民ニーズを的確に把握する上でも課題となっています。また、新ごみ処理施設建設場所周辺の住民との協働の推進は新ごみ処理施設建設にあたって最大の懸案です。新市庁舎建設をどのように進めるか、住民投票条例の市民参加による改正なども市民の関心が高く、市政における大きな課題となっています」。

あとは「行政サービスと行財政改革」ですが、「社会経済環境の変化により、行政ニーズは量的拡大に加え、質的にも多様化・高度化する一方、市民意向調査では、行政サービスに対する満足度は他の施策に比べ低くなっています。公的施設が未整備または老朽化していること等が懸案の一つですが、よりきめ細かく住民ニーズに対応するためには、民間活力の導入や市民との協働を進め、行財政改革を推進することも課題となっています。一方で、日本経済は安定成長期に入り、人口減少に伴う経済活動停滞の懸念等、外部環境は厳しさを増しています。本市においても高齢化に伴う福祉分野での負担増の一方、市民の課税所得の低下が市税収入減少につながる恐れがあり、計画的な行財政運営を行うことが必要です。また、新ごみ処理

施設の建設、駅周辺のまちづくり、さらには平成35年（2023年）頃からと見込まれる人口減少や施設の老朽化、金利の上昇（公債残高の抑制）にも備えていく必要があります」。このあたり、財政のところについてはもう少しちゃんと実態を踏まえた上で練りたいと思いますが、基本的には討議要綱などを踏まえてつくっています。

◎武藤委員長 ありがとうございます。11時50分になりましたので、こういう説明を受けておいて、この後の時間はどういうふうに進めていくかをちょっとここで議論しておかなくてはいけないかなと思うんですが、どういたしましょうか。今日は午後もやるという前提でお集まりいただいていると思うんですが、昼食をとってからまたこういう感じで進めていって、少なくとも前半はできますかね。あと基本姿勢と将来像ですね。そして、施策の大綱のほうにも入っていかないとはいけませんので、できたらそこで全部施策の大綱もできちゃうと。いいんですか。

◎三橋委員 前々から渡辺先生からも、市のほうからもあったような縦横論の議論をしたかったんです。縦横論というのは何かというと、施策の大綱が4つあります。一方で、重点施策としては縦に連なっているような形で7つあって、それを3つぐらいにしたらどうですかと。その3つぐらいと言ったときに、今、僕のほうで課題に当たるところのA、B、Cぐらい、ないしはA、B、C、D、Eでもいいんですけれども、そういったものか縦に当たるもので、大体市が出している7つの中を踏まえてはいるんですけれども、そういったときに、これが施策の大綱とどうつながっているかという、ほんとうに縦ぐしになっているかどうかというところが結構ポイントで、むしろ横になっているようなところも若干あるかなと思います。それによっては施策の大綱とこの課題、ないしは社会潮流との関係をきちんと認識した上で、後でどういうふうに整理するか。大綱の中でこういう課題がありますという言い方をすると、課題とか特徴だという形を踏まえて縦に入れていくということであれば、最初に施策の大綱につなげていくのに、ここは縦に見るような形で、施策の大綱のいろいろなところに入って、全体に共通するものです、みたいな形で書いていくようになりますし、逆に横に入っていくのであれば、施策の大綱のところになんかそれがそのままぽっとおさまるような感じになっていくと思います。そこをどういうふうにとらえていくのかというところが一番ポイントかなと思っています。

◎武藤委員長 そうですね。それから、素案の中に出てくる施策の大綱の前のところにある「現況と課題の概要」と重複する要素もありますよね。そこはどういうふうにしましょうかね。

◎淡路委員 横論ってやるんですけど。おっしゃったのはプロジェクトでしょう。

◎三橋委員 プロジェクトという……。

◎淡路委員 つまり、施策の大綱は縦ですよ。分野別に構成をつくっていくと。

◎三橋委員 縦横どっちでもいいんですけれども。

◎淡路委員 おっしゃった縦横論というのは、例えば自然保護環境プロジェクトという形で4つぐらい打ち出す自治体もありますよね。縦というのは、そのことをおっしゃっているんですか。

- ◎三橋委員 いや、そういう意味ではなくて、要は重点施策ないしは市の課題がそのままイコール……。
- ◎淡路委員 市の課題ってどこに出ていました？ これから出すんですか。
- ◎三橋委員 ここです。
- ◎淡路委員 これね。
- ◎三橋委員 主要な課題と。その主要な課題が施策の中にどういうふうに織り込まれていますかという意味ですね。
- ◎淡路委員 そういう意味ですね。縦で処理できれば、それでオーケーと。
- ◎三橋委員 オーケーということです。
- ◎淡路委員 別プロジェクトで発足するとしたら、それは……。
- ◎三橋委員 プロジェクトというか、いろいろなところに入っていますというならそれでもいいんですけども。
- ◎淡路委員 そこは議論次第？
- ◎三橋委員 そうですね。
- ◎淡路委員 それは事務局もそういう体系を考えていたんですか。
- ◎事務局 討議要綱で示して……。
- ◎武藤委員長 討議要綱。討議要綱に重点施策は入っていたけれども、基本構想に重点施策は入る？ 入らない？
- ◎事務局 市の素案としては、入っておりません。
- ◎武藤委員長 入ってないよね。討議要綱には入っていたけどね。
- ◎渡辺委員 これを見たときはもうできているんだという。楽だ。
- ◎三橋委員 そうですよ。
- ◎武藤委員長 こういうイメージですか。
- ◎三橋委員 そういうイメージですよ。
- ◎武藤委員長 このイメージ？
- ◎三橋委員 ただ、基本構想に入っていないくて基本計画だからいいですという話にはならなくて、いろいろな理由があると思うんです。やっぱり一番市民にとって関心が高い部分というのは、この課題の部分だと思うんです。その課題の部分に対する答えを、計画で出すのか構想で出すのかは別にして、何らかの整理をしておかないと、これは間違いなく、いろいろな人に聞かれるたびに、「この部分についてどうするんですか」という話になるので、最終的に基本構想は議決があるので載せにくいというのであれば、それを外すという話はあるかもしれませんが、まず起草委員会の中でどういう整理をするのかは大事なポイントかなと思っています。
- ◎武藤委員長 そうすると、三橋さんとしては、課題のところは重点施策を取り出したような書き方になる？

◎三橋委員 課題と特徴は裏表ですけれども、それと重点施策、そして施策の大綱というのは一貫して流れがあるという前提で書いています。課題で終わっちゃうと何か嫌な雰囲気が終わっちゃうので、ほんとうは課題のところに施策の方向性まで書きたかったぐらいなんですけれども、こういうのを頑張りますみたいなところも書きたかったところではあったんです。

◎武藤委員長 私としては、施策の大綱の現況、課題の概要と、ここの三橋さんに書いていただいた特徴とみどりの保全の課題の、ここの関係はどんな感じになりますか。

◎三橋委員 縦横論ということであれば重複していても全然問題ないと思うんです。あくまでも縦で見たときにこうなっていますというのがあって、それがそれぞれの各項目にどこに入っているかというところを……。

◎武藤委員長 施策の大綱のほうは縦論でいくところなる。こっち側は横論？

◎三橋委員 横論でいったら、例えば1つの例として言えるかどうかわからないんですけども、水とみどりという話があります。水とみどりの話というのは、みどりの保全と創出というところは環境都市基盤の中で当然一番に出てくるんですけども、それ以外にも、地域と経済とか、文化と教育だとか、福祉と健康だとかにも出てくるということであれば、それをそのままいろいろなところにこういうふうに入っていますという書き方になってくると思います。そうじゃなくて、環境都市基盤にそのまま直結しているものですよという位置づけであれば、それはそういう書き方として、片方は重複がないようにさらっと書くという形になると思うんです。

◎渡辺委員 これ、構造として将来像とありますけれども、その下に何本かスタッフですね。それが縦かもわからないんですけども、今、課題って出てきたんですよ。その課題が何となく横になって、こういう課題があるよと。こっちで言うと、重点施策と言うのかな。今、この絵では逆になっていますね。その重点施策と課題がどうリンクさせるかということだけ……。

◎三橋委員 そうですよ。その意味で言うと、この重点施策の1と2というのが僕のほうの課題の1という形になりますし、駅周辺開発が2になります……、重点施策の3と5がBのところになりますし、子どもの成長というのがCに当たる部分ですかね。高齢者の部分を僕は含めましたけれども、そういった意味では、A、B、Cというところで大体7項目というのが入ってきているようなイメージになってきているんですよ。

◎武藤委員長 施策の大綱との関係で言うと？ A、B、C、D 4つは……。

◎三橋委員 むしろ同じ横なのかなという感じも。

◎武藤委員長 横。施策の大綱のここは……。

◎事務局 縦とか横だとわかりにくいので、分野ごとと横断的という形のほうがわかりやすいと思います。

◎武藤委員長 そうですね。それがいいですね。少なくとも施策の大綱は分野ごとで書いてあることは確かだと。

◎事務局 はい。

◎武藤委員長 こちらのほうは、横断的に書いている。

◎三橋委員 という位置づけでいいんですかねというところなんです。それは施策の大綱がどうなっているかというところにもよっているんですけども。

◎事務局 今、三橋委員が施策の大綱がどうなっているかによっているとおっしゃったのは、施策の大綱はどういう立場で書いてあるかということなんですか。

◎三橋委員 そういうことですよ。

◎事務局 施策の大綱は、現況と課題の概要は4つの分野それぞれの主な課題と現況をまとめたものなんです。だから、そういう意味では4つの分野であるというのが1つと、基本的には中分類に対応するように書くように努めていますので、それぞれのその下の、例えば水とみどりというもので何かピックアップされるような書き方になっている。

◎武藤委員長 分野別という意味ですよ。

◎事務局 はい。

◎三橋委員 僕が課題をぱっと見たときに、Aのみどりの保全と拡大・ごみ対策というのは、施策の大綱の中で言うところの環境と都市基盤に入るかなと。Bも環境と都市基盤の中に入ってくるのかなと。Cが教育、福祉、どっちかという福祉が強い感じになっています。Dが計画の推進か地域コミュニティーかという感じで、分野か横断かという議論よりは、施策の大綱のそこのところにつながっていますよという言い方のほうがわかりやすいかなというのが正直なところで、そうすると、論点整理であるところの分野と横断という考え方と、ちょっとそごが出てきちゃう可能性があるなと思ったので。

◎渡辺委員 でも、こう考えませんか。市の特徴と現状は別に施策の大綱を網羅的に対応する必要はない。

◎三橋委員 もちろんないですね。おっしゃるとおりです。

◎渡辺委員 現状の問題点を絞り出したんであって、これが全く関係ないというか、施策の大綱に全くうたわれてないと困る。

◎三橋委員 それはそうですね。

◎渡辺委員 施策の大綱はスマートに、ここは気軽に行きませんか？

◎三橋委員 わかりました。

◎渡辺委員 そうじゃないと、がちがちになっちゃって、施策の大綱がテンポになっちゃうから。そうやらないと、ちょっと大変ですよ。

◎武藤委員長 それから、これはA、B、C、Dでやると、Aが一致しているでしょう。特徴と課題。Bも類似しているんだけど、Aがみどり豊かで閑静な住環境、課題のほうはみどりの保全と拡大、対応しているみたいでしょう。

◎三橋委員 そうですね。

◎武藤委員長 Bが対応してCが対応しているのかというと、Eが出てきたりするから、対応していないんだとわかるんだけど、A、B、C、Dをつけると何かそういう雰囲気が出てしまうので、単なる社会潮流と同じようにポツにしましょうよ。

- ◎三橋委員 逆に対応させないほうがいいという感じですか。
- ◎武藤委員長 対応させないほうがいいと。
- ◎三橋委員 強みと弱みは。
- ◎武藤委員長 強みと弱みは。
- ◎三橋委員 わかりました。単純にEだけ余計になっちゃったんですけれども、このところが財政のところとか行財政サービスというのが1つ大きな課題だよねという話もあったので1個入れたのですが、長いということであれば、Dまでで強みと弱みを一緒にしたりというところもあるかなと思いましたけれども、ポツにしちゃいましょうか。
- ◎武藤委員長 ポツのほうがいいかもしれませんね。
- ◎三橋委員 ポツのほうがいいですか。わかりました。
- ◎武藤委員長 A、B、C、Dと書くと、何か対応しているみたいでしょう。特にAが対応しているものだから、Bも対応し、Cも対応し、Dも対応して、大体対応しているんだけど、Eだけが飛び出していることになりますよね。
- ◎三橋委員 Eは飛び出していますね。
- ◎武藤委員長 そうでなければ、強みと弱みを一緒に書くとかね。
- ◎三橋委員 そうなんですよ。それを考えたんですよ。
- ◎武藤委員長 そっち側のほうがいいかな。そうしたら、Eも別に強みがなくても弱みだけ、課題だけがある財政というような。
- ◎三橋委員 まあ、財政は……。でも、強みというか、過去のやってきたことと云ったら、一時期よりはよくなりましたというところは、それであれば入れるという感じだと思いますけれども、あえてそのところは共通……。
- ◎武藤委員長 じゃあ、A、B、C、Dをつけておいてもいいんですが、そうしたら、その場合には強みと弱みを一つの段落にすると。
- ◎三橋委員 そうですね。最初は分けるという話だったのでそういうふうにつくったんですけれども、どっちのほうがいいってありますか。
- ◎武藤委員長 文章の中で、上の文章は強みとやって、下のところは弱みとやって、だーっと書くというふうにして、まとめるほうがいいんじゃないですか。
- ◎三橋委員 わかりました。じゃあ、そういう形で。
- ◎武藤委員長 では、ちょっと方向性が見えたところで、細かい文章はこの後にして、休憩しましょうか。では、ここで休憩ということですかね。1時間休みをとりましょう。
- ◎事務局 再開は1時からですか。
- ◎武藤委員長 はい。再開は1時からで。

(休 憩)

- ◎武藤委員長 再開します。まずは強みと弱み、特徴と課題を別々に書いているのを一緒にしていただくということでもいいのですが、そういうふうにしましようということになって、それ

でご了解をいただいたかと思うんですが、そこまでぐらいです。どうでしょうか。文章を一つ一つ見ていかないといけませんので、最初のところからいきましょうか。

最初の説明文はこれでよろしいですかね。「社会潮流や」、括弧のところで「(や施策の大綱)」、ここのは……。

◎三橋委員 さっきの渡辺さんの整理であれば、ここはとってもいいかなという感じがすけれども。

◎武藤委員長 施策の大綱とは関係なく書くという理解ですよ。

◎三橋委員 そうですね。

◎武藤委員長 これはとって、「社会潮流を鑑み」……。

◎事務局 事務局から言うのも何か変なんですけど、「その中から」の部分はなくともいいかなという気もするんですが。

◎三橋委員 わかりました。

◎事務局 例えばですけれども、「私たちの住む小金井市には様々な特徴(強み)と課題(弱み)があります。まちづくりを進めていく上では、社会潮流を踏まえ、課題を解決し」みたいにやっていけば説明がつくかなと思ったんですけれども。

◎三橋委員 何が言いたかったかというところを1つ入れておかないと、市の特徴と課題というのはこれだけですかと言われる可能性が大きいかなと思ったんです。もっと言ってしまえば、主要なものはこれですかというのに対しては、さっきから話としてある潮流とか、あるいは後で参考等で書いてある市民意向調査といったところを踏まえて議論しましたという形にしたいかなと思っているんです。「主要なものとして」というところを除くと、課題を一通り網羅的に上げるみたいな感じに、それは絶対に無理なんですけれども、だから一言入れておきたいなという意味で入れたんです。

◎渡辺委員 前のほうに入れればいい。

◎三橋委員 前のほうにですね。それはどっちでも。

◎武藤委員長 具体的にどう……。

◎事務局 今、渡辺委員がおっしゃったのは、市の主要な特徴と課題とすればいいと。

◎三橋委員 そういうことですね。わかりました。

◎武藤委員長 なるほど。市の主要な特徴と課題。はい。

◎三橋委員 なるほど。

◎武藤委員長 考えてみたら……。いや、そこは「その中から」、それは全部とっちゃっていいんだっけ。

◎事務局 1つは「社会潮流を鑑み」の部分をごか上の行の中に入れるかというところですね。「鑑み」というのもちょっと難しいですので、多分三橋委員は今の文章だと「第4次基本構想において踏まえるべき」、ここで「踏まえるべき」を使っているから「鑑み」にしたんだと思いますが、その文章がなくなれば、「社会潮流を踏まえ」でいいんじゃないかと思うんで

すけれども。

◎三橋委員 わかりました。第4次基本構想は当たり前ですよ。ありがとうございます。

◎武藤委員長 そういえば、変更履歴をオンにしておいてやったほうが、古いものが残ったままでいいんじゃないですか。いいですか。

◎三橋委員 とりあえず……。

◎武藤委員長 いいか。また後でもう1つのファイルを……、これは起草委員会だけに出ているから、今度審議会に出すときは全く新しい形で出せばいいので、見え消しはしなくてもいいということですね。

◎渡辺委員 そうすると、(2)は市の特徴だけでいいのかね。

◎武藤委員長 (2)、市の主要な特徴と課題に。

◎渡辺委員 特徴というのは、他と異なった特別目立つところで、特にすぐれたところは長い？

◎武藤委員長 そうですね。「特長」は長いほうですね。

◎渡辺委員 どちらの漢字か。「特徴」は両方含み得るわけですよ。いい点でも、悪い点でも、目立っていると。

◎三橋委員 そうであれば長いにしましょうか。

◎武藤委員長 強みのほうですよ。

◎三橋委員 強みという意味でいたいと思うので。

◎渡辺委員 でも、市の特長というのを……。

◎三橋委員 あまりあれですかね。「特長」の、長いってあまり使わないですかね。

◎淡路委員 あまり使わないんじゃないかな。語源を調べてみればね。

◎武藤委員長 強みというんだったら、長いほうですけどね。

◎渡辺委員 今、辞典見たんだけど、特にすぐれた特色だとなって、特別に目立って……。

◎武藤委員長 辞書が出てきたんですね。

◎渡辺委員 あるいは市の特色としちゃうか。

◎武藤委員長 特色、課題、強み、弱み、特徴と課題、特色と課題。

◎渡辺委員 いやいや、課題って要ります？ 先まとめちゃうんでしょう？

◎武藤委員長 そう、まとめちゃうんです。ただ、課題は課題でやはり今度の施策の方向性を考える上で、この課題の中からむしろ次のそういうものも考えていくので、やっぱり課題はここで入れたほうがいいのではないかと思うんです。

◎渡辺委員 強み、弱みってとっちゃったほうがいいんじゃない？

◎武藤委員長 言葉の説明を入れればいいので、特徴と課題で括弧して(強み)、(弱み)と最初の1行に書いていますが、ここはなくてもいいですね。

◎渡辺委員 要するに、特徴は特徴であって、小金井市のキャラクターですね。そういうキャラクターを持っているけれども、課題も持っているんだということから言うと、特徴は弱みでも何でもありませんよ。だから、(強み)、(弱み)って全部とっちゃっても、すっきりし

ちゃうかなという気はしますけどね。

◎武藤委員長 どうですか。

◎三橋委員 皆さんがそれでわかるということであれば。

◎渡辺委員 言葉としては特徴は強みでは決してないということですね。だけど、長いほうの「特長」を使う……。

◎三橋委員 長いほうを使いたくなかったこともあったので、「特徴」と言いながら（強み）と注釈していたところは若干あったんですよね。

◎渡辺委員 わかりますけどね。

◎三橋委員 長いでいいところと悪いところというのが出るということであれば。

◎渡辺委員 長所、短所って特徴……、でも、括弧なんかなくて、すっきりしたほうがいいんじゃない？

◎三橋委員 極力そうですね。あまり変に……。

◎渡辺委員 文章は短ければ短いほどいい。

◎三橋委員 それはおっしゃるとおりです。

◎武藤委員長 キャラクターという意味でいうと、長いほうじゃなくて……。

◎淡路委員 これでいいんです。

◎武藤委員長 これは何て読むんだらう。

◎三橋委員 徴候の徴ですか。

◎武藤委員長 徴候の徴ね。

◎渡辺委員 キャラクターを生かしつつまちづくりを進めるということですよ。強みを生かしつつという。これ、雨水浸透ますの設置比率は世界一じゃないんですか。

◎武藤委員長 そうですね。世界一ですね。

◎三橋委員 わかりました。全国じゃなくて、世界でトップにします。

◎武藤委員長 そうですね。ギネスブックには載っていたんですけど。世界トップ、世界一。世界トップってあまり言わないね。

◎三橋委員 世界一ですね。

◎武藤委員長 世界一ですね。「世界一であり」と、体言止めじゃなくて、「あり」を加えましょうか。「野川流域では都内で唯一の自然再生事業の指定を受けるなど、これまで貴重な自然を守り」。次のところは、「市域に占める宅地の半分近くが第一種低層住居専用地域となっており、みどり豊かで良好な住環境を形成しています」。そこに今度はその下に課題のAの部分の文章を持ってきちゃうんですね。「第3次基本構想実施期間を通じて、みどりの保全と拡大を進めてきたにもかかわらず、市内のみどりは何%減少しました」。

◎三橋委員 すいません。調べ切れてなくて。

◎武藤委員長 はい。そうですね。調べておいていただければ。「全国で最も高い雨水浸透ますの設置比率も近年はほぼ横ばいで推移しています」。そうすると、この「全国で最も高い」、

ここは削ってもいいんですね。「雨水浸透ますの設置比率も近年はほぼ横ばい」。

◎三橋委員 そうですね。

◎武藤委員長 上の世界一だという文章とつながってくるから。

◎三橋委員 要は、上昇はしていないということを書いたかったんです。

◎武藤委員長 はい。

◎三橋委員 タイトルは後で考えます。

◎武藤委員長 ①特徴、②課題、いいか。①、②は要らないかなと思ったんですが、小見出しだけをつけておけばいいかなと思ったんです。

◎三橋委員 特徴と課題は必要ですよ。

◎武藤委員長 特徴と課題は入れておいたほうがわかりやすいですね。このタイトルが違ってきますね。どっちをタイトルにするか。

◎三橋委員 それはちょっと後で、これは結構大事だと思うんですよ。特徴、課題、それはAの上のほうということになるんですよ。特徴で、「みどり豊かで閑静な住環境」というのはだめですかね。

◎事務局 やはり素朴な疑問としては、くっつけるとわかりにくいですかね。

◎武藤委員長 つけるとわかりづらい？

◎事務局 はい。特徴と課題ということであれば、くっつけないほうがいいかなと。または、今みたいな特徴ってやって、「みどり豊かで閑静な住環境」、次に課題で「みどりの保全の」。

◎三橋委員 そういうイメージ。

◎武藤委員長 そういうつもりなんですけどね。

◎三橋委員 そういうイメージですね。括弧じゃなくてもいいけど、「特徴」、「課題」でタイトルは残しておく。

◎武藤委員長 ①、②がついていたけれども、その①、②はとって、まずAがいいかな。このタイトルは後で考えさせてくれと言っておられるんですが、「みどり豊かで閑静な住環境」、「みどりの保全と拡大・ごみ対策」、ここはごみ対策が出てくるんですね。みどりのごみは一緒でしたっけ。

◎渡辺委員 環境という意味じゃ。

◎三橋委員 そうですね。

◎武藤委員長 そうですね。

◎三橋委員 あえて言うなら環境とかになっちゃいますけどね。あまりそこにタイトルをつけなくてもいいような気もするけど……。

◎武藤委員長 そこにつけないと変ですよ。ほかのところの1、2、3、4とか、こういう形で番号を振っていったときのAがいいかどうか。

◎渡辺委員 とっちゃう。対応をあまりつけたくないから、A、B、C、Dはとっちゃう。

◎三橋委員 そうですね。

◎武藤委員長 1、2、3、4のA、B、C、D。あるいは、先ほどはA、B、Cをつけないで対応しているか、していないかの問題があるのではということをお願いしたんですが。

◎渡辺委員 一応残しておきます？ 後で……。

◎武藤委員長 そうですね。後で削るので、まず「みどり豊かで閑静な住環境」の前にAをつけて、次の「本市は」の前に「特徴」。

◎渡辺委員 「特徴」。

◎武藤委員長 そうですね。「特徴」。あるいは「みどり豊か」みたいな小見出し風に特徴。

◎渡辺委員 先ほど移した課題のほうには課題と。

◎武藤委員長 そうですね。その前には課題と。その「みどりの保全と拡大・ごみ対策」というのを上と一緒にして、「みどり豊かで閑静な住宅とごみ対策」と一緒にするのはどうですか。

◎三橋委員 いや、それは難しいな。

◎渡辺委員 ごみは別だよな。

◎三橋委員 それは難しい。そうすると、まとめて環境という感じでAとするしかないかなという感じが。

◎淡路委員 「みどりと環境」とかね。

◎三橋委員 そうですね。

◎武藤委員長 「みどりと環境」ね。それでいきましょう。そこを「A.みどりと環境」。

◎永田委員 近かったら、そのまま残してという。

◎三橋委員 そうですね。

◎永田委員 特徴と課題をつけ加えてね。

◎武藤委員長 次の行のところにみどり……、そこは平仮名ということね。平仮名でいいのか。次の■のところに「特徴」と入れて、「みどり豊かな閑静な住環境」。下のほうは、同じように今度は「課題」と入れると。どうでしょうか。そういう格好をつけて、その上だけは1行はとってもいいんじゃないですか。ついていたほうがいいかな、とったほうがいいですね。

次のところで、今度はBが始まるわけですね。Bは「便利な市内外へのアクセス」と「駅周辺開発、道路等の整備」、ここは都市……。

◎三橋委員 基盤整備ですか。

◎武藤委員長 都市基盤。

◎事務局 委員長、このやり方でやるということは、例えば4つの分野みたいにフレームごとに課題と特徴を挙げるということですか。それにつながるような気がするんですが。

◎武藤委員長 そうなりますかね。そうすると、ますます施策の大綱のこっち側と……。

◎事務局 または、それを持ってこいというお話なのかなと思ったんですけども。そうでないなら、結局、ある意味三橋さんの案に近くなってくるということなのかなと思います。

◎三橋委員 いや、ここで都市基盤とやってしまうと、施策の大綱とほんとうにダブってしま

うと。

◎事務局 次は地域になって、経済になって、やっぱり分野ごとに挙げなきゃいけないみたいな感じになってくるような気がしたんです。

◎武藤委員長 ちょっと待ってください。施策の大綱で言うと、AもBも環境と都市基盤の話ですよ。

◎三橋委員 AもBもそうですね。

◎武藤委員長 だから、そこは施策の大綱のようにならないんですよ。施策の大綱とは違う特徴と課題を取り上げているんですね。

◎三橋委員 ただ、やっぱりわかりづらさがありますよね。

◎武藤委員長 わかりづらさはあるね。重複というか。

◎三橋委員 やっぱり施策の大綱とどういうふうにつながっているんですかというところをちゃんとしっかり整理しなきゃいけないなという感じはするんですけども。

◎武藤委員長 そうですね。

◎鮎川委員 細かな文章はまた後で話し合いですか。今、言っても良いですか。

◎武藤委員長 ええ。

◎鮎川委員 今、かなり大まかな枠組みの話をしている最中で、いつも細かなところに行ってしまうって申しわけありません。Bの「便利な市内外へのアクセス」の文章が、今だとじっくり来る文章なのですが、中期計画の23年度にすると、これは高架が完成していて、おそらく見込みというより、まちの一体化が実現しつつある状況ですよ。

◎三橋委員 そういうことですね。

◎鮎川委員 なので、このあたりの文章が今だととてもしっくり来るのですが、そのあたりはちょっと変えていただいたほうがよいかと思います。

◎三橋委員 わかりました。

◎渡辺委員 最後、「一体化が実現しつつある」でいいんじゃないの。

◎三橋委員 「実現する見込み」じゃなくて、「実現しつつあります」。

◎鮎川委員 あと細かなところで、「21年度中には」というより、「21年度に完成し」とか。後日変えていただいても構わないんですけども、ちょっとそのあたりが長期計画の初年度にすると違和感を感じます。

◎渡辺委員 A、B、C、Dと分けて、Aの課題と特徴、Bの課題と特徴がいいのか、どっちがいいんですかね。前のままで？

◎武藤委員長 特徴と課題を合わせて。大体対応しているわけでしょう。

◎三橋委員 大体対応しています。

◎渡辺委員 A、B、C、Dが全部対応しています。

◎三橋委員 そうですよ。

◎渡辺委員 だから、上のAと下のBで包含する大きいタイトルをぼんをつけるわけでしょう。

◎三橋委員 施策の大綱のほうではですね。

◎渡辺委員 「みどりと環境」みたいな感じのね。

◎三橋委員 そうです。

◎淡路委員 ただ、環境分析をやっているんですね。マクロをやりましたよね。今、ミクロですね。マクロとミクロの違いは、マクロは我々が影響力を及ぼすことはできないと。日本経済がどうなるかというのはできないわけですね。ミクロというのは、要因は一緒ですね。要因がそんなに変わるわけがないので、マクロが大人でミクロは子供になる違いであって、要因は一緒なんですよね。だから、おそらくインデックスのところはそういう意味で一緒にしていかないとまずいかなという気がするんです。マクロは日本経済ですけれども、ミクロは小金井経済ですね。そういう形でやらないと、ちょっと整合性がとれないかなと。

◎三橋委員 だから、そうです。Aが自然環境に当たって、Bが経済のところ当たって、Cが少子高齢化に当たって、Dが価値観の多様化とか市民活動の活発化みたいな感じでとらえてはいるんですけれども。

◎淡路委員 とらえているんですね。

◎三橋委員 ええ。Eが地方分権という形ですね。一応対応はしているような形で。

◎淡路委員 それだと、そのインデックスで特徴と課題の区切りがいいと思います。

◎渡辺委員 だから、施策の大綱とこれは必ずしも100%リンクしなくたっていいじゃないの。序論みたいなものだから。ただ、ここに述べた課題については施策の大綱でプラスアルファかつちり網羅してよという議論だと思います。

◎淡路委員 そうそう。だから、施策の大綱全体としていること自体、おかしいわけですね。そういう環境の変化だったら、今、施策の大綱は4つなんだけれども、実は5つ、6つになるかもしれないんですね。ただ、ここは4つという前提でやっているから4つになっているんですけれども、発想としては環境分析からおりていって、それを施策の大綱でとらえるかという話で、施策の大綱が優先されることはないですね。

◎三橋委員 渡辺先生や淡路先生がそういうふうに言っていたら全然オーケーなんですけれども、ただ、審議会の中ではボトムアップとトップダウンの両方の議論があったので。じゃあ、いいんじゃないですか。

◎淡路委員 これでいいと思う。

◎渡辺委員 逆に後で調整すればいい。だから、これを入れると5本柱になるわけでしょう。

◎三橋委員 そうです。

◎渡辺委員 A、B、C、D、Eまであるわけですね。

◎三橋委員 そうですね。潮流と合わせていますけれども、重点施策3つというんだったら、市民活動とか、地方分権とか行財政サービスというのが施策として言うのかどうかというところ、計画の推進的なところなのかどうかというところはまた後で議論すればいいと思うので。

◎渡辺委員 そうすると、上のBと下のBの共通テーマって何なんだろう。

- ◎三橋委員 経済なんですよ。経済というか……。
- ◎渡辺委員 Bはいい点で言うと市外への交通のアクセスですよ。駅周辺の再開発、道路の整備ですよ。
- ◎三橋委員 そうですね。
- ◎渡辺委員 だから、経済なのかね。
- ◎三橋委員 経済分野の中で……。
- ◎渡辺委員 交通環境。
- ◎三橋委員 交通環境とかを言って。これは一番最初に……。
- ◎事務局 まちづくり。
- ◎三橋委員 まちづくり。
- ◎渡辺委員 まちづくり。
- ◎三橋委員 まちづくりという形にしましょうか。
- ◎武藤委員長 これもまちづくり。環境と都市基盤……。
- ◎事務局 交通だけじゃないですよ。
- ◎三橋委員 そうですね。
- ◎渡辺委員 じゃあ、Bとして、これをまちづくりという格好にとりあえずして。
- ◎三橋委員 はい。
- ◎武藤委員長 Bはまちづくり。Cは？ 元気な高齢者と子育て支援。そうしたら、福祉と健康にしますか。そうすると、大綱になっちゃうか。
- ◎渡辺委員 上を下に持ってきてくれますか？
- ◎武藤委員長 今、作業しています。
- ◎鮎川委員 「福祉と健康」だと教育が抜けています。特徴には教育も入っているので、「教育」も入れていただきたいと思います。
- ◎武藤委員長 元気な高齢者と教育、生涯学習ですね。教育が入っていますね。
- ◎三橋委員 教育と福祉という感じですよ。
- ◎武藤委員長 そうか。教育と福祉を一緒にするわけか。そうすると、大綱とは違うという…
- …。
- ◎三橋委員 言い方にはなりますね。
- ◎武藤委員長 うん。じゃあ、Cのところは教育と福祉。
- ◎渡辺委員 Cの大きいタイプは教育と福祉ですね。
- ◎武藤委員長 はい。そうですね。
- ◎玉山委員 ちょっといいですか。教育だけだと子育て環境全般に教育に偏った印象なのでちょっと引かかっちゃったんですけども。
- ◎三橋委員 子育てというのは、福祉に入らないんですかね。
- ◎玉山委員 福祉に入りますかね。

- ◎鮎川委員 子育ては福祉に入ると思います。
- ◎武藤委員長 福祉ですね。
- ◎玉山委員 じゃあ、それでいいと思います。
- ◎武藤委員長 福祉、子育てはね。だから、Cのところは教育の課題がないのかな。
- ◎三橋委員 教育の課題は入れていないですね。
- ◎武藤委員長 ねえ。まあ、別になくてもいいですよ。Dのところではどうですか。
- ◎三橋委員 市民活動とか市民との協働ですよ。
- ◎武藤委員長 このサイレント・マジョリティ……、言葉の話はまだやっていないので、枠組みの話で、Dのところは活発な市民活動、参加と協働の推進。特徴は活発な市民活動で、課題として市民との協働の推進と。ちょっと変かな。活発な市民活動。課題、市民との協働の推進。いいですね。最後、Eが出てくるんですよ。Eが行政サービスと行財政改革。ここのは課題。特徴は……。
- ◎三橋委員 コンパクト。
- ◎淡路委員 小さな地方政治。
- ◎三橋委員 市民税が高いと。
- ◎武藤委員長 でも、市民税が高いって……。
- ◎三橋委員 「収入に占める市民税の割合が高く、安定的な財政基盤を要している」とかですね。
- ◎事務局 もちろん税率が高いわけじゃありませんので。
- ◎武藤委員長 税率は高くないよね。税率が高いことになったら日本はなかなか難しいから、今おっしゃったのは市民税の比率が高いということですか。
- ◎三橋委員 そうですね。
- ◎事務局 所得が高いという。
- ◎武藤委員長 市民の所得が高い？
- ◎事務局 所得水準が高いと。それが小金井市の特徴として、ポテンシャルの高い市民の方が住んでいらっしゃるよ。
- ◎渡辺委員 なるほど。
- ◎武藤委員長 でも、ちょっとそれに外れる人が、私は市民じゃないなと思ってしまったら。でも、所得水準……。
- ◎三橋委員 だから、税収に占める市民税の割合が高いという。
- ◎武藤委員長 そっちのほうがいいですね。市民税の割合が高く……。
- ◎三橋委員 財政基盤として景気に左右されにくい構造になっていると。経済情勢に左右されにくい。
- ◎渡辺委員 Eのタイトルは？
- ◎武藤委員長 Eの大きいタイトルはまだ決まっていらないんですが……。

◎渡辺委員 三橋さんが書かれたのは、全部課題になるわけ？

◎武藤委員長 ここは全部課題。

◎三橋委員 僕のところはそうですね。

◎渡辺委員 論理的には。

◎三橋委員 そうですね。

◎武藤委員長 行政サービスと行財政改革か、それをEのタイトルにして、特徴のほうは、税収の安定性とかですか。それから、課題のほうは、上のほうの行政サービスは、「多様な住民ニーズへの対応と行財政改革」ですか。「多様な住民ニーズへの対応と」……。上のほうは、特徴、ちょっとそこだけだと文章、1行だから、もうちょっと加えたいですね。「税収に占める市民税の割合が高く、税収が安定的」。最初のところに、「一時期の財政危機を乗り越え」とか入れますか。「財政危機を乗り越え、一時期の」、一時期のというに変かな。ちょっと変だな。

◎渡辺委員 財政危機の克服。

◎武藤委員長 「財政危機を克服し、税収に占める比率が高く」、これは変だから、「財政危機を克服し、普通の市並みになりました」と。一般、何でしたっけ。

◎事務局 一般経常収支比率ですね。

◎武藤委員長 うん、一般経常収支比率が、違います。「財政危機を克服し」の後。一般経常収支比率が何%ですか。平均的……。

◎渡辺委員 「安定した財政運用ができるようになった」。

◎武藤委員長 そうです。そういうふうにつなげようかなと思うんですね。「経常収支比率が平均的な水準まで回復し、税収に占める市民税の割合が高く」……。「税収に占める市民税の割合が高く」……。

◎三橋委員 「経済情勢に左右されず」ですかね、「税収が安定しています」と。

◎武藤委員長 うん、そうですね。どうですか。そこら辺は疑問が。部長は首をかしげているので。

◎事務局 もともと資料62で財政状況、今ご提示してありますけれども、法人市民税にそれほど依拠していませんので、ある程度、収入の高い方がいらっしゃるので、市民税としてはかなりの額なんですけれども、この書き方は、景気が悪くなれば当然悪くなるという言い方をされていて、それでというのでちょっと何となく。

◎三橋委員 なるほど。法人市民税に比べたら安定しているとは言えるけれどもというところですよ。じゃ、ちょっと……。

◎武藤委員長 じゃ、そこは、経済情勢に左右されずじゃなくて、「経済情勢の影響は弱まっている」。

◎三橋委員 「受けにくく」ぐらいですかね。

◎武藤委員長 「受けにくく」。

- ◎三橋委員 ただ、それでも……。
- ◎渡辺委員 法人に比べたら、市民税のほうが安定していますよ。法人税はわーっと変わりますから、一気に反転になったときに。
- ◎武藤委員長 法人税はほんとうに一気に沈みますから。「経常収支比率が平均的な水準まで、回復しました」とか、そこで文章を切りますか。
- ◎事務局 個人市民税の割合じゃないでしょうか。
- ◎武藤委員長 個人市民税の割合ね。
- ◎鮎川委員 回復しの後に、健全という言葉は入らないですか。
- ◎武藤委員長 そうか。じゃ、「水準まで回復し、健全財政を」……。経常収支比率、一般は入らないですね。経常収支比率、水準、健全財政の域にたどり着きました、とまでは言えない。
- ◎玉山委員 まだです。
- ◎事務局 経常収支も平成19年度決算の後、平成20年度決算で悪くなっているの、あまり…。
- ◎武藤委員長 そうですか。あまりよくなるとは言えない。
- ◎渡辺委員 だから、むしろ傾きだけでいいんじゃないですか。平均までいってない感じはしないけれども、増加率は大きいということですか。
- ◎鮎川委員 済みません、健全とまでは言い切れない。
- ◎渡辺委員 「経常収支比率が改善されつつある」。
- ◎武藤委員長 「改善されつつあります」ですかね。経常収支比率はいいんですか。平均的な水準って、そう言える？
- ◎事務局 どうなんでしょうか。20年度決算はちょっとやっていないので、私は知らないんですが、ちょっと状況的にはやはり悪い方向には行ってる。
- ◎武藤委員長 100%を超えた、済みません。80%を超え、26市、平均を下回ることはできました、やっぱり平均的になったということでもいいですね。「平均的な水準を回復し、改善されつつあります」、いいですね。そこで丸をして、「また」とかですか。「また、税収に占める個人市民税の割合が高く、法人市民税等に比べ、経済情勢の影響は受けにくく」、どこですか。「経済情勢の影響を受けにくく」、点ですね、「税収が安定しています」。「税収が安定しています」って、そこまで言い切ってしまうとちょっと不安があるので、「税収が安定しつつあります」にしますか。
- ◎三橋委員 しつつという、これから安定していくような感じですよ。
- ◎武藤委員長 いや、まだ安定していないけれども、安定に向かっているということですね。そういうことですね。
- ◎三橋委員 安定に向かっているのか。
- ◎武藤委員長 うん。
- ◎三橋委員 むしろ、法人市民税を増やそうと今しているんでしたね。

- ◎武藤委員長 法人市民税、何か工場誘致があるんですか。
- ◎三橋委員 開発によって。まあ、実際そうなるかどうかわかりませんが。
- ◎渡辺委員 「税金が比較的安定しています」。
- ◎三橋委員 比較的ですかね。
- ◎武藤委員長 ま、比較的ですね。「受けにくく、税金が比較的安定しています」、特徴として書けるのはそこまでですかね。
- ◎永田委員 1番目の文章で、「し」というのが2つ重なっていますでしょう。
- ◎武藤委員長 どこですか。
- ◎永田委員 「克服し」「回復し」、文章的にちょっと改善したほうがいい。
- ◎武藤委員長 なるほど。「財政危機を克服し、経常収支比率が平均的水準にまで回復しており、改善されつつ」……。
- ◎渡辺委員 「財政の危機的状態から」、何だ。「市の財政の危機的状態から」何かうまい言葉、ありますか。
- ◎武藤委員長 脱却し？ 「市の財政の危機的状態から脱却し、経常収支比率が平均的な水準まで回復しており、改善されつつある」。財政は改善されつつありますからね。
- ◎三橋委員 「平均的に」は多摩26市ということですか。
- ◎武藤委員長 そうですね。
- ◎三橋委員 じゃ、多摩。
- ◎渡辺委員 大きい構造としたときに。あとは、細かいところを、内容がね。僕は研究のほうから自分のやつは全部つくっているからぱっと見れるんだけど、皆さん、大変だよ。上と下、見ながらやっている。
- ◎武藤委員長 「財政状況は改善されつつ」ね。それからその前に、「平均的な」の前に、「経常収支比率が多摩26市の平均的な水準にまで回復しており」。「多摩26市の平均的な水準まで回復しており」ですか。「財政状況は改善され、また税金に占める」、これ、いいですね。どうでしょうかね。
- ◎三橋委員 ちょっと1回これでさっきのやつと……。
- ◎武藤委員長 これ、打ち出せないかな。
- ◎三橋委員 比較して、どっちがいいかですね。
- ◎武藤委員長 打ち出せない、そうですか。じゃ、もうちょっと気になるところの文章を直してからと思うんですが、どこでしたっけ。鮎川委員からご指摘があった点。
- ◎鮎川委員 先ほど直していただきました。
- ◎武藤委員長 もう直しましたっけ。そしたら、私、この古いほうでいくと、課題のほうのごみのところの、「ご協力いただいた関係自治体」と突然出てくる。そこのところですね。「ご協力をいただいている関係自治体、各施設並びに周辺にお住まいの皆様にご心から深く感謝すると同時に」、この文章なんですけれども、何かほかの、市長の所信表明だったらこれはいいん

ですが、ここはどうかと思うんですけれどもね。市政の重要な課題でしょう。

◎三橋委員 「ご」を除くとか、そういうのを考えたんですけれどもね。「協力をいただいている関係自治体」。

◎武藤委員長 「関係自治体との協力のもと、ごみ減量・リサイクルに引き続き努力する必要があります」、「最大限の努力を払っていく必要があります」でもいいですが、関係自治体の「ご」はやっぱりとりましょうね。「関係自治体の協力のもと」をとっちゃうんですね。「ごみ減量・リサイクルに引き続き最大限の努力を払っていく必要がある」。これはみんなです・ます調か。「あります」。どうですか。

◎三橋委員 僕は反対ですけれども。表現はちょっと修正はあってもいいかなとは思いますが、感謝の気持ちとかというのは、やっぱり基本構想だと入れないものですかね。

◎武藤委員長 感謝の気持ちね。

◎玉山委員 新ごみ処理施設の建設がまだ何もなっていないので、現状の中に、周りに助けられているということを入れたら、やんわりと感謝の意味になりませんか。

◎武藤委員長 なるほど。関係自治体に依存している……。

◎玉山委員 現実そうなんですね。

◎武藤委員長 そうですね。現実そうですね。「関係自治体に依存している状況のもと」とやりますか。「協力のもと」じゃなくて。

◎玉山委員 メッセージとして発するのは難しいかもしれないけれども、痛いところをあえて入れることによって、謝意というのを表わせるんじゃないかと思っています。

◎三橋委員 いやいや、依存している……。

◎玉山委員 とにかく、ごみ処理施設がない。ごみ処理を他市に依存している……。

◎三橋委員 現状を説明するよりは、協力をいただいていますということなんですよ。協力をいただいてありがとうございます、その負担を少しでも軽減……。

◎渡辺委員 でも、これに述べるやつだからね。読むのは、元来は我々市民だけですよね。

◎事務局 今の部分は、「関係自治体の負担軽減のため」とか入れればいいんだと思うんですけれども、謝意の部分ですね。感謝、謝意の部分をどう入れるかということ。

◎玉山委員 ただ、基本的にこれは市民へのメッセージですよ。

◎事務局 ただ、意義と役割のところにありますとおり、東京都とか関係自治体の積極的な支援を得るための指針でもあります。

◎三橋委員 市報に載せたりとか、市のホームページに載せていることというのは、それは……。

◎玉山委員 他市へのメッセージですね。

◎三橋委員 「心から深く」とか、そこまでは入れなくてもいいとか、「感謝すると同時に」ぐらいとか、広域支援先の負担が軽減されるようとか、そういうのはあり得るかなとちょっと思っただけなんです。ここら辺、確かに難しいなと思っただけなんです。

◎永田委員 「ごみ減量のさらなる推進」の後に、他市に依存しているというのは、多分、この広域支援体制の維持というのは何か違う感じに受け取れちゃう。

◎武藤委員長 広域支援先？

◎永田委員 逆にこっちのほうは、小金井市のほうが支援しているような、そんな意味合いでとられる感じがあるので……。

◎玉山委員 援助してもらう感じですか。

◎永田委員 そう。あくまでこれは他市に依存しているわけでしょう。ですから、そここのところに入れば多分ある意味そうなるかと。

◎武藤委員長 なるほど。

◎玉山委員 その中の課題。支援してもらおう上での課題。

◎永田委員 だから、一瞬、広域支援というと、そんな感じがしちゃうんですよ。

◎玉山委員 やることとやってもらうことですね。

◎武藤委員長 じゃ、「また」の「新ごみ処理施設の建設に向けた着実な取り組み」の前に、そここのところに、他市に、「関係自治体に依存している現状」……。 「新ごみ処理施設の建設に向けた着実な取り組み」というのが、それが次のところに出てくる、その前の段階で、今依存してて、「それに対して感謝すると同時に、新ごみ処理施設の建設に向けた着実な取り組みをし、ごみ減量のさらなる推進、広域」、そこは要らなくなりますね。「さらなる推進することは市政の重要な課題です」とか、今のような形で直すということですね。だから、関係自治体に依存している状況を……。

◎渡辺委員 関係自治体「等」が入る。

◎武藤委員長 関係自治体等、そうですね。「関係自治体等に依存している状況を解決し、感謝するとともに」……。

◎渡辺委員 「依存している」というやつを前に持って行って、「依存している関係自治体等に感謝する」。

◎武藤委員長 そうですね。じゃ、そうしましょうか。「依存している関係自治体等に感謝し」、「状況を解決し」は削っていただいて……。

◎渡辺委員 新ごみ。

◎武藤委員長 「新ごみ処理施設の建設に向けた着実な取り組み」、「ごみ減量のさらなる推進」、そうするとちょっとつながりが悪いですね。「感謝し」、だから、「感謝し」って動詞で来てるから「取り組み」ですかね。「新ごみ処理施設の建設に向けて」、「向けた」、どっちだ。「建設に向けて着実に取り組み」ですか。「向けて着実に取り組み、ごみ減量をさらに推進することは市政の重要な課題です」。どうですか。基本構想にちゃんと感謝していると書き込んだ。

◎事務局 「するとともに」とかですか。

◎武藤委員長 「感謝するとともに」ね。「依存している関係自治体等に感謝するとともに」。

◎三橋委員 「広域支援体制」って入れたほうがいいと思うんです。あと、もう一つは「支援に」ですか。

◎武藤委員長 広域的な支援、広域的な……。

◎三橋委員 いやいや。

◎事務局 1つには、現在受けている支援は人道的支援がありますので、広域的な支援という言い方になるかとは思いますが、広域的な支援をいただいているとか書こうと思って、いただいているまで書きかけたのですが、ちょっと見ていただいて。

◎三橋委員 主語は何ですか。感謝は我々ですよ。そうすると、支援しているじゃおかしくないですか。

◎武藤委員長 支援しているのは関係自治体だから、その文章はそれでいいんですが、ずっと読むとどこか主語と述語がいけないのか、形容詞のつけ方がいけないのか、ずっと読めないというところがあるんですね。可燃ごみの処理について、広域的な支援……。 「関係自治体等から広域的な支援を受けていることに感謝するとともに、新たなごみ処理施設の建設に向けて着実に取り組み、ごみ減量をさらに推進することは市政の重要な課題です」。

◎渡辺委員 これ、支援を受けてるの？ お金、払ってるんじゃない？

◎事務局 払っております。年間5億円ぐらい。

◎渡辺委員 経済原理で解決しているだけではなくて。

◎武藤委員長 そう言うと関係自治体等からおしかりの言葉が来るかもしれない。別にうちは買わなくてもいいんですよということになりますね。

◎渡辺委員 ま、そうですね。それはよくわかります。

◎三橋委員 あと、この10年間の市のすごく大きな課題として、ごみ減量をさらに推進することもそうなんですけれども、さっき言った広域支援体制を維持するってすごく大変だと思うんですよ。毎年、その維持に相当な労力を使われているのは事実なので、広域支援体制の維持というのはつながりが悪いという話だったんですけれども、そこを削られるというのはちょっと……。支援を確保しつつというよりは、広域的な支援を確保。

◎渡辺委員 「広域的な支援を受けつつ」……。

◎玉山委員 支援の確保にというのが1つ……。

◎事務局 何て書けばいいかということはありませんけれども。

◎三橋委員 僕は、「広域支援体制の維持」と見たんですけれども、それだと自分たちが維持するのかなっちゃいますかね。

◎武藤委員長 維持してもらうんだもんね。

◎三橋委員 維持してもらうか。

◎永田委員 受け身なんですよ。

◎三橋委員 いや、結構積極的にこっちから言って初めて維持ができるんですよ。

◎永田委員 もちろんそうなんですけれども、でも、嫌がってはいたんです。

- ◎三橋委員 嫌だと言われても、お願いしますですけども。
- ◎永田委員 何とかしないといけないからね。
- ◎三橋委員 そうそう。それが維持させるということなんですかね。
- ◎武藤委員長 ま、わかってることだからいいんじゃないですか。そこ、そんなにこだわりますか。感謝も基本構想、事あるごとに口頭で、あるいは文章で感謝の文章を書くけれども、基本構想の中に感謝を書くかなと思ったんですけどもね。
- ◎淡路委員 でも、すごい具体的ですよ、文章がね。
- ◎武藤委員長 うん、ほんと。
- ◎淡路委員 ここ、課題の方向、こういう課題がありますよぐらいで、その解決は基本計画のほうで、将来像を前提にやるような気がするので、あまり細かい話で、とてもついていけない。
- ◎三橋委員 10年間、この課題がもう少し婉曲的になるんだったらいいんですけども、はっきりと見えていますからね。
- ◎淡路委員 だから、それは将来像の取り上げ方によって違うのであって、ここであまり方向性を出すというのもどうかなと思う気がするんですけどもね。こんな課題がありますよと言って20個出てきたと。それを将来像を目指して4つに絞ったというストーリーのような気がするんですよ。これだと、これ、必ず入れないとだめな感じでしょう。
- ◎武藤委員長 必ず入れないとだめなんですよ。
- ◎渡辺委員 そこのところ、時間に依存しているから新ごみの前まで、とにかく線を引いておいて、まとめる人が引けますということで。依存している……。
- ◎三橋委員 消しちゃいました。
- ◎渡辺委員 消さないで、線。新ごみの前まで。
- ◎武藤委員長 新ごみの前の部分ですか。関係自治体……。
- ◎渡辺委員 可燃ごみ、そうそう。
- ◎武藤委員長 その部分を？
- ◎渡辺委員 それ、ちょっとここで議論しても尽きないですね。だから、二重取り消しということ。
- ◎武藤委員長 そうですね。二重取り消し線。
- ◎渡辺委員 これ、入れるべきかどうかという……。
- ◎武藤委員長 なるほど。審議会だね。議論するという、そういう意味だね。
- ◎渡辺委員 その上で、雨水浸透ますの前の形容詞はいいですね。
- ◎武藤委員長 そうですね、全国で最も高いは要らないですね。
- ◎三橋委員 取り消し線、せめて黄色い線からにしてもらえませんか。取り消し線というのはちょっと……。
- ◎鮎川委員 消すのを前提にしていますね。
- ◎三橋委員 前提にしていますよね。

◎渡辺委員 いやいや、完全に消したわけではないから。

◎三橋委員 いやいや。

◎事務局 ちょっとよろしいですか。雨水浸透ますの話があるのですが、年度あたりの雨水浸透ますの設置件数は確かに下がっているのですけれども、新規着工件数に関しては、必ず雨水浸透ますを設置するように指導がされていますので、その率は基本的には100%と認識しています。あとは補助金で、この制度が始まる前に建てた建物についてやるときは補助金を出しているということなので、減っているのは着工件数の問題だと思います。順調に伸びているので、雨水浸透ますについて抜本的な対策をする必要はないのかなという認識なのです。

◎武藤委員長 そうですか。じゃあ、従来の政策も継続でいいということですね。

◎事務局 もちろん雨水の浸透については、そのほかにも道路の問題がありますし、あとは貯留の問題もあるのですが、浸透ます、特に家屋に設置することに関してはそういう認識なのですけれども。

◎三橋委員 これ以上、じゃあ比率は増やせないということですかね。

◎事務局 いや、新築に対する制度は完成されているので、順調に伸びていくはずなのです。

◎永田委員 結局、新築と建替えは、要するに100%設置としなければいけないということですね。

◎三橋委員 そうなんですか。いつからですか。

◎事務局 いつからというのはちょっと……。不勉強なのですが。

◎武藤委員長 10年……。

◎事務局 もっと前。30年ぐらいですね。

◎三橋委員 うそ。

家、3年前に建てたけど。

◎事務局 いや、多分業者さんが説明しなかっただけで、そういうふうには建てられているはずですよ。私も実は買ったときには、説明なかったのですけれども、確認したらそうだった。

あとそのほかにも、水を少なくするコマとか、結構されていたりするのですけれども。

◎三橋委員 そういうふうにもうできているのですか。

◎事務局 だから新築であれば、雨水浸透ますも設置済みです。

◎三橋委員 入っている。

◎玉山委員 土台構造の一部も自動的に組み込まれているということですよ。

◎永田委員 雨樋は伝うところにゆっくり流れていく。排水が特にいいよという浸透性があるという。見栄えはちょっと関係なしに基礎……。

◎武藤委員長 そうですね。土台は関係ないですね。一応外構工事ですね。

◎三橋委員 じゃあ、もう課題にはならないということですか。

◎事務局 と思っております。

◎永田委員 しかも貯留槽とかわからない。

◎事務局 貯留は課題かもしれないですね。

◎武藤委員長 貯留ね。雨水を貯留して。

◎永田委員 だから、どういうふうに……。

◎吉良委員 補助金を出しているのですけれども、なかなか出ない。

◎永田委員 降る雨水をどうするかというのはわからないですよ。だからそっちのほうが大きいですね。

◎武藤委員長 それはそうですね。

◎事務局 実際、現在は道路の雨水も下水に入って、税金を使って処理している現状なので、それを返せば税金も必要なくなるし、浸透率も高くなる。もちろん工事の費用はかかるということでございます。

◎渡辺委員 だから、そこ消しちゃえばいい。

◎武藤委員長 そうですね。そこの次ですね。そこは……、今のところは残しててもいいんだ。

「近年は」、そこをとっちゃうのですね。市内のみどりは何%減……、市内のみどり？ そうか、市内のみどりの話から次が雨水浸透ますの話に移っているわけか。減少しました。じゃあ、そこはとってしまって、「これまでと同じ施策では」そこもとっちゃうという、次のところもね。みどりのほうにかければいいのか。

◎三橋委員 これは「みどりと水」の話ですよ。

◎武藤委員長 それはそうですね。

◎三橋委員 「これらの」というのは「この」でいい。「これら」じゃなくて。

◎武藤委員長 そうですね。「この傾向を改善することは難しく、抜本的な対策が必要です」。

◎三橋委員 ここちょっと強くしたんですよ。

◎事務局 質問なのですが、このみどりというのは緑比率とかのイメージになるのかなということなのですか。

◎三橋委員 そうですね。

◎事務局 計画期間にぴったり合う形で緑比率の検査をしているわけではないので、平成21年度現在で何%まで減少しましたという言い方しかできないと思われませんが、年内には判明するように。

◎武藤委員長 年内？

◎事務局 今、みどりの計画のことで環境政策課が調査していると聞いていまして、12月には数字が出そうだと。若干、おくれとかあるかもしれないのですけれども聞いていますので、数字がとれたところで入れていくのでよろしいですか。

◎武藤委員長 じゃあ、昨年度の数字を入れておくと。

◎渡辺委員 これ、シンボリックにみどりというやつで、小金井は桜が1万本以上あったわけでしょう。それが何本もないという。一番切っちゃったので、そういうのってシンボリックに入らないから、何となくわかりやすい。小金井は桜の町ですからね。

◎三橋委員 あとは生産緑地なんですよ。もし、具体的に書くんだったら、お話しになっているところでは、その桜の話か生産緑地の減少……。

◎渡辺委員 ま、いいか。とりあえず書いておきましょう。

あと、第3次基本計画の前に小金井市と入れたほうがいいのじゃないですか。しつこい？

◎武藤委員長 それはいいんじゃないですか。

◎渡辺委員 下をぱっと見たとき、国の政策かなと思って。

◎武藤委員長 ああ、3次、そうですか。

◎渡辺委員 勘違いしちゃった。

◎三橋委員 実施期間でいいのでしたっけ。何期間というのでしたっけ。後でチェックしてもらえばいいですけども、実施期間という言い方なのか、策定期間というのか、言い方あったなとかも思っていて、もう調べるのめんどくさいやと思って……。細かいところまでチェックできないと思って。

◎武藤委員長 何だったっけ。計画期間だったっけ。目標年次、計画期間、基本構想の実施期間を通じて……。

◎事務局 現実には私が理解しているところでは、基本構想の場合は厳密に10年ではなくて、目標年次という言い方をしているはずなのです。それに対して、基本計画以下については計画期間と呼んで5年とか3年とかいうところで、一応3次についても平成22年を目標年次とするという書き方になっているものです。

◎三橋委員 計画期間はないということですかね。

◎武藤委員長 構想期間だから、「第3次基本構想期間を通じて」でいいんじゃないですか。

◎鮎川委員 4ページに、「基本構想は平成13年度から平成22年度を計画期間とした」という言葉が書いてあります。

◎三橋委員 後で統一していただいて……。

◎鮎川委員 そうですね。

◎武藤委員長 だから、やっぱり計画期間か。「第3次基本構想の計画期間を通じて」。

◎事務局 申し訳ありません。そう書いてありますので。

◎武藤委員長 ね。「第3次基本構想の計画期間を通じて」で。

◎事務局 失礼いたしました。

◎武藤委員長 可燃ごみの処理について、そこはイタリックになったというのは新たに……。

◎鮎川委員 要検討。

◎武藤委員長 要検討とね、はい。

では、ほかのところ、どうですか。子育てとか、サイレント……。

◎永田委員 非常に細かいところなのですが、みどりの1行目なのですが、**「豊かな」**にひっかかるのです。

◎武藤委員長 **「豊かな水とみどりに恵まれ」**。

- ◎永田委員 恵まれているのが……。結構断水することがありますから。
- ◎武藤委員長 そうですか。
- ◎永田委員 そういう意味では、「豊かな」というのは、私だと突っ込みたくなる。
- ◎武藤委員長 なるほど。じゃあ、水とみどりですね。「豊かな」はとると。
- ◎玉山委員 ただ、地下水は潤沢みたいですね。小金井の水道水の7割は地下水ですけれども。
- ◎武藤委員長 地下水が豊か。
- ◎玉山委員 目で見える河川的な……。
- ◎永田委員 喝水すると断水しちゃうのです。
- ◎玉山委員 多分これ、「豊かな水」はその地下水路がどうも。
- ◎事務局 事務局ですけれども、湧水とか、玉川上水とか、野川でも厳しいところは……。東京都としては、しみ込みにくい川底の工事は去年完成したところだと伺っておりますけれども。
- ◎永田委員 結局湧水です。宅地率がかなり上がってきたので、その影響だと思います。湧水の箇所はかなり減ってきている。そういう意味では、確かに川底に逃げる水は多いかもしれないけれども、全体的には水量は落ちてきた。これは間違いないと思います。
- 結局、何が言いたいかという、三鷹から先はある程度水量がある。それはなぜかという、多分ICUの問題だとか、いろいろと。
- ◎事務局 いや、別件で済みませんけれども、水の問題を去年50周年記念事業でやったものですから。そのときに言うには、小金井の地下水浸透の水がわくのが三鷹市あたりだというお話でした。
- ◎渡辺委員 そのとおりです。
- ◎玉山委員 浸透ますの地上格差が。
- ◎事務局 浸透の関係で、雨と生きるまちづくりということで、八市長サミットを去年行いまして、その関係の中で小金井市さんにはお世話になっているみたいなお話があつて。ただ、今、三鷹市とかもまたすごく積極的に取り組んでいるということなのですから。
- ◎渡辺委員 雨水浸透ますって小金井市のためにやっているんじゃないんだよね。
- ◎武藤委員長 それはそうです。小金井市にとって役立たなくてもだめじゃないです。
- ◎渡辺委員 三鷹市のためにやっている。
- ◎武藤委員長 でも、全体として地下水でいうと、昔は26市の中でも井戸を掘って水をとっていたところがいっぱいあるのですが、水道に使っているの、もう今や昭島だけでしょう。
- ◎事務局 昭島は100%です。
- ◎武藤委員長 100%。
- ◎事務局 はい。小金井市も70%、水道水の水源は地下水です。
- ◎武藤委員長 そうなんですか。
- ◎事務局 はい。利根川水系は30%です。
- ◎玉山委員 そうなんです、そうなんです。すごくいい水です。

◎武藤委員長 そうか、100%……か。

◎事務局 それなので、よく23区と比べて、水質、夏と冬の水温、やっぱり地下水源が多いほうが穏やかですからね。

◎武藤委員長 そう言われていますね。そう。ほかもそうなんですか。

◎事務局 はい、近隣も。

◎武藤委員長 近隣も。

◎事務局 地下水源比率高いです。

◎武藤委員長 そうですか。でも、それ、全部東京都にお願いしちゃっているのでしょうか。

◎事務局 小金井市の場合はそれが23年度末で返還——逆委託というのですけれども——市町村がやるべき水道を東京都に委託しているのが、今市町村に……。

◎武藤委員長 また戻ってくる。

◎事務局 市町村がやっているんです。小金井市も今、浄水業務とか給水工務業務とかは市がやっております。それを23年度には東京都に返すことは決まっているのですけれども、もちろん地下水をどう維持するのかというのが課題になってくると。

◎武藤委員長 そうですね。それはもうちょっと広域的な点から考えないとだめですからね。

どうでしょうか。「豊かな」をとるか、とらないか。あってもいいですか。

◎永田委員 そういう背景であれば。

◎武藤委員長 いいですか。

◎永田委員 結構です。

◎武藤委員長 では、ほか。

◎三橋委員 さっきの、後で検討でいいのですけれども、斜体のところの2行、もう一回戻ってもらっていいですかね。

「感謝する」と、「引き続き広域支援先の確保に努め」としてもらってもいいですか。

◎武藤委員長 はい。そうですね。努力の「努」ですね。「確保に努め」。「広域的な支援の確保に努め」。

そのサイレント・マジョリティという言葉なんですけれどもね……。

◎三橋委員 何かいい言葉ありますか？ 僕もこれ、自分で書いて「いわゆる」とつけたのですけれども。辞書とかで調べると何て出てきたかな。

◎武藤委員長 じゃあ、「声なき市民の意見を市の施策にどう反映させていくのかについて」、どうですか。声なき市民。

◎三橋委員 声なき多数のですか。

◎武藤委員長 正確に言うと多数。でもどうですかね。多数……。声なき……。まあ、多数入っているわけですね。それでサイレント・マジョリティの訳語だとか、訳語は適当に概念でわかりますので。

◎渡辺委員 差別用語になりかねない？

◎武藤委員長 声なき多数の市民？

◎渡辺委員 サイレント・マジョリティ。

◎武藤委員長 サイレント・マジョリティのほうがですか。

◎渡辺委員 という言葉自身がね。

◎三橋委員 どういう意味で差別なんですか。

◎渡辺委員 要するに、サイレントでいることでいいと思っている人もいるわけでしょう。

◎武藤委員長 使われているときに、最初が60年の安保のときの国会でデモしている人に対して、銀座で買い物している人もいるんじゃないのという使い方をされたんですよ。

◎渡辺委員 多くの市民の、マジョリティなんだから多いんだから、多くの市民の意見……。

◎武藤委員長 「声なき」はなくてもいいかもしれませんね。多数の市民の意見を施策にどう反映させていくのかについては、市民ニーズを適格に把握する上でも課題となっていますという。そうですね。多数の市民の意見。「地域とのつながりが薄い市民も多く」、ですよ。だから、そういうつながりが薄い市民が多数の市民ということになるから、「多数の市民の意見を市の施策にどう反映するか」について、市民ニーズを適格に把握する上でも課題となっています。

どうですか。いいですか。

◎三橋委員 はい。

◎武藤委員長 ノーマライゼーションとかバリアフリーは……。

◎事務局 市民なんですか。高齢者？

◎武藤委員長 高齢者のところ。

◎事務局 特徴のところが「高齢者の就業率」になっているのですけれども、市の素案の中で書かせていただいたのは平均寿命なんです。平均寿命とシルバー人材センターの加入率、組織率なので、平均寿命でももし……。

◎三橋委員 いいです。僕、平均寿命と書こうとしたのですけれども、数字がわからなかったの。

◎事務局 平均寿命が男性10位、女性80位ぐらいになったということなののですけれども。

◎武藤委員長 「全国的に」も打たなくていいか。「シルバー人材センターの組織率は全国に比較しても」……。

◎事務局 全国トップクラスでもいいです。

◎武藤委員長 そうか。全国トップクラスだよ。全国トップクラスです」。

課題の「駅周辺開発、道路等の整備」のところなのですけれども、ここもフェスティバルコートや市民交流センター、商店街の活性化、まちびらき。

21年3月にまちびらきが実施された。これ、何か具体的過ぎませんか。10年経ったときに21年とか、こういう話は懐かしいなと思う、そのくらいしか出てこないと思うのですが。

◎三橋委員 全体的にとおして言えるのですけれども、平成19年の人口のデータを使ったり、

数字をどこまで使うかによってだと思えます。数字とか年号とか一切使わないとあればそういう統一かなと思うのですが、ほかでも使っているかと思って入れさせてはいただきました。

逆に言えば、まちびらきの実施があまり適切でないということであれば、それも1つなのかなと思うのですけれど。

◎武藤委員長 要するに、駅周辺開発にとっては1つの画期であった。まちびらきはそういうフェスティバルであったということ。

◎三橋委員 ま、そうですね。

◎武藤委員長 じゃあ、そういうことであれば、ここはまちづくりが実施されましたがでいいと思えますが、フェスティバルコートとか市民交流センターとか……。

◎三橋委員 それはとっていただいても。

◎武藤委員長 こころはどうか。

市の主要な施設とか何か言いかえるのがあると思うのですけれども。商店街の活性化はいいとしても。

◎三橋委員 フェスティバルコートは市の主要施設ではないのですよね。

◎武藤委員長 では、何ですかね。主要施設の次は「活用」か。

◎鮎川委員 これって要するに、武蔵小金井駅の南口のあの再開発地域のことでしょ。

◎三橋委員 ひとつ、それを象徴的に言ったのですけれども、ハードだけでなくソフトのこともやらなければいけないよという話で、例えば、フェスティバルコートの話だとかは、まさに町田さんとか今井さんなんか一生懸命やっている話ですけれども。

◎永田委員 ハードというよりはにぎわいをつくるという意味からすると、積極的なことをやっていないといけないよと……。

◎三橋委員 そうしたことなので、だから、具体的なやつを入れたいというよりは、そういったことを言いたいということが趣旨なので、それは具体的には書き過ぎだということであれば。

◎武藤委員長 正確だけれども、ちょっと……。

まちびらきって、そこ括弧したらどうですか。ひらがなだから括弧したほうが。

◎渡辺委員 かぎ括弧でくくらないと。

◎武藤委員長 そこの上のところは、まあ……。

◎事務局 事業名じゃなくてとるとのことですよ。

◎三橋委員 とってもいいかなという感じはしますよね。

◎武藤委員長 それはいらぬですよ。

◎三橋委員 で、逆に言えば、東小金井のほうも事業じゃなくてもいいというのだったら、下を変えてもいいです。

◎武藤委員長 「東小金井駅の北口の土地区画整理事業等について」……。

◎三橋委員 「北口について」でもいいと思えますね。

◎武藤委員長 「東小金井北口について」……。

- ◎渡辺委員 「まちびらきが実施されました」。まちびらきって柔らかい言葉で実施は固い言葉ですから、「まちびらきが行われました」がってどうですか。
- ◎三橋委員 異存ないです。
- ◎武藤委員長 市民交流センターはそこら辺にできるわけなんですね。
- ◎渡辺委員 これ、ハード面ってあるの？
- ◎三橋委員 ハード面。今後ということですか。
- ◎渡辺委員 第1地区では、もうソフトの充実だけしかないんじゃない。
- ◎三橋委員 そうですね。
- ◎武藤委員長 そうですか。もうあそこは、あれ以上建たない。バス停とタクシー乗り場。
- ◎渡辺委員 全部計画済み。箱ものは全部つくり終えるわけでしょう。
- ◎三橋委員 この2年後にはということですね。
- ◎渡辺委員 言葉でいうと、活性化の後、ソフト面のほうがゴロはいいよね。活性化の後、ハード面。
- ◎三橋委員 わかりました。
- ◎武藤委員長 うん、そうですね。
- ◎渡辺委員 むしろハードのほうは第2地区と北口ですよ。
- ◎武藤委員長 はい、どうでしょうかね。そんなところで、
では、Cの教育、Dも見ましたので……。
- ◎永田委員 済みません。細かいことで恐縮ですけども。
特徴のところ、中央本線の下りと書いてあるのですけれども、上り……。
- ◎三橋委員 済みません。眠い目をこすってやっつけでやっているのがばれてしまう。申しわけないです。
- ◎永田委員 それとあと、課題のところの「円滑な交通と」の後かな。「通勤通学者の安全確保や利便性を高めるとともに」。それでは通勤通学者に絞られちゃうのというのが。
- ◎三橋委員 そうなんですよ。これはどこからとったんだっけな。ごめんなさい。それもどっかからとって、「歩行者の」というぐらいな感じですかね。
- ◎永田委員 そんな感じですよ。
- ◎三橋委員 そうですね。
- ◎武藤委員長 「円滑な交通と通勤通学者の安全確保や利便性を高めるとともに」。
- ◎三橋委員 ここ、「通勤通学者」を「歩行者の」にかえてと。
- ◎武藤委員長 「市民の」というのはどうですか。「市民の安全確保や利便性を高めるとともに」。
- ◎鮎川委員 そうですね。歩行者だけとは限らない。市民のほうがいいですね。
- ◎三橋委員 わかりました。いや、それ何で歩行者かといったのは、「歩行者が安心して暮らせるまちづくり」が重点の中に1個あって。

- ◎鮎川委員 ありましたっけ、済みません。
- ◎三橋委員 道路は歩行者が課題だというので、そういった意味まで言ったんですけども、そうではなくてということであれば。
- ◎鮎川委員 済みません。見落としていました。
- ◎三橋委員 いやいや。
- ◎武藤委員長 という趣旨から歩行者と言ったけれども、ここは市民でいいということでしょう。
- ◎三橋委員 そのほうがいいですか。それはどちらでも。あえて歩行者に限定しないほうがいいということであれば、歩いて暮らせる交通環境という重点施策にかこつたというわけではないですけども。
- ◎武藤委員長 それは身近に自転車に乗っている人もいますから。
- ◎三橋委員 では「市民の」にしましょうか。
- ◎武藤委員長 それでよろしいですか。
- ◎渡辺委員 「元気な高齢者と充実した教育環境」というやつで、「トップクラス」が3回も続くんですよ。
- ◎三橋委員 失礼しました。
- ◎渡辺委員 それはちょっと減らしてもいいかなって。
- ◎武藤委員長 なるほど。
- ◎渡辺委員 平均寿命がトップクラス、人材センターの組織率もトップクラス、子どもの教育がトップクラスという、どれかがわかっていいのだけれども、文章として流れも……。
- ◎武藤委員長 組織率は全国でトップ……。
- ◎渡辺委員 「本市における平均寿命、シルバー人材組織率は全国においてトップクラス」でいいですよ。
- ◎三橋委員 でも全国的に高くというのは、「高く」と「トップクラス」では意味が違うのではないか。さっきのお話だと、平均寿命80歳幾らいなわけですよ。80歳といたらトップクラスということですかね。
- ◎事務局 男性は10位。
- ◎三橋委員 で、女性が80位ぐらい。
- ◎武藤委員長 都道府県単位でなく市町村単位で。1,700、1,800ある市町村の中で10位。それは高いですよ。
- ◎三橋委員 じゃあ、トップクラスで両方ともまとめちゃいましょうか。「平均寿命及び」…。
- ◎渡辺委員 組織率で。シルバー人材センターの組織率は全国でもトップクラス。
- ◎武藤委員長 「本市における平均寿命やシルバー人材センターの組織率は全国トップクラスです。

また、教育は学校教育のみならず、生涯学習を含めた地域や家庭との連携と努力により、社

会全体で子どもを支える体制の整備を進めた結果、都内でもトップクラスの学力を誇っています」。

はい、いいですね。

さて、そろそろ次に行きましょうか。Eのところは、最後のところで、これから直さなくてはいけないというところがありましたよね。網かけがついていたところですが。

◎三橋委員 Dは1個ですよ。

◎武藤委員長 D。Dはどうですか。

◎事務局 済みません。Dの下から2行目のところの「住民投票条例」という文言が入っているのですが、市民の参加条例の一部改正によって常設型市民投票制度の設置がされたということなので、そのことをおそらくおっしゃっていると思うので、住民投票条例という文言が市民参加条例だと思うのです。

市民参加という表現なのか、確かに通過点などで市民運動の大きなうねりという背景を持っていたのですが、成立過程において議員提案ということで設置してございまして、なおかつ改正条例の附則に、今後市長は広く市民の意思を反映させ、市民投票制度に関する制定に向けた、必要な準備をするものという規定も入ってございまして、今後市民参加によってつくっていくということなので、市民参加によってできたという表現はなじまないと思います。

◎三橋委員 だから、単純にそのことを言いたかっただけなのですから。ごめんなさい、僕も1個1個調べずにやっている……。

◎事務局 これからつくろうということですか。

◎三橋委員 そうです。これからつくろうということに対して関心が高くという意味で言ったのですけれども。

◎事務局 わかりました。それなら結構です。

◎武藤委員長 じゃあ具体的にどういうふうに直しましょうか。住民投票条例ではないということで、「市民参加条例の一部改正により」、そんなふうに書きますか。

◎三橋委員 改正じゃなくて制定になるんですか。一からそういうのをつくるということになるのですか。

◎武藤委員長 もうできてるんでしょう。

◎事務局 いや、今後市民投票条例をつくっていくと書いてあるのであれば、そのとおりです。

◎三橋委員 ですよ。市民投票は改正ではなく制定ですね。

◎武藤委員長 そうですか。

◎三橋委員 投票条例。

◎武藤委員長 参加じゃなくて。

◎三橋委員 そうですね。市民投票条例の市民参加による制定。

◎武藤委員長 じゃあよろしいですか。

では、次にEにいけますが。

◎事務局 では、もう1点いいですか。さっきより戻っているのですが、新ごみ処理施設のところの「住民との協働の推進が最大の課題です」というのは、先生がおっしゃる意味ですと、参加なのか協働か、協働が何をイメージして一緒にコラボレーションしていくのかを確認しておいたほうがいいと思うのですが。

◎渡辺委員 住民投票での推進か。

◎三橋委員 ごみ対策課とかはこういう言葉の使い方をしてしています。ごみの委員会とかごみ処理の担当課とかでは住民との協働を進めていきますという言い方をしていますが、この審議会としては違うということであれば。

◎事務局 中身についてなんですけれども、新ごみ処理施設を協働によってつくっていかねばいけないという意味なのか、その前提として行政と地域の方々との関係があるので、その地域に焦点を当てた協働推進が必要だということなのかと。

◎三橋委員 両方ですね。

◎武藤委員長 でもここは確かに地域の問題については協働のものもあるけれども、ごみ施設に関してはもう市の義務になっているからこれは「参加」ですよ。「協働」よりも「参加」。ただし、その周辺部分に関しては住民との協働はあり得るけれども、ここは市民の参加を得て、いかにいい新ごみ処理施設をつくるかということですから、ここは「参加」で。

ただ、周辺住民との協働でやることというのはごみ処理そのものじゃないですよ。ごみ処理は市がやるので、そこに協働というと、例えば、運営自体も住民がNPOをつくって維持管理することは考えづらいですね。周辺住民との問題はあるから、それはどういうふうを書くかということですよ。新ごみ処理施設……。

◎三橋委員 これは、実際に文言って議会答弁でもあると思うので、それに合わせて書いてもいいかなと思うのです。僕も議会答弁まで調べている余裕がなかったので、ここら辺の言葉ってそれなりに大事な表現ですから、多分協働の推進でだめということはないと思いますけれども、きちんとやっておいたほうがいいかな。

◎武藤委員長 じゃあ事務局のほうでできますか？

◎事務局 はい。

◎武藤委員長 じゃあ、そこは……。

◎三橋委員 僕のほうでも調べます。

◎武藤委員長 これ、「住民」かな。「住民」じゃなくて「市民」じゃないですか。

◎渡辺委員 市民。

◎三橋委員 「協働は」。あ、「協働は」でも。

◎渡辺委員 済みません。「協働」がいいのか。「周辺住民の協力のもと」とか、何か「協働」じゃないような気がするよね。「当事者」ですかね、これ。

◎武藤委員長 周辺住民が反対することが前提にあるわけですね。

◎三橋委員 要は協議体制の整備とか、確立とかということなんですけれども、ただ、そこら辺の言

い方ってきちんとした表現があるので、そこのところは確認して入れるようにします。

◎武藤委員長 時間の関係があるから次に行きましょうよ。で、また審議会で議論をするわけですし。

前段はいいかなというので、後段はどうですかね。「一方で、日本経済は安定成長期に入り、人口減少に伴う経済活動停滞の懸念等、外部環境は厳しさを増しています。本市においても高齢化に伴う福祉分野での負担増の一方、市民の課税所得の低下が市税収入減少につながる恐れがあり、計画的な行財政運営を行うことが必要です。

また、新ごみ処理施設の建設、駅周辺のまちづくり、さらには平成35年（2023年）頃からと見込まれる人口減少や施設の老朽化、金利の上昇（公債残高の抑制）にも備えていく必要があります。」。

この網かけは、もう一度書き直したいということで網掛けされているのですよね。

◎三橋委員 そうですね。あと、財政って現状のところとの整合性が若干あったかと思ったので、そういうのを踏まえて、現状のところと将来的なところ、図表を入れるとかいう話もありましたし。さらっと書くならこれぐらいなのかと思いましたけれども、これは基本的に市が書いたやつに近隣の部分をつけ加えたぐらいなので。

◎武藤委員長 そうですか。

◎三橋委員 そんなに大きくは変わってないかと思います。

◎武藤委員長 先ほど、上のところでは安定的だと言っておいて、「市民課税所得の低下が市税収入源につながる恐れがあり」だから、現在は安定的だけれども、今後は怪しいこともあると。それはそれでいいのかな。

◎三橋委員 また、比較的ということは今度はどこまでとるかですけれどもね。多分、これが先ほどの第2章のところでも同じだったかな。

◎武藤委員長 2章のところ。

◎三橋委員 資料61です。

◎武藤委員長 「日本経済の見通しも不透明さを増し」という、そこら辺の話でしたね。

◎三橋委員 そうですね。

◎武藤委員長 2023年、これは平成35年、計画期間を超えているのですよね。小金井市の人口減少は平成35年ごろから始まるという予測なのですね。ここはいいか。計画期間が、第4次が終わるころにこういう状況になっているということですね。そんな先の話ではないですね。

◎鮎川委員 済みません、一ついいですか。鮎川です。

決して職務代理者に盾をつくつもりでは決してないのですけれども。

◎三橋委員 言ってください。

◎鮎川委員 ごみ処理に関して、課題でAでも出て、Dでも出て、Eでも出て、3カ所出ているので、せめて2カ所ぐらいに絞ったほうが……。5項目あるうちの3カ所に出ているので、

Aは必ず不可欠だと思うのですが、きっとEも不可欠でしょうかね。市民との協働にここはかかってくるのですが、このあたり、最重要課題であることは素人の私でももちろん百も承知しておりますが、3カ所多いかなという気もしたのです。どれも外せないでしょうか。

◎武藤委員長 お金がかかるという意味だと、入るからEから抜けないとなると「市民との協働の推進」でゴミ処理施設ってやっぱり「協働」ですかね。

◎三橋委員 縦横論をどう考えるかなんですけれどもね。

◎鮎川委員 そうですよ。

◎武藤委員長 やっぱりお金がかかる順番でいくと、どちらですか。駅周辺、まちづくりとゴミ処理施設。

◎事務局 まちづくりのほう……。

◎武藤委員長 まちづくりのほうがお金かかりますね。

では、順番としては駅周辺、まちづくり、新ゴミ処理施設の建設、さらには人口減少や施設の老朽化、金利の上昇——金利の上昇は国のほうが大変ですよ。金利が上がっていったらね。500兆あるんだから。まあ、これはいいか。いかがでしょうか。

では、このくらいにして次のところに行きましょうか。次のところもすごく大事なところですよ。

◎三橋委員 将来像。

◎武藤委員長 違う、将来像の前に基本姿勢でしょう。

◎事務局 委員長、ちょっと休憩をとったらいかがでしょうか。

◎武藤委員長 ちょっと休憩とりましょう。

(休 憩)

◎武藤委員長 じゃあ再開しましょうか。再開します。

資料51の5分の4、淡路委員作成のまちづくりの基本姿勢が素案ということになります。

では、すみません、淡路委員。

◎淡路委員 これは素案でもないんですよ。

◎武藤委員長 うん。素案ではない。お願いしたところではなくて、ついでに直していただいたという。

◎淡路委員 そうそう。ついでに直していますから。だから、これの4ページのついでに直した版という範囲でちょっとご紹介します。

まちづくりの基本姿勢ということですか。どうしますか、これはポイントを読み上げて、ポイントを説明するということですか。

◎武藤委員長 はい。

◎淡路委員 じゃ、そんな形で。

3行です。まちづくりの基本姿勢の意味を、位置づけを書いているということですか。

「基本構想に関する」、これは主語を入れてもいいかなと思うんですけれども、「私たちの

取り組みは」でいいと思うんですが、まだ、「私たち」は決まっていなかったので書いていませんが、「取り組みは、この基本姿勢に基づいて実践します。これにより、基本構想の目指すべき方向の実現に向けて、参加する主体が足並みをそろえて行動することを可能にします」という形で、まず、基本姿勢の意味、役割を書いたということです。ポイントは、足並みをそろえて、みんなで行動するための方針ですよというような位置づけでとらえたということです。

位置づけが終わった後、原文も3つで書いてありましたから、3項目という形で、一部書き直したということです。

「まちづくりは、私たち市民の」——これは「最適」なんですが、「幸せ生活」でもいいと思うんですが、個人ではちょっと「最適」というふうに考えているということです。「最適な生活を実現することです」と。

原文は「本市」になっていたので、「私たち」がいいかなという形で、括弧はそういう形で位置づけているということですから、どっちかにするという意味です。「私たちは、市民ニーズに基づいて共に考え、市民の生活を守り発展」、これは、原文のほうが「守り発展」なんですが、「安定と発展」でもあるかなという形で、括弧書きにしたということです。だから、括弧書きはどちらかにするという意味です。

「させることを最優先にしてまちづくりを進めます」という形で、これは1番ですけれども、一番重要なことということで、あらゆる政策形成、諸活動、協働の活動も含めて、それはあくまでも市民の「幸せ生活」に結びつくというところを中心にやっという形でつくられたということです。

2番目が、それにまつわる姿勢という形で、「協働によるまちづくり」という形で、表文とちょっと合わせているんですが、「協働」という形で作り上げました。

「協創」、つまり、コープロダクションのほうも、コラボレーションとコープロダクションのほうもあるので、小金井市は単に一緒にやるということではなくて、つくり上げることが必要だろうという形で、「協創」という言葉を括弧書きにしたということです。どちらかにするというようなことで、括弧書きにしてあるということです。

「まちづくりは」このまぐら言葉は全部一緒にしてあるということです。「まちづくりは、各主体の協働による創造的な活動」という形で、協働の意味を小金井市らしい形で表現してみたということです。それで、「実現します」と。「本市」あるいは「私たち」ですね、「私たちは、多様な主体の協働により、地域の特性と人と人との絆を活かした、共感と協創的な姿勢でまちづくりを進めます」という形で、協働の意味を説明したということです。

3番目が、上のほうは、やや個別最適なところもあるので、そうではなくて、全体も考える必要があるだろうという形で、個別のことも生かしながら、全体最適を考えているという形で、「全体最適を志向してまちづくりをします」という形で、3番目を書き上げたということです。まぐら言葉は一緒です。「まちづくりは、環境変化に最適に対応するため、総合的、計画的に行います」と。「私たち」「本市」、どちらかですね、「個々の状況にも配慮した全体最適志

向の計画的なまちづくりを進めます」という形で、市民の個々のニーズも重視するんですけども、全体の方向もとらえていこうという形で、全体最適ということを表現したということです。

「最適」は前回も説明したんですが、地方分権改革推進会議でちょっとあった言葉を使っているという形で、「最適」という言葉を位置づけたという形です。そんな形で3点を一応候補として書き直したということです。

◎武藤委員長 どうもありがとうございました。いかがでしょうか。

まず、主語の部分は、「本市」か「私たち」かどちらか選択ということになっていますが、最初の目的のところに「私たち」というふうに書いたわけですから、ここはやっぱり「私たち」でいいのではないかと思います。

(「異議なし」の声あり)

◎武藤委員長 じゃ、「私たち」で全部いくと。「まちづくりは、私たち市民の最適な生活を実現する」。

最適ということを分権改革会議が言ったときに、私はちょっとコメントをしたことがあるんですが、行政はやっぱりミニマムで、最適にするのは、市場を含めた経済活動を含めて最適がつくられるんで、行政が最適まで持っていくというのはどうでしょうかという意見を述べたことはあるんですけども。

◎渡辺委員 「市民の最適な生活」という、目的を何にして最適なのか。目的をここに出すべきであって、最適という概念は必ず目的があるわけです。その目的を最大限に出すというのが最適ですから、目的概念を最適に入れたほうがいいんじゃないかと思って。つまり、幸せな生活とか。

◎武藤委員長 そこは行政でかかわる分野ももちろんあるんですが、経済活動であったり、個人の文化活動であったり、家族のきずなであったりすることによって最適がつけられていって、それは自治体がかかわる、こういう基本構想で書くべきことでない部分ですね。少なくとも、家族のことについては、言い方は変ですが、家族の自治にゆだねておくというんでしょうか。もちろん、暴力があったりということでしたら、そこは社会として介入をしないんですけども、基本的には、家族のあり方は、もう家族に任せるとか、あるいは企業のあり方は企業に任せるといようなことで、その最適が生まれてくる、最も幸せな生活が出てくるんじゃないかと。

行政は、そういう意味で、生活保護の水準ということで行くと、今は低いとか、低過ぎるとか、あるいは非正規労働者の賃金も低いと。民主党は800円に最賃を引き上げるんだと。豊かな生活をするのには、やっぱり1,600円ぐらい欲しいですねといったときに、行政が、「じゃ、1,600円に」と言えるかどうかというのと、そこは1,600円で頑張る人、2,500円の人、5,000円の人、幾らでも、高くても構わないけれども、最低限のところだけは法律で決めたり、あるいは自治体の福祉施策としてやるべきものがある。最適なところは、市場にゆ

だねるところがあるんじゃないかなと思うんですけどもね。

だから、「最適な」ということの意味としては、幸せな生活とか言ったり、私たちが幸せという場合だったり、それから、「全体最適を志向した」というのも、そういう意味で言うと、ちょっと行き過ぎかなという気がしているんですけどもね。

◎渡辺委員 今、多分、行政とかいろいろなところでもはやりの言葉だと思うんですけども、僕ははやりの言葉として、これは理解はあまりしていないんですけども。最適という言葉の意味がどうなんだろうと。

◎三橋委員 最適の定義が、多分人によって違ってるわけですよね。

◎渡辺委員 「最適」としては、そういう定義はあるんですか。

◎淡路委員 定義は下の注釈ですよ。各地域に応じて、住民ニーズに応じた最適な政策と。

◎事務局 淡路先生、多分、ローカルオプティマムって言ってもわからないと思って、事務局で最適を注釈にしてみたんです。2番目は淡路先生もお聞きになっていると思うんですが、前段が最適に一般的な定義で、2番目が地方行政における最適というお話なんですけれども、今、論点としては、武藤委員長がお話になっている、行政が最適を持っていけるのかということだと思います。

◎三橋委員 これは、基本構想にこういう注釈は入れますか。

◎武藤委員長 いや、それは説明のときだけで、基本構想には入っていないですね。注として、どんな本でも入れてもいいので。

◎事務局 後ろに。

◎武藤委員長 うん、下の脚注にね。

◎三橋委員 それにもよるかなというところはありますけれどもね。

◎事務局 基本構想は、基本的に例えば中学生が読めるぐらいとかと考えたときに、最適と言われて、それが何かといたら、わかる人もいるけれども、わかんない人は結構いるということだと思うんですよ。

◎淡路委員 だから、(1)のほうは、私も幸せな生活のほうがいいかなとは思ったんですね。これは福祉に近い考え方なので、ここはそういう方向かなと思いますね。

3はどちらかと言えば、全体のオペレーションをしていくとき、どこに起点を起きますかといったとき、ベストはやれないし、もちろん最悪はやれないと。地域の事情とか住民のニーズに応じて落とすところがあるんじゃないかという意味で、全体最適という言葉を使ったということなんです。

だから、(1)と(2)は、そういう意味で、ちょっと意味合いが違うと。上のほうは、市民生活のことですから、幸せのほうがより広がるかなという感じはしますね。

◎武藤委員長 1のほうは問題ないですね。次の3の全体最適といった場合の……。全体最適というと、例えば野球チームで攻撃と守りと、攻撃だけ強くてもだめで、やっぱり攻撃が強いんだったら、それに合わせた守りも強くというのは、全体最適は攻撃と守りのバランスのよう

な意味合いでとっていく。サッカー選手のほうがいいかな。11人もいる中で、どこか飛び抜けて強いだけではだめで、何かバランスよく動かないとというような、そういう全体最適で、強ければいいだけの話じゃないんだという意味合いとして、全体最適というのは、何か私などはとってしまって、先ほどの目的に対して最も近づく最適という意味で、全体最適になると、ちょっと違った意味になるかなと。

◎渡辺委員 英語では、グローバルオプティマム。行政の言葉と、いわゆるもともとの言葉の定義が違っても、なかなか全体最適なんて見つからないだろうと思うんですよ。

◎武藤委員長 それはそうですね。

◎淡路委員 全体最適を志向したというかな。これは行政だとか、これは住民だとかという話がよく出るので、そうじゃなくて、地域から見た、住民ニーズから見たね。それを何ていう言葉で表現するかなんですけどもね。

◎渡辺委員 要するに、今我々が与えられている制約条件下において、一番いい政策を志向していけばいい、そういうことですね。

◎武藤委員長 そうということですね。

◎渡辺委員 市民というのは、いつも制約条件を忘れちゃって、市に文句言ってくるわけですよ。何にもしてくれないとか。そうでもない？

◎武藤委員長 なかなかそこで、はいとは言えないですね。

◎渡辺委員 いろいろな連立方程式があるから、その連立方程式の中で一番いい解を求めるしかないんだよと言うしかない。僕が学生と団交したとき、そう言ったんですけど。

だから、市民もある意味じゃホットなんだと。最適という意味じゃね。そういういろいろな制約条件下でいろいろなことをやらなきゃいけない。一番いいことをやらなきゃいけないというのでわかる。それこそ成熟した市民であれば。

◎武藤委員長 そうということなんですね。

◎渡辺委員 それから、環境変化に最適に対応する。これは適応って言うんですけどね。最適に対応するということは、専門的には適応。

◎三橋委員 そうなんですよ。僕も適応って言うほうがいいのか、淡路委員のほうで、資料61の意義と役割ですよ、このところで、何て書かれたかという、「目指すべき方向と基本的な考え方を共有し」、ここが将来像とすると、その次のところですか、「地域の独自の資源を利用し、活用したまちづくりを一層の参加と協働で推進する」となっているので、まちづくりの基本姿勢というのは、地域の独自の資源を活用することと、一層の参加と協働という2つをあらわされているのかなと思ったんです。最適とか生活というところが、策定の意義と役割で出てこないで、地域独自の資源を生かすというのが出ているんですよ。地域独自と言っているような市も結構あるんですよ。だから、自分たちの特徴を出すまちづくりをしましょうというのは、確かに1つの考え方としてあるので、意義のほうを直すのか、それともまちづくり基本姿勢のほうを直すのか、それを含めて1つの選択肢にはなるのかなと思ってはい

たんですけれども。

◎武藤委員長 その地域資源を生かすということは、2のところですね。「協働（協創）によるまちづくり」。ここのところも、今までの文脈からいくと、私は「参加と協働によるまちづくり」がいいのかなと。それはちょっと飛ばしちゃったんですが、「参加と協働によるまちづくり」で、「協創」という言葉は、この中の文章のどこかで使えればと思ってはいたんですけれども。

◎淡路委員 そうですね。2は前と合わせたほうがいいですね。これはまだ3が入っていませんでしたらからね。

◎武藤委員長 そこに地域の資源を活用という、市民が持っている多様な力を、参加と協働を通じて引き出し、まちづくりに使っていく、まちづくりに生かしていく、まちづくりを進めていくということかなと。ちょっとそこを直すんですか。

「最適」のほうに1があって、3のところでも出てきたので、こっち側に行ってしまうんですが、どっちから行きますかね。先に3の「最適」のところをちょっと。

私もその趣旨はもちろんわかるのですが、ただ、「全体最適」という漢字の4文字は、ちょっと難しくて、どうかなと思って。

前のところは、計画的にという、素案は「計画的なまちづくり」だけですから、望ましいものを考えるんだというような意図はあったほうがいいかなと思うんですけれどもね。

◎渡辺委員 あと、文章で「環境変化に最適に適応する」というのがあるわけですが、最適に適応するという内容は、もちろん内容的に最適であるとともに、迅速性が問われるんですよね。環境変化に対しても。

◎武藤委員長 迅速性。

◎渡辺委員 だから、昭和何十何年につくったダム計画を継続するような、これは最適性だと問題がある。

◎武藤委員長 なるほど。迅速というのはタイミングということですか。

◎渡辺委員 やっぱり状況変化があるわけですよ。困った状況が出たら、即座にそれに対応するということです。計画だからできませんとか、計画に基づいてしかやりませんということでは、最適な対応とは言えないですね。硬直化した財政ではできないと思いますけれども。

◎淡路委員 何かいい言葉はないですかね。

◎渡辺委員 全体最適の中で、もしかすると、市民自身も少し成熟しておると言いたい……。

◎永田委員 あまりわけのわからないことばかりで……。

◎武藤委員長 その話はどうですかね。2のところ、市民のかかわりというような意味で。3のほうは、計画的で。計画的に進めるというのは、市の基本方針としてはかなり重要なんですよね。

◎渡辺委員 総合的、計画的、弾力的だよな。

◎武藤委員長 総合的、計画的、弾力的、柔軟に。

- ◎渡辺委員 というのが適応という概念ですから。
- ◎三橋委員 難しいな。
- ◎渡辺委員 そうじゃないと、多分、予算が効果的に執行されないと思います。
- ◎三橋委員 計画的と弾力的ですね。あえて並べるわけですね。
- ◎武藤委員長 うん。
- ◎渡辺委員 計画性を持っているんだけど……。
- ◎三橋委員 弾力的に運用しますと。
- ◎渡辺委員 ええ。時代変化によって、痛みが来たら弾力的に……。
- ◎武藤委員長 でも、今の自治体は、多くの場合、総合計画に載っていないことはやりませんということで、むしろ総合計画に載っていればやれるという根拠であると同時に、政治的要請を排除するための防波堤になっているんですよね。
- ◎渡辺委員 それはわかります。だから、それはものすごい否定的とか矛盾を含めて、弾力的……。
- ◎武藤委員長 そうなんです。計画的と弾力性というのは、計画的にがちっとやると言いながら、柔軟な計画なんですと言うと、それは計画ですかということになりますよね。
- ◎渡辺委員 でも、時代のトレンドはそっちだよ。
- ◎武藤委員長 まあそうですね。今のダム計画なんかを見ると、柔軟な対応というのはね。
- ◎三橋委員 その場合はあれですかね。さっきもちょっとお昼にお話ししたように、基本構想を直すというのが基本なんですかね。それとも、基本構想を直さずに弾力的にやることなんですかね。要は、弾力的に基本構想を直しましょうという話であれば、ここで弾力的と書く話ではないわけなんですけれども。
- ◎渡辺委員 基本構想はやっぱり10年間、どんな状況変化、環境変化があっても、大丈夫なような漠としたやつを書いておくということですよ。
- ◎武藤委員長 むしろね。柔軟な基本構想にしておく。
- ◎渡辺委員 見るわけだから。そのときに、やっぱりその中で、その範囲内で弾力的に運用すると。
- ◎三橋委員 その範囲内ということですね。その範囲内であれば計画的とも言えるけれども、あえて弾力的というふうに。
- ◎渡辺委員 いやいや、そうしなきゃいけない。買収したわけじゃないから。そうしなきゃいけないってことよりは、ダイナミックな行政運用をやるためには、そういうことは……。
- ◎三橋委員 精神論としてですよ。
- ◎渡辺委員 うん。だから、むしろダイナミックなとか。
- ◎永田委員 さっきみたいな話、方向的な感じでやらないといけないですよ。
- ◎武藤委員長 市民生活を優先しましょうということと、参加と協働でつくっていきましょうということですね。3つ目はどんなことが基本になるか。最適を……。

◎渡辺委員 やっぱり環境変化の対応じゃないですか。

◎武藤委員長 環境変化に適応しましょうですかね。

◎渡辺委員 ええ。

◎三橋委員 地域独自のことを活用したまちづくりというよりは、環境変化に対応というほうがいいですかね。要は、環境変化は受け身じゃないですか。地域独自のことを生かしたというと、少し前向きなイメージも若干ありましたけれども。まあ、そっちがいいのかな。

◎渡辺委員 いやいや、3番の文章で……。

◎武藤委員長 3番の文章はですね。淡路委員の。

◎渡辺委員 主張されていることは、環境変化の対応。最適に環境変化に対応していこうと。

◎武藤委員長 環境変化への対応は原則になるかな。

◎渡辺委員 うん。なるかならないか。それは運用上の問題。

◎武藤委員長 いや、もう少し原則と言うんだったら、成熟社会に即したまちづくりをしましょうとか、文化あふれる町にしましょうとか、そのほうが原則としてはいいのかなという気がするんですけども。市民生活優先でしょう、それから、参加と協働。そうすると、「文化豊かな」。「みどり豊か」でもいいですね。「みどり豊か」は姿勢じゃなくて方向性だから、大綱にあるから。

◎渡辺委員 小金井の地域特性としては文化なんですよ。大学も3つあったりですね。教育、文化ということに対して、非常に関心が高いわけですので。

◎三橋委員 それは市の特徴を生かすというようなイメージで良いでしょうか。何が言いたいかというと、そここのところで個別の話を入れてくると、例えば平和の希求だとか人権の尊重だとか、何かそういったような話の例をほかの市について、今、資料11を見ているんですけども、ほかの市を見てみると、いろいろな見出しとして、文化とか安心して暮らせるだとか、個別にはいろいろなものが出てきてしまうので、それをもし包含するということであれば、それを含めて地域独自の視点、地域独自に生かすという話でもいいかもしれない。ただ、僕は別に計画的なまちづくりというのもおかしくはないと思うので、どちらがいいかちょっと、自分でも悩んでいますけれども。

◎渡辺委員 全体最適というやつを、地域の特性を最大限に生かすという言葉にできないか。

◎事務局 ちょっとよろしいですか。淡路委員がお話の全体最適という言葉が使われるときは、対義語は部分最適じゃないかと思うので、個別テーマごとに充実を図ろうとするけれども、全体的には合成の誤謬というか、そういうのが発生して、かえって不効率になったり、目的が達成されないような状態。例えば総合的とかというのを最適な方向でやるんだとすれば、それが全体最適というのかなと思っていたんですが。

◎淡路委員 総合的という言葉に全体という言葉は含まれますよね。

◎事務局 そこが今のキーワードの中ではきいているので、どう考えたらいいのかなと思っています。

◎淡路委員 私もこの表題から考えているわけじゃないんですよ。中身で考えていて、①は行政サービスのあらゆることが起点だろうという形で、福祉に結びつかない、幸せ生活に結びつかない行政サービスはないから、そこを起点にして意思決定する必要があるんだという位置を、行政サービスという観点から出したということなんです。

じゃ、それを進めていくときどうするかといったときに、2と3が出てきたということなんです。2で協働しますよと出したんですが、実際オペレーションするとき、どうだろうと、実際にやるとき、実は協働と言いながらも、私のことじゃないとか、あなたのことだとか、全体に従えとか、個人に従えという話が出てくるので、そこはオペレーションの段階で、全体を考えて意思決定する必要があるし、決めたものは計画的にやる必要はあるんじゃないかという形で入れています。

総合的、計画的にというのを出すと、何か個人が埋没してしまうかなというふうに思って、下の1行を入れたというような経緯でつくったんです。それで、表題を何するかと考えたときに、全体最適かなという形でちょっと入れたんで、表題から入っていくわけじゃないですね。

◎渡辺委員 これは、どっちかというと、1は市民ですよ。

◎淡路委員 そうそう。

◎渡辺委員 2は行政と市民……。

◎淡路委員 一緒にやろうと。

◎渡辺委員 3は行政。

◎淡路委員 そうですね。オペレーションをするときどうするかと。

◎渡辺委員 行政がとるべき姿という。

◎淡路委員 でも、総合的、計画的だけだと、どうも全体でやられてしまうかなという気がしたので、そこにいかに個人のノウハウを持ち込み、個々の状況にも配慮したという形で、計画的、総合的を市民の立場から修飾したと。それが意図だったんですね。全体最適という言葉であらわされるか、ちょっとわからないんだけどね。つくった意図は、そういう意図です。

◎三橋委員 個々の状況にも配慮した全体最適思考というのは、いわゆるローカルオプティマムにも配慮しつつ、全体最適にも配慮しますという意味ですかね。

◎淡路委員 いや、これがローカルオプティマムなんですよ。

◎三橋委員 全体最適が。

◎淡路委員 うん。つまり、小金井市の全体最適だから。

◎三橋委員 国から見たら、小金井市がローカルオプティマムだということですよ。

◎淡路委員 そうそう。小金井市から見たら全体最適。地域最適になっているという意味なんじゃないかな。

◎三橋委員 個々の状況というのは、それぞれの施策とか事業とか、そういう意味ですか。

◎淡路委員 とか、市民のニーズとか、市民の置かれた状況とか、そういうものを総称して、それにも配慮する必要があるんじゃないですかと。

◎三橋委員 そうすると、個々の状況にも配慮しつつ、全体最適にも配慮しますということだと、具体的に言うと……。

◎渡辺委員 だから、「個々の状況に配慮した総合的、計画的まちづくりを行います」じゃないですか。

◎武藤委員長 そうすると、このタイトルは、総合的、計画的なまちづくりですよ。どうですか。

◎淡路委員 いやいや、それは全然決めてないんですけどね。逆に、市民個々の市民度。

◎渡辺委員 市民の参加、市民の意思と言ったほうがいいのか。かかわりをはっきりさせたいということでしょう。市民のかかわりをはっきりと強調したい。

◎淡路委員 それは僕もよくわかる。

◎三橋委員 これは1との関連なんですけど、例えば極端な話、個を生かしたまちづくりとか、ほかのところでも、人権とか自立とかをまちづくりの基本姿勢に入れているところもあるんです。究極的に言うと、個人を尊重したまちづくりみたいな感じに聞こえるんですけど。

だから、個人を尊重しつつ、それが全体最適になっているようなまちづくりだと。

◎淡路委員 うん、そういう姿勢で政策に取り組もうと。まちづくりという姿勢でいろいろ取り組もうと。

原文は、総合的、計画的だったんですよ。そこにちょっと何か……。

◎渡辺委員 総合的、計画的って当たり前なんですよ。

◎淡路委員 そうですね。でも、これは入れなければならない。総合計画上の大義名分かなと。これがないと、ちょっといろいろなことが覆されるのかなと思って、今入れたことは入れたんですよ。

◎永田委員 ですから、さっき言われたように、結局、総合的、計画的に行いますという場合、地域資源を生かした形でというか、多分そういうことなのかな。環境変化に最適に対応することより、どちらかという、地域資源を活用して、総合的、計画的に行いますという話ではないのかなと。その後もうちょっと考えるということになるかなと思うんですけども。

◎淡路委員 それが最適問題だよ。地域特性という制約のもとで、だれもが快適に幸せを実現する。

◎三橋委員 あと、淡路委員が言った、地域特性と個々の状況、個人の何とかを生かしたとか、そんな感じ……。

◎淡路委員 あっ、それ2つまくら言葉に入れるといいかもしれませんね。「環境変化に最適に対応するため」のところに、今おっしゃった……。

◎三橋委員 地域特性と個人の……、個々の……。

◎武藤委員長 「まちづくりは一人一人の市民の能力を生かす」「活力を生かす」かな。活力を生かす、力を尽くすだからな。

◎渡辺委員 それは協働のほうになります。

◎武藤委員長 そう。どちらかという、協働に近くなるんですが、ここは要するに、個人の
というのを、一人一人の市民のと言いかえただけなんですけどね。

◎渡辺委員 要望に近い言い方ですか。

◎武藤委員長 いやいや、それは要望じゃなくて、市民がいかに関与するかということですね。

◎渡辺委員 それは協働に入ると思う。

◎武藤委員長 そうなんです。参加と協働のほうに入っちゃうんです。だから、一人一人
の市民の活力云々というのは上のほうに持ってきましょう。ここは、今そういう話が出ていま
せんでした？

◎三橋委員 いや、個人個人の状況といったときに、例えば個人個人の状況というのは、単に
幸せというものであれば1番なんです。個人個人の幸せを生かしたということであれば①に
なるし、個人個人の何という言い方がいいのかなということなんですけれども。だから、それ
が参加だったら2番になるしということなんで、個々はいいとして、個々の何なのかという
ところなんですけどね。

◎武藤委員長 個々の状況じゃなくて……。

◎三橋委員 状況が、幸せとはまた違った概念で……。

◎渡辺委員 例えば足が悪いとか、バリアフリーとか、そういうことが答えになるようなこと
でもいいわけですよ。結局まちづくりですからね。

◎三橋委員 それは幸せとはまた別ということですね。

◎淡路委員 だから、それは幸せに包含されちゃうと思うんだけど。個々のというのは、いろ
いろな人がいるじゃないですか。自転車に乗れない人もいるし、自動車じゃないと……。いろ
いろな状況があるわけでしょう。目の見えない人、耳の聞こえない人、年とって、つえついで
ないとか。そういう多様な身体状況とか、そういうものを全部包摂したようなという感じ。

◎三橋委員 じゃ、もう地域特性と個人の事情とか状況とかという形ですかね。地域特性や一
人一人の状況、状態、情勢。

◎淡路委員 考えたときは、そこまでは考えていなかったんだけど、そういう見方もあるかな
と思います。ここはやっぱり、どちらかといえば、総合的、計画的に対する概念なんですよ。

◎武藤委員長 個々の状況で、総合的、計画的だけでは不足するようなところを前に補ってお
くという。総合的、計画的というと、全体の中で全部吸い込まれちゃうから。

◎淡路委員 そうそう。吸い込まれて、みんなが賛成したからいいだろうという話になって、
多数決の横暴になるから、そのとき、いや、そうじゃないからといって、やろうという形でち
よっと考えたんですよ。

◎渡辺委員 それはいいと思う。

◎淡路委員 うん。だから、それを3文字で言うと何になるかということ。

◎渡辺委員 だから、市民ニーズに対応という。

◎武藤委員長 地域特性、一人一人の事情……。

◎淡路委員 言葉で、さっきの柔軟っていう人が——これじゃないんですけども、そういう言葉だと、この計画的、総合的に対応できるかなと、ちょっと今思ったんですけどね。地域特性や……。

◎渡辺委員 総合的というのは、行政が何かやりなさいということですよ。行政課題ですよ。

◎武藤委員長 行政課題ですが、私たちが主語でもいいとは思いますがね。

◎三橋委員 まちづくりは環境変化に最適に対応するため、地域特性や一人一人の状況ないしは事情を勘案して。

◎渡辺委員 2つあるんですよ。総合的かつ計画的の前の目的で、個人のニーズというか状況を満たすということが1つと、それから、もう1つは何でしたっけ。

◎三橋委員 地域特性です。

◎渡辺委員 地域特性があると。かつ、今度は計画の実施に当たっては、環境変化に対応できる弾力運営みたいな、そういう議論がここで渦巻いているというか。

◎三橋委員 そこに入れてみてもらっていいですか。「まちづくりは環境変化に最適に対応するため、地域特性や一人一人の状況、事情を勘案」……。斟酌あるいは配慮しつつか。「勘案」にかわる言葉は何かありますか。

◎武藤委員長 考慮。

◎三橋委員 「考慮しつつ」か。

◎事務局 何か、かたいなという意味だと、「踏まえて」とかにまたなっちゃいますね。

◎武藤委員長 「事情を踏まえて。総合的、計画的かつ弾力的に行います」。どうでしょうか。いいんじゃないですか。その一文だけです。次の文章は含まれてしまっているという。

◎三橋委員 そうですね。つながらないですね。

◎武藤委員長 その文章に合わせて、今度タイトルを考えると……。

◎淡路委員 逆に言えば、我々の全体最適の定義は次のような文章ですということを、全体最適というのをある意味でのコピーワード的に使えば、それでいいのかなと。

◎武藤委員長 ああ、全体最適という言葉を使ってですか。

◎淡路委員 うん、あえて。ちょっと目新しいし。

◎武藤委員長 確かに目新しいというか、そうですね、ほかでは使われていないですね。

◎三橋委員 問題は、タイトルだけがひとり歩きする可能性があるんですよ。

◎武藤委員長 市議会にこれで出しますか。また淡路委員に説明をしてもらわないといけませんけれども。

◎淡路委員 地域特性に「一人一人の状況を踏まえて」があるから、その下の「弾力的」はダブるから要らないんじゃないですか。

◎武藤委員長 「弾力的」は要らない？

- ◎淡路委員 ええ。そこでもう個別対応しますよと言っていますから、あとはそれを踏まえた上で、全体を考えて計画的にやりましょうというのでいいと思います。
- ◎渡辺委員 僕が弾力的と言ったのは、環境変化に対してなんですよね。環境が変化したときに……。
- ◎武藤委員長 そうしたら、環境変化に最適かつ迅速。その最適の言葉の中身として……。
- ◎渡辺委員 弾力性が含まれている……。
- ◎武藤委員長 弾力と迅速だということでしたよね。
- ◎渡辺委員 うん、うん。
- ◎武藤委員長 そうすると、最適かつ迅速でいいですか。
- ◎渡辺委員 うん。
- ◎三橋委員 弾力的かつ迅速ですか。でも、弾力的よりは最適のほうがいいということですか。
- ◎武藤委員長 その最適という言葉を上に残すんだったらね。
- ◎渡辺委員 あれすると、迅速のほうが前に来るかもしれない。
- ◎武藤委員長 環境変化に迅速かつ最適。
- ◎渡辺委員 言葉の遊びになっちゃいますけどね。
- ◎淡路委員 そうですね、迅速と最適はちょっと重なりませんか？ 最適はちょっと広い概念なんですよね。遅くてもいいし、何でも早ければいいというものでもないんだよね。
- ◎武藤委員長 工学的にはそうだけども。ロボットの反応とか。迅速じゃないと最適にならないか、ゆっくりでも最適になるか。
- ◎淡路委員 そうそう。
- ◎武藤委員長 そうですね、迅速はどうか。そうすると、迅速にと言われると、ちょっときついついところがありますよね。ごみ問題だって迅速に対応できませんものね。
- ◎三橋委員 迅速に対応するために、総合的かつ計画的に行うのかってちょっと……。総合的、計画的……。
- ◎渡辺委員 環境変化に最適……。
- ◎武藤委員長 そうですね。やっぱり「迅速」はとりましようか。いいですか。「最適に対応する」って。その意味はどうですかと言われたら、迅速で柔軟で、最的確に対応するんです。それをまとめて「最適に」と言いましたと。
- ◎三橋委員 これ、趣旨を聞いても、わかんないような気が若干しますけど。
- ◎武藤委員長 でも、全体最適という言葉は下に出てこないから、最適に対応するというので、突然というか、タイトルに全体最適と出てくると、それを説明しないとイケません。環境変化に最適に対応するっていうのが全体最適ですとは言えなくなりますよね。
- ◎三橋委員 多分要約版には、全体最適を集合したまちづくりの一言しか出てこないんですよ。概要版とかには。
- ◎武藤委員長 そうでしょうね。

- ◎事務局 そうすると、端的に聞けば、行革を踏まえたみたいなイメージになりますね。
- ◎淡路委員 まあそうだよね。
- ◎三橋委員 タイトルは結構……。
- ◎事務局 一般的なイメージとして、全体最適という言葉は仮に知っている人が聞けば、ああ、全体最適化を図ることで、部分的な無駄を省くんだなと聞くような気がするんです。タイトルがひとり歩きする。
- ◎渡辺委員 ミニмумコストで最大効果……。
- ◎三橋委員 というふうには聞こえますかね。
- ◎事務局 知らなかったら、逆に何だろうとはてなマークが点灯するんだらうと思うんですけども。
- ◎三橋委員 でも、普通の人には、はてなマークで終わっちゃいますよね。
- ◎武藤委員長 うん。どうしましょうか。
- ◎三橋委員 やっぱりタイトルは大事だと思います。
- ◎淡路委員 最後、上の文体と違った書き方になっていますから、それはちょっと直さなきゃだめですね。
- ◎事務局 「私たちは」のところが……。
- ◎淡路委員 1を入れて、「私たち」……。
- ◎三橋委員 そう、全部「私たち」。「行います」だから、「私たちは」ですよ。「まちづくり」は行いうわけがないんで。
- ◎武藤委員長 「まちづくりを」ということで。
- ◎三橋委員 そうですね。「まちづくりを」です。
- ◎武藤委員長 そうすると、主語は「私たちは」……。
- ◎渡辺委員 そうすると、やっぱり総合的なまちづくりがタイトルになるわけですね。
- ◎武藤委員長 総合的なまちづくりか。計画的よりも総合性が今回は重視される。
- ◎渡辺委員 ということは、全体最適という、今ここで言わんとすることの内容。
- ◎武藤委員長 そうか。全体最適は総合性のほうが関係するわけですね。
- ◎三橋委員 そうですね。全体最適って言い方だとそうですね。
- ◎淡路委員 あの文体は、1行目はもう実現しますと言い切るんですよ。下でその意味を説明しているんですよ。私たちは、その意味は、2と3の関係でこういう意味ですよ。例えば協働による創造的な活動をします。それはこういうことですよ。だから、あの色調で書くと、3番の……。
- ◎渡辺委員 協働によるまちづくりを1番上に持っていけばいいんでしょう。
- ◎淡路委員 いや、3番の2行は、上の「まちづくり」と「私たち」をまとめてしまいましたから、書こうとすると、上の2行のどこかを使うか、何かしないとダブりますね。
- ◎渡辺委員 ああ、そうか。

- ◎淡路委員 うん。だから、1番はこれですよと。まちづくりは……。
- ◎渡辺委員 3のタイトルは、総合的なまちづくりでいいでしょう。
- ◎武藤委員長 そうですね。総合的なまちづくりのほうがやっぱりいいですね。
- ◎渡辺委員 私たちは……。
- ◎武藤委員長 「私たちは、環境変化に最適に対応するため」……。 「対応」ですか「適応」ですか。環境変化への適応は、環境変化に……。
- ◎渡辺委員 「環境変化」に対しては、「適応」のほうがいいですね。
- ◎武藤委員長 「変化」には「適応」ですよ。適応するかどうかですよ。 「環境変化に最適に適応するため、地域特性や一人一人の状況、事情を踏まえて、総合的、計画的に行います」。
- ◎三橋委員 「まちづくり」をどっかに入れたほうがいいですね。
- ◎武藤委員長 そうですね。「私たちは」が主語なんだから、「総合的、計画的にまちづくりを行います」でしょうね。
- ◎永田委員 上のところは、まちづくりは……。
- ◎武藤委員長 「姿勢でまちづくりを進めます」。
- ◎永田委員 「小金井市の地域特性を踏まえて、総合的計画を行います」とやったほうが一番すっきりして、その下に、「私たちは環境変化に最適に」、そういうふうにまとめたほうが確かに一致するよね。
- ◎武藤委員長 どういうふうに直すってことなんですか。もう一度。
- ◎永田委員 「まちづくりは、小金井市の特性を踏まえて、総合的、計画的に行います」。「私たちは、環境変化に最適に適応するため」、地域特性は入れましたから、「一人一人の状況、事情を踏まえて、総合的に行います、計画的に行います」と。
- ◎武藤委員長 「総合的に行います」が重なりますか。
- ◎三橋委員 いや、あれは行われるものですよ。
- ◎武藤委員長 まちづくりは……。
- ◎永田委員 進めます。
- ◎三橋委員 もし、「まちづくりは」を主語に始めるなら、すべてですけれども、それだけに限らず、「まちづくりは」を主語にするんだったら、「行われるものです」とか……。
- ◎武藤委員長 「まちづくりは実現するものです」。私たちは……。
- ◎三橋委員 行われるものです。
- ◎淡路委員 いや、主体はこっちだから、「行います」ですよ。
- ◎三橋委員 だったら、「私たちは」っていうのを。「まちづくりは」じゃおかしいですね。
- ◎永田委員 結局、①、②と合わせるのであれば、まちづくりは何とか実現しますでね、実現することですっていうのであれば、「行います」のほうがいいですね。
- ◎三橋委員 いや、だから……。
- ◎永田委員 その下の文章がちょっと違うんです。

- ◎渡辺委員 「まちづくりは」がみんな主語でしているからね。
- ◎事務局 三橋委員がおっしゃっているのは、主語と述語の関係なので、単語であるまちづくりに対応するので、何とかのものですとかで受けなければいけないということなんだと思うんです。
- ◎三橋委員 そうです。
- ◎事務局 だから、実現するものですよとさえいい。
- ◎三橋委員 そうです。単にそれだけです。実現するものですよとか。
- ◎事務局 2段落目の「私たちは」は人なので、動詞で。
- ◎渡辺委員 環境変化に最適に適応することは目的じゃないから、「適応し」じゃないですかね。いろいろ言ってすいません。
- ◎武藤委員長 「環境変化に最適に適応し」。それは、目的ではなくて、手段だということになってきたんですね。幸せな生活を実現するものです。
- あと、参加と協働によるところは、「まちづくりは、それぞれの主体の協働による創造的活動で実現するものです。私たちは、多様な主体の協働により、市域の特性と人と人との絆を活かした共感と協創的な姿勢でまちづくりを進めます」。
- ◎三橋委員 これは、参加と協働になるんですよ。
- ◎武藤委員長 ここはそうですね。参加と協働ですね。「共感と協創的な姿勢で」というのもいいんですが、ただ、参加と協働によるまちづくりにしたので、「地域の特性」と……。
- ◎三橋委員 そこは切っちゃっていいと思いますよ。
- ◎武藤委員長 そこは切っちゃっていいの？ 「人と人との絆を活かした、参加と協働によるまちづくりを進めます」。
- ◎渡辺委員 「絆」っていうのがあるから、「共感」っていうのはそんな感じで……。
- ◎武藤委員長 そうですね。いかがでしょうか。大分……。
- ◎渡辺委員 大分よくなってきた。
- ◎三橋委員 「協働による創造的な活動」っていうのは……。
- ◎武藤委員長 「創造的な活動」ね。そこは「協創」という言葉があったから、ああいう言葉になっているんですよ。「協働による創造的な活動」。
- ◎三橋委員 言っていることはわかりますけどね。ただ、参加がここだと抜けますね。
- ◎武藤委員長 参加が抜けちゃっているのね。それぞれの主体のまちづくりは、参加と協働に基づく……。
- ◎渡辺委員 あそこに入れたらどうですか。参加と協働。
- ◎三橋委員 ああ、参加と協働による……。
- ◎武藤委員長 「それぞれの主体の参加と協働による創造的な活動」で、「実現するものです」。
- ◎三橋委員 創造的活動って何ですかっていったら、「人と人との絆を活かした」ということになるわけですかね。下が……。

◎武藤委員長 多様な主体の協働……。そうすると、まちづくりは……。

次の文章の、「私たちは、多様な主体の協働により」、これは、次にまた「協働による」っていうのが出てきちゃうから、「多様な主体の協働により」っていうのは要らないかなと思うんですね。「人と人との絆を活かした参加と協働によるまちづくりを進めます」。

◎三橋委員 それでいいんじゃないですか。

◎武藤委員長 ね。それをとる。

◎淡路委員 こういうのはどうですか。1行目というのはわりと一般的なことを書いてあるんです。2行目が、小金井でどう味つけますかというような構成で書いてあるんで、1行目は「参加と協働」、そこで閉じて、「創造的活動」は下のほうに持っていったらどうですか。「参加と協働による」、そうなんだけれども、それプラス小金井はコープロダクションをやりますよという形で、「創造」を下のほうに持ってきたらどうですか。

◎武藤委員長 「まちづくりをそれぞれの主体の参加と協働」……。 「それぞれの主体の」っていうのがちょっとあれですね。行政と市民の参加と協働とか、それぞれの主体のまちづくりは……。

◎淡路委員 ここでは「主体」はまだ特定していないんですよ。

◎武藤委員長 そう……。

◎淡路委員 いろいろあるねと。行政だけではないし、市民だけでもないと。事業者もあるんで、一応それぞれと。

◎三橋委員 そうか。それぞれの主体にはそういうあれですね。

◎渡辺委員 要らないんじゃないですか。

◎淡路委員 各主体……。

◎渡辺委員 参加と協働のところで、前に定義していますよね。参加と協働の主体はこうだと。

◎三橋委員 第三セクターと、セクター間のあれだと。

◎淡路委員 それが主体ですね。

◎渡辺委員 そうじゃなくて、私たちは……。

◎淡路委員 じゃ、とりましょう。

◎渡辺委員 まちづくりは参加と協働により。

◎淡路委員 評価すると、何か他人ぽくなって、やっぱり主体でやりましょうよという意味で、入れたらどうですか。何か一般的……。

◎三橋委員 それ主体じゃわからないですね。そうしたら、市民、行政とか……。

◎渡辺委員 私たちの。

◎武藤委員長 私たちの参加と協働……。

◎淡路委員 各主体でだめですか。私たちは下で使っているから。

◎渡辺委員 でも、例のこの間議論したところで、「本市は」だっけ、あれはすごくこだわって使ったんですね。私たちは後で定義しているじゃないですか。

◎淡路委員 それはだから下のほうでね。私たちはという形で、実はもっと主体的にこの味つけをするんですよ。上のほうは一般的にこうなんですよ。

◎武藤委員長 では、ここはこうしましょう。「それぞれの主体の」でいって、もう一度、しばらく時間がたってみて、どう思うかで考えましょう。

◎三橋委員 じゃ、ここはまた斜体にしておきましょうか。

◎武藤委員長 そうですね。斜体にしておいていただいて。

次のところで、「多様な主体の協働により」、そこでまた「主体」が出てくるんですね。「地域の特性と人と人との絆を活かした、参加と協働による創造的なまちづくりを進め」。ちょっとそこは、「創造的な活動、まちづくりを進め」になってる。「創造的なまちづくり」「創造的な活動」、どっちでしたっけ。「協働による創造的なまちづくりを進めます」。

◎三橋委員 これは、「多様な主体の協働」と「参加と協働」という形で、協働が2回ダブりますね。しかも、上が「それぞれの主体」で、下が「多様な主体」なので。

◎武藤委員長 そうですね。「主体」が重なっているのと「参加と協働」が重なっている。そこは、タイトルも含めて3カ所あるんですが。

◎三橋委員 そうすると、「多様な主体の協働」は要らないんじゃないですか。「私たちは、人と人との絆を活かした参加と協働による」……。

◎武藤委員長 そこはさっき削ったところですね。

◎三橋委員 いや、その下ですね。

◎武藤委員長 もう1つ、先ほど議論したのは、地域の資源を生かすというような、それはどうしたの。

◎三橋委員 それは下に入っています。

◎武藤委員長 もう下に入っているのか。

◎事務局 参加と協働によりってことですよ。

◎三橋委員 いや、そうすると、上……。

◎武藤委員長 同じことを繰り返していることになりますね。

◎三橋委員 参加と協働が1行の中に2回出てきますよね。やっぱりそこは消すような形だと思うんですけども。

◎武藤委員長 上を？

◎三橋委員 いや、「多様な主体」に。

◎武藤委員長 あっ、そうか。そのところですね。

◎三橋委員 そこですね。

◎武藤委員長 そこは、「多様な主体の」……。私たちは……。

◎淡路委員 要らないでしょう。

◎鮎川委員 「私たちは、人と人との絆を活かした」じゃだめなのかな。

◎武藤委員長 そうですね。さっきの……。だから、「主体」は上に入ってくるので、それで、

主体の参加と協働。次のところは、「人と人との絆を活かした参加と協働による創造的まちづくりを進めます」。

◎三橋委員 だから、「それぞれの主体」が「私たち」を受けているということですね。

◎武藤委員長 うん。じゃ、このぐらいいにして、しばらく頭が冷えたところで、また見ましよう。

では、次のところに行きましょう。将来像までやって、分担をして終わりにしましょう。

将来像ですが、ここは資料51の5分の1の最初のところに……。5分の5のほうは3つ出ているのか。5分の5は「みどりが萌える・子どもが育つ・絆を結ぶ」。「絆が結ばれる」、ちょっと違いますね。

◎三橋委員 違いますね。

◎武藤委員長 5分の1とちょっと違いますね。

◎三橋委員 1ページのタイトルってどうですかね。

◎武藤委員長 1ページのタイトルね。「みどりが萌える・子どもが育つ・絆を結ぶ」。

◎三橋委員 あとは、「育つ」「育つ」「育つ」とどっちがいいかですけれども。

◎武藤委員長 ん？

◎三橋委員 例の「みどりが育つ・子どもが育つ・笑顔が育つ」、中学生が出したやつを……。

◎武藤委員長 「育つ」「育つ」「育つ」か、「萌える」「育つ」「結ぶ」。

◎三橋委員 韻を踏んだほうがいいのか。どっちも一長一短はあると思うんですけどもね。

逆にそれで聞きたかったのが、事務局側が一応要素分析しているって言ったじゃないですか。今、我々のほうは「みどりが萌える・子どもが育つ・絆を結ぶ」っていうふうに修正案が出たときに、これは「みどり」と「子ども」と「絆」っていう感じでわかりやすいですけども、「育つ」「育つ」「育つ」の要素分析というときに、「みどり」は「萌える」か「育つ」かの違いだから。あとは、「笑顔が育つ」か。笑顔をどういうふうな要素分解したかということぐらいですかね。笑顔もやっぱり協働みたいな感じなんですかね。

◎三橋委員 「笑顔」がイコール「絆」っていう感じですかね。

◎武藤委員長 特に、3次からの連続性で考えると、「萌えるみどりの」だから、「みどりが萌える」のほうが続いていいなという感じがするんですけどね。それがやっぱり大きな理由じゃないかと思うんですね。「みどりが萌える」っていう。「みどりが育つ」よりも「萌える」、このほうが小金井にいいと。

そうすると、次は「子どもが萌える」にはちょっとまずいかなと。「子ども」は「育つ」になって、そうすると、「笑顔が育つ」……。「萌える」「育つ」「育つ」っていうのも何か変だから、そこで「絆を結ぶ」と、これは参加と協働のことですね。みどりがあって、教育を重視して、参加と協働でという3つの違った局面の基本姿勢を……。

◎渡辺委員 これ、市の職員の皆さんの名刺に書ける？ 書くんでしょう。

◎武藤委員長 「みどりが萌える・子どもが育つ・絆を結ぶ小金井市」。それは書けますね。

◎鮎川委員 字数的には大丈夫そうですね。今、「元気です 萌えるみどりの小金井市」、ちょっとこれよりふえるぐらいなので、大丈夫です。

◎事務局 それを言えば、第2次ときは、「みどり豊かな生き生きとした文化都市小金井」ですから、もっと長いわけですよ。

◎渡辺委員 徐々にキーワードがうまくなっていくね。

◎武藤委員長 これでいきましょうか。

◎事務局 三橋委員の先ほどのご質問にお答えしておくと、「笑顔が育つまち」をそのまま採用したんですが、そのほかにも「私たち」とか「人が支える」「人を支える」とかあったんですけども、「みんなの」というふうなことが書いてある中学生の案があったので、その流れの中で「笑顔」というのをやったので、「絆」というのは、そのようにずれてこないと思われるんですけども。

◎三橋委員 要素分析してみると、施策の大綱のこの部分にあるんですっていうのが、笑顔についてあるわけですか。

◎事務局 要素分析といったときに、2つ意味があると思うんですけども、説明さしあげたのは、中学生の挙げてきたキャッチコピーにどんな要素が入っているかということなので、施策のほうの要素分析というのが、中学生が挙げてきたのは、こういう思いが入っているものが多かったですという分析をしたので。

◎三橋委員 そういう意味の要素分析ということですか。

◎事務局 はい。

◎淡路委員 私、これやってみて、「みどりが萌える」もわかるんですけども、3つ並べたときに、どういう都市像を実現しているかという形で、私は上に書いてある言葉のほうを重視したんです。

◎武藤委員長 「みどり萌える快適生活協創都市」。

◎淡路委員 こういうのに言いかえてあげないと、非常に理解が……。拡散することもいいんだけども、どうもはっきり出ないなという感じをして、ちょっと植えつけたんです。ただこれは並べているだけにすぎないコピーではもったいないので。これが実現できたときは、どういう都市像が象徴できるかという形で、こういう置きかえのほうが、市民の方がわかりやすいかなというのでつけたんですけどもね。

◎渡辺委員 この……。

◎淡路委員 上のほうね。このフレーズがいいかどうか別ですけどもね。

◎渡辺委員 上？

◎武藤委員長 ここの「みどり萌える」、ここの部分です。

◎淡路委員 これを全部入れて、ただ並べたんですけども、こういうのがないと、実は何を言っているのかがほんとはわかっていないんじゃないかと。

◎渡辺委員 でも、将来像っていうのがありますね。像っていうのは絵ですよ。「みどりが

萌える」っていうのはイメージできますよね。それから、「子どもが育つ」っていうのは、あっ、子供の教育を一生懸命やっているなど。「絆を結ぶ」と言うならば、老若男女を全部合わせて、何か助け合っているという絵が大体出てくるじゃないですか。

◎淡路委員 それを一言で言うと、どういうことなのかなと。

◎渡辺委員 だから、それが長いから、1つにならないかと思ったんだけど。

◎武藤委員長 それから、「協創都市」の「協創」という言葉は、コープロダクションで、新しい淡路先生の言葉なんですけど、社会的な普遍性というか、社会的な扱われ方というか、理解度というか、これを「協創」というのは何かというのを説明していくと、また大変なことかと思うので。先ほど「協創」はとりましたよね。

◎淡路委員 そうなんですよね。

◎武藤委員長 だから、「協創」というのをここで入れるとどうかなとは思いますが、でもね。かといって、そこに「快適生活協働都市」と言うと……。

◎淡路委員 つまんない。

◎武藤委員長 そう。そこに「協働」って持っていったらいいかなという気がして……。

◎淡路委員 私は、10万の都市だと、相当住民と、ほかの市よりもぐっとタイアップしていかないと、実はあまり成功しないんじゃないかという形で、一緒にやる、それも単に手を結ぶだけじゃなくて、新しいものをつくっていかうという形で「協創」という概念を出したんですけどもね。前の段階ではしよられましたから。

つまり、競争優位性を掲げると、あまり一般的に持っていくと、何か変わらないじゃないかというところがあるんで。やっぱり周辺が17万とか20万都市にいる中で、10万都市として、どういうふうに考えるかといったとき、やっぱりユニークなフレーズがあったほうがいいかなという点もあったんですけどもね。削られましたから……。

ただ、あの言葉は、したはいいんだけど、それがどうなのといったとき、一々この3つの言葉を言わないとわからないんじゃないか、浸透しないかなと思って。

◎三橋委員 ただ、「快適生活協創都市」という言い方がわかるかって言われると……。

◎渡辺委員 下のほうがはるかにわかる。

◎淡路委員 わかる？ どういう話なのって。

◎武藤委員長 あと、「絆を結ぶ」のかわりに、素案を生かすとなると、「笑顔が育つ」じゃなくて「笑顔があふれる小金井市」とかやるのも1つの手かなと思うんですけどもね。「絆を結ぶ」じゃなくて、「笑顔があふれる小金井市」。

◎三橋委員 「笑顔が」って入れたほうがいいですかね。

◎武藤委員長 「笑顔があふれる」。

◎三橋委員 なるほど。「が」か。

◎武藤委員長 「みどりが萌える・子どもが育つ・笑顔があふれる小金井市」。笑顔はなかなか育たないかなと思ったものですから。それが1つの……。

- ◎三橋委員 じゃ、「笑顔が」が入ればいいんですね。
- ◎武藤委員長 「笑顔があふれる」。そうすると、「子どもが育つ・笑顔が」っていうところまでね。だから、3分の2ぐらいは使っていることになりますから、中学生も納得するかなと。「絆」がいいか……。
- ◎渡辺委員 あまりにも人間関係が希薄化しちゃっている現在においては、「絆を結ぶ」のほうは何となく……。
- ◎武藤委員長 「絆」のほうがいいですか。コミュニティの希薄化とかね。
- ◎渡辺委員 大事な話ですね。隣近所すら、困ったときしかという状況でいうとね。
- ◎武藤委員長 そういう結果と、絆が結ばれることによって、笑顔があふれるんだと、こう考えていけば、その背景に絆もあると。
- ◎三橋委員 笑顔と絆はどっちのほうの方がわかりやすいかですよ。笑顔というのは、基本的に1人で笑うってできないとよく言われるんですよ。泣くことはできても、1人で笑うことはできないというふうに言うので。それに絆という意味が入っているんだよというふうに言うんだったら入るけれども、それがぱっと入るかどうかな。わかりやすいかどうか。
- ◎武藤委員長 じゃ、これは審議会に2つ出しましょうよ。
- ◎渡辺委員 そうですね。固定的にやらないで。
- ◎淡路委員 じゃ、上はシャッフルにしましょうよ。
- ◎武藤委員長 上のところですか。残しておいてもいいですよ。そこはイタリックにしておいていただく。
- ◎三橋委員 あまりイタリックが多いと、議論が長引きそうですね。もし残すのであれば、「快適協創都市」という言葉をもう少し定義したほうがいいと思います。
- ◎武藤委員長 そうですね。じゃ、消しましょうか。
- ◎渡辺委員 「絆を結ぶ」という中に、僕は参加と協働というのも入ってる感じがするね。
- ◎武藤委員長 そうですね。「絆を結ぶ」は参加と協働という意味ですよ。
- ◎三橋委員 それは直接的ですよ。だから、(1)のほうが、より第1案だということですね。
- ◎武藤委員長 そうですね。
- ◎事務局 中学生の関係では説明できるんじゃないかと思うんですね。「みんな」だとかというのは中学生も言っていますので。
- ◎武藤委員長 「絆」のほうが？ じゃなくて、「笑顔」？
- ◎事務局 「絆」であっても。「絆」か「笑顔」かっていうのは、審議会のほうで、どちらのほうがイメージに合うかということで説明がつくかと思うんです。
- ◎武藤委員長 「快適生活都市」。「協創」だけとっておきましょうか。それとも、「協創」をとるんだったら、意味がないですか。
- ◎淡路委員 趣旨はそうですね。どちらか落とすということであれば、「協創」……。

◎武藤委員長 「みどりが萌える快適生活都市」。

◎淡路委員 「生活」を除いてもいいんですけども……。

◎武藤委員長 快適……。

◎淡路委員 あっ、「生活」は要るか。

◎武藤委員長 市民生活優先、協働によるまちづくり、それから、総合的、計画的まちづくりですから。

◎淡路委員 いや、皆さんが1と2で都市像が大体イメージできれば、別に問題ないと思っただけで、いろいろな総合計画を見ていると、みんな書いてあるんで、結局何がというふうになったとき、一言で言いあわせないと、実は浸透できないかなという意味でつけただけなんです。

だから、あの文章で大体イメージできるということであれば、上がダブりますよね。

◎武藤委員長 じゃ、とっていい？

◎淡路委員 いや、そうであればとっていいと。

◎武藤委員長 じゃ、とりましようか。議論が長すぎて、1か2かどっちかを選んでもらうということで、審議会には提案する。

さて、ようやく懸案の……。

◎三橋委員 あと、指標について、これは鮎川委員からもありますし、永田さんもちよつと言われていたかなと思いますけれども、1個でいいんじゃないかと思いますが、どうですか。

◎武藤委員長 指標か。1個でいいかもしれませんね。「住みやすさの向上」「住み続けたいと思う市民の増加」。

◎三橋委員 そのかわり、要因分析をもっとしっかりやってみたら。住みやすさの中にある要素分析をいろいろな角度で、施策の大綱に結びつくような形できっちりやってみようというのが大事かなと思うんですけども。

◎事務局 市民意向調査のほうで要素分析がされているのが、指標2のほうです。住み続けたいに対して、移住したい理由、住み続けたい理由を聞いているのが、今の市民意向調査のほうです。

◎三橋委員 満足度とか重要度っていうのは、どういった要素になるんですか。満足度、重要度を聞いて、施策のやつは。それは住みやすさの向上とリンクしないんですか。

◎武藤委員長 満足度はここにあるけれども、満足度は水とみどりとか、いろんな要素で聞いているよね。

◎三橋委員 そうですよ。それが最終的には住みやすさに……。

◎事務局 市民意向調査も、基本的には施策の分野ごとにそれぞれの満足度と重要度を聞いているというような感じなので、それが住みやすさにどうつながっているかというところまで整理していくという感じではないんですけども。

◎三橋委員 基本的には、それが整理できるような形にするっていうのが、指標としては意味

があるんであって、それがなかったら、単純に分析とかできない。単に、結果が出てきてよかったね、悪かったねだけで終わってしまう指標になっちゃうと思います。それは、別に1でも2でもいいんですけれども、どっちかという、施策の大綱に結びつくように、指標の体系をきちんと整備するということが大事なんじゃないかなと。そのときの最終的な指標というのは1個でいいんじゃないかなということなんですけれどもね。2個にしないと、体系図が違うと。こっちの体系とこっちの体系が違うんだと言うのであれば、指標は違うんです。住みやすさということに、満足度とか重要度を聞くような形で包含できるんじゃないかと思ったんですけどね。

◎渡辺委員 別な視点から言うと、指標2っていうのは、住み続けたいと思う市民の増加ということで、住みたくない人もいるのかなという、逆説的な印象も与えますね。

◎三橋委員 悪いイメージもありますよね。僕も、指標1がいいなというふうに。単純にこれだけ見た場合ですけれどもね。

◎淡路委員 指標1がよくなくても、定住意向の人がふえないと、何のためにやったんですかということになるんで、あの指標の関係は、1が原因指数で、下が結果指数ですよ。

◎三橋委員 ただ、この原因と結果の関係で、相関分析じゃないですけれども、今までの指標を見たとしても、大体似たような傾向をとっていると思うんですよ。これとこれで、大きく増減の仕方が異なるような動きをしますかね。そうするとしたら、相当レアなケースで、特殊要因とかあるんじゃないかと思うんですけれども。

◎淡路委員 それはいろいろですね。片方が70だから、下が70になるかというところでもないし……。

◎三橋委員 まあ、ぴったりじゃないと思いますけれどもね。

◎淡路委員 そうそう。だから、5%とか10%の乖離は出るんですよ。

◎三橋委員 ただ、原因と結果という関係であれば、どっちか押さえればいいかなというふうに思いますけれども。

◎淡路委員 住みやすさがよくなったんだけど、実は下のほうが低くなったとき、つまり、住みやすさが出ている結果がよくないわけですよ。上だけ見ていて上がっていると思ったけど、下を見ていないと、それでいいと思ったけれども、定住意向はどんどん下がっていったということになるかもしれませんね。

◎三橋委員 ということは、原因と結果の関係であれば、原因があって結果があるにもかかわらず、それが相関しないということであれば、原因に違った要因があるわけですよ。

◎淡路委員 そうそう。

◎三橋委員 ということですよ。

◎淡路委員 うん。

◎三橋委員 ということであれば、指標1だけじゃ足りないということになりますよね。

◎淡路委員 うん。だから、2を把握しておいてね。

◎三橋委員 じゃ、2のほうが大事ということですか。

◎淡路委員 2を把握しておいて、これがなぜ変動するか。それは住みやすさなのか、行政への信頼性なのか、市政への満足度なのか、いろいろ出てくると思います。だから、住みやすさだけではないんですよね。

◎三橋委員 もしそうであれば、2が残って、1というのは2の中の一部という形で考えて、いろいろな要素をほかにも出してもらうという形になると思うんですけども。

◎淡路委員 昔は、2を調べて、1だけやっていたんですが、政策だけよくても、やっぱり行政自体に対する信頼度を高めないとだめだし、市政そのものに対する満足度も実は上げないと、幾ら住みやすさを上げていっても、実は定住意向がふえていかないということが出ているので、わりと指標1がばらけ始めている。だから、行政は自分たちの市政について満足しているかどうかはとりたがらないんですね。政策についてはとるんですよ。ところが、住みたくないのは、政策はいいんだけど、行政が非常に横柄だから、なるべく住みたくないんだというのも出てくるので、そこはしっかりとったほうが、これからはいいと思うんですよ。

◎武藤委員長 両方あったほうがいいということですね。

◎淡路委員 そうそう。だんだんお金使えなくなるでしょう。住みやすさ以外のところで満足度をとらないと、住んでいただけないという意味で、指標1はもうちょっとばらしたほうが実はいいので。とるなら、指標2でとったほうがいいと思う。どっちか選択するならね。

◎渡辺委員 指標1にして、「向上」はとっちゃって。指標ですからね。「住みやすさ」だけで……。

◎武藤委員長 「小金井市の住みやすさ」が指標1で、指標2は……。

◎渡辺委員 僕は、2の「住み続けたいと思う市民の増加」というのは、さっき言ったみたいに、住むのは嫌だなということも暗に含んでいるわけじゃないですか。だから、この指標をもとに、原因と結果をきっちり行政のほうで調べてもらおうと。それは表に出なきゃいけないですね。

◎淡路委員 いや、それはもう全部オープンになっていますよ。今、定住意向と住みやすさを調べるのはごく普通のことであって、先端自治体は、実はそれだと上がっていないので、上げているところは行政の信頼度であったという形で、信頼度調査とか、これは市政に対する満足度という形で、別の視点でとり始めていますよね。だから、従来は住みやすさだけでやっていたんですが、今そこが多様化しているので、せっかく新しい計画を立てるならば、評価指標1だと、ちょっと幅が狭いかなという感じがしますけどね。

◎三橋委員 ただ、住み続けたいと思う市民の増加というときに、その原因って何ですかと。要因として、小金井に長く住んでいるからとか、小金井に愛着があるからという……。

◎渡辺委員 そういう人もいます。

◎三橋委員 ですよ。それが市政にとってどれだけ意味があるのかということなんです。それよりは、住みやすさといったときに、ぱっとイメージするのは、生活環境がよくなってい

るとか、みどりがふえているとか。住み続けたいかどうかというのは、どっちかというところ、その人の気持ちの問題で、より施策に影響しているところは住みやすさのほうかなと。それで僕は評価指標1というのが第一に挙げたんですけどね。

◎**淡路委員** あの体系だと、住みやすさの下に愛着とか全部入れているんだよね。住みやすさの指標、中身の一つとして、政策がいいとか、交通に便利だとか、愛着を全部入れているんですよ。

◎**三橋委員** いや、住みやすさのほうに愛着は入っていましたっけ。

◎**淡路委員** 愛着は大体入っているんですよ。何で住みやすいですかと。土地があるからとかね。

◎**三橋委員** その次の問題で、自然環境がよい、交通の便がいいとか、長年住みなれて愛着があるとか。

◎**淡路委員** だから、ひょっとしたら、これからは住みやすさは上がらないと思うんですよ。だから、ほかの指標もとっておいて、上げるのは評価指標でいいじゃないですか。

◎**渡辺委員** 多分、この2というのは主観的なアンケートになってるわけでしょう。

◎**淡路委員** うちのお店で買い続けますかという話ですよ。品ぞろえはいいんだけど、買い続けなければ困るわけですよ。だから、イメージは単純なんですよ。

◎**武藤委員長** 無作為抽出で、たまたま住んでいる学生にはがきが行ったりしていると、これは低下するんですね。だって、田舎帰りますとか、ほかのところ行きますとか、そういう可能性は非常に高いわけですから。でも、ずっと住んでいる人にはがきが行くと、これは高くなるので、むしろそういう……。

でも、いずれにしたって限界はあるんで、100人が100人そうなることはないんですよ。

◎**事務局** 庁内の策定過程の一番下の研究会であった議論なんですけれども、結局、他市を見てみると、小金井市は必ずしも高くないというのがあります。

◎**武藤委員長** 何を見ると？

◎**事務局** どちらもです。

◎**武藤委員長** あっ、どちらも。これをほかと比較すると。

◎**事務局** 比較的都市整備が進んでいる府中市とか武蔵野市がどうしても高くなる傾向があって、小金井市は必ずしも高いほうではない。ただ、20年度の調査をすると、やっぱりまちづくりの進展が反映されたのかなという推測になるわけですが、やっとなんか上がったんですね。11年の調査と17年の調査では両方とも同じポイントなんです。0.1ポイントまで同じ。

その中で、例えば三鷹市さんの場合は、行政の信頼度で調査をしているわけなんですけれども、ほかの市は、住みやすさと住み続けたいで調査をしていて、基本的な仮説としては、市の施策が進めば、この2つは上がるはずであって、そういうところをはかっていったらいいんじゃないかみたいな議論があったわけです。それがそのまま上の部会・策定本部に残って、今こ

ここにあるという形になるんですけれども。

◎渡辺委員 三橋さんの言われることはよくわかるんですけれどもね。都市経営という観点からいったら、指標2というのは絶対入れるべきだろう、そういうことなんですね。

◎淡路委員 そうそう。

◎渡辺委員 売り上げが上がったり下がったり……。

◎武藤委員長 さて、これは2つ入れておきましょうよ。

◎渡辺委員 ただ、この、「向上」とか「増加」って指標のほうに入れますよね。

◎武藤委員長 「市民の増加」、2のほうですか。

◎渡辺委員 上も下も……。

◎武藤委員長 「向上」とか「増加」という、それが必要かどうかということですね。

◎渡辺委員 指標だから、ふえることも減ることもあるわけであって……。

◎武藤委員長 そう。ふやさなくちゃいけないとかって……。

◎淡路委員 これはふやさないとだめでしょう。

◎武藤委員長 それはふやすことが前提なんですね。減らすことじゃないですね。

◎永田委員 できればふやさないといけない。

◎淡路委員 指標だからね。

◎渡辺委員 インデックスでしょう。評価のための数値ですよ。

◎鮎川委員 住みやすさや市民が指標というのも何か変な気がします。

◎武藤委員長 そうか、やっぱり向上とか何か。

◎鮎川委員 市民のことですよ。何か言葉を補足した方が良いと思います。

◎渡辺委員 住みやすさの向上とか……。

◎淡路委員 これは実際に数値が入るの？ それとも、去年より上がってればいいっていう意味？ 数字入れるの？

◎武藤委員長 数字入れるんでしょう。

◎事務局 素案としては、数字は入っていないということになります。

◎淡路委員 そうだよ。目標にはしないんでしょう。向上なんですよ。だから、去年より今年よければいいというんで、今年85にするとかということじゃないでしょう。

◎事務局 5年後、10年後に、その辺も研究会レベルでは少し話があったんですが、基本構想なので、そういう調査による変動性もあるので、数字は入れられない。ただ、施策がきちんと進んでいけば、10年間では上がるはずであって、小金井は比較的低位だからということもあります。上がるはずであって、上がらないときには、何らかの反省というか、検証が必要になってくるだろうという形なんで、「向上」と「増加」が一応入っていると。

◎淡路委員 方向づけね。

◎渡辺委員 これは指標でしょう。目標じゃないでしょう。

◎淡路委員 これ、どっちなの。

◎武藤委員長 目標にもなるんでしょうね。

◎渡辺委員 結局は評価をするための数値でしょう。

◎事務局 必ずしも数値ではないんで。

◎渡辺委員 数値じゃなくてもいいんですけれども……。

◎事務局 それはわかるんですけれども、渡辺委員がおっしゃっているのは、どの項目とするか、数値とするかということだから、上がるとか下がるとか入るのはおかしいというお話なんです。

◎渡辺委員 だから、これは評価の基準でしょう。だとしたら、それに向上を入れるということが、数学的には納得いかない。

◎武藤委員長 目標だったら向上と書けと。

◎渡辺委員 そうです。目標だったらわかります。

◎武藤委員長 指標はこれで、次に目標という、住みやすさの向上とか、こうなるんですね。

◎事務局 それは審議会の議論だとは思いますが、研究会のときは、順当に行けば低位なので、上がらなければおかしいかなって話でした。

◎渡辺委員 だから、向上まで括弧の中に入れて、それはそれで指標になるかもしれない。

◎武藤委員長 「住みやすさの向上」。

◎渡辺委員 ええ。向上の度合いがどうだということですよ。それから、市民の増加、これも増加という数値になりますから、それは指標になるわけですよ。

◎三橋委員 やっぱり割合の増加じゃないですか。

◎渡辺委員 割合の増加。

◎武藤委員長 じゃ、それでいきましょう。

あと分担を決めて読んでいただくということですが、資料の56、施策の大綱を見てください。ここは、施策の大綱①みどり、②ふれあいと活力、③次世代の夢と希望で文化と教育、④が福祉と健康、⑥が計画の推進と、これだけあります。1つは1ページ半から2ページというところですが、これを5つ……。

◎鮎川委員 私は起草委員でないで……。

◎武藤委員長 起草委員じゃなくてもいいんです。目を通していただいて……。

◎鮎川委員 すいません、余計なことを。

◎武藤委員長 目を通していただいて、コメントして、ここは直すべきところはありませんでしたと言ってくればいいです。これは何といても、鮎川委員には文化と教育のところ。

◎鮎川委員 多分、私を除いた人数のほうが、きちんときれいになります。

◎武藤委員長 いやいや、肝心なところは2人重なってもいいんです。

◎三橋委員 分担するに当たって、ちょっと確認なんですけれども、個人的意見で直すことになるんですよ。

◎武藤委員長 ええ。それは個人的意見を踏まえつつ、審議会のメンバーを頭の中に入れて直

すわけですよ。今井さんだったら、こういうことを言うんじゃないかと思いつつ、今井さんの意見を反映して書けるところは書くということですね。今井さんは、そんなの要らんよとおっしゃられるかもしれないし。

◎三橋委員 一応今まで、施策の大綱のところは、審議会でちょろっと意見とかが出ていたので、僕は一覧表をまだ全部詰め切れてないですけども、あそこを書いてあるものを踏まえつつ、それくらいですかね。

◎武藤委員長 そういうことです。

◎三橋委員 本来であれば、議論を1回してから、方向性を出してからじゃないと、書きづらいといえば書きづらいんですけども。

◎武藤委員長 でも、もう時間がありませんので、それは個人のパワーにお任せして。

◎三橋委員 問題意識があるところで、各自……。

◎武藤委員長 あとは、団体代表の方にはそこを分担してもらおうと。起草委員じゃないけれども、この前の審議会のときに見ておいて、意見をくださいと私のほうから申し上げましたよね。それをもう一度確認して、皆さんにお願いするということはあると思います。

◎三橋委員 ただ、意見は言っても、1から文章を起こすことを団体委員の方がやられるかという……。

◎武藤委員長 いやいや、1から直さなくて、ここにあるものを直す。

◎三橋委員 っていうことですよ。

◎武藤委員長 うん、そうそう。

◎渡辺委員 例えば、皆さんがもし不安であれば、ここでぱっぱと直していく。そういうことですね。

◎武藤委員長 それは次回。今日はもう時間ですから、私も帰らないと、家族団らんが。

◎渡辺委員 これはどうやればいいんですか。見るだけ？

◎三橋委員 いや、もう直してくるんでしょう。

◎武藤委員長 見て、赤で直していただくという。

◎渡辺委員 じゃ、どんどん直しちゃうわけだ。

◎三橋委員 もう都市基盤のところとか全部。第1のみどりと都市基盤。

◎渡辺委員 いやいや、一応全部見ますよ。

◎武藤委員長 じゃ、そういうご意見を全部事務局に集約して、直したものをまた配付していただく。

◎渡辺委員 あと分担したらどうですか。専門的に見てもらう。

◎武藤委員長 そうです。一応分担と思っています。ですから、そこは公募の委員の方から順番に選んでいただいて。

◎渡辺委員 永田さんは環境と都市だろ。最低限度ね。

◎武藤委員長 そうですね。ミニマムで。オプティマムかミニマムか。

- ◎永田委員 私は多分、都市基盤のほうをやったほうが良いと思います。
- ◎武藤委員長 じゃ、都市基盤ね。
- ◎三橋委員 環境は？
- ◎永田委員 じゃ、環境も。
- ◎武藤委員長 1番。環境と都市基盤でしょう。
- ◎永田委員 そうです。
- ◎武藤委員長 玉山さんは、何とんでも④の福祉と健康でしょう。
- ◎玉山委員 はい、じゃ、4に行きます。
- ◎武藤委員長 玉山委員は4。
それから、文化と教育はやっぱり鮎川……。
- ◎鮎川委員 私は起草委員ではないので、ほかの……。
- ◎渡辺委員 いやいや、やってくださいよ。
- ◎玉山委員 いや、もう書いてしまいました。
- ◎武藤委員長 私も書いちゃった。見ていただいて、もちろん、なければならぬで結構ですから。ここは重なる人もいますよね。ほかの団体の委員の方で……。
- ◎三橋委員 文化と教育は厳しいかな……。
- ◎事務局 団体としてはないんじゃない？ 青年会議所が一体どこに絡むのかという話で。
- ◎三橋委員 無理して絡めなくてもね。向こうも起草委員じゃないのに、いきなり降ってわいてくるような仕事を押しつけたというふうに……。
- ◎武藤委員長 でも、一応審議会で皆さんにお願いを……。
- ◎事務局 起草委員の締め切りが11月11日になっちゃいますので、まだ確認しないとわからないんですけども、その前に議事録送付とかのタイミングがあれば、その中でお願いしておいてもよいと思うんですよ。
- ◎渡辺委員 地域と経済は今井さんに頼んじゃう？
- ◎武藤委員長 今井さんにも読んでいただくというなら。
- ◎三橋委員 でも、意見は出ていますよね。
- ◎武藤委員長 あっ、意見出てますね。
- ◎三橋委員 意見出てるのを、あえて本人にこの文章を直せというのは、かなり今井さん的には、それは自分の仕事かっていう……。
- ◎武藤委員長 見ておいて、審議会で意見を述べてくださいということも、意見があれば事前にお願ひしますというので、その程度ですかね。
- ◎三橋委員 普通はそうですよね。
- ◎武藤委員長 わかりました。読んでくれそうな人がいたら、お願いしてもいいのかなと思いますが、鮎川委員にはここでお願いできたと。
あと残りの部分ですが、地域と経済は渡辺先生でいいですか。

◎渡辺委員 いいですよ。

◎三橋委員 じゃ、僕は計画と推進やりましょうか。

◎武藤委員長 計画推進は……。

◎三橋委員 あっ、でも淡路さん？

◎淡路委員 私やりましょう。

◎武藤委員長 そうですね。

◎淡路委員 私、市内知りませんから。

◎三橋委員 じゃ、僕は全体的に見ます。特にないので。あっ、暮らしと経済？

◎武藤委員長 一応全部決まったか。

◎三橋委員 そうですね。じゃ、一通り僕は見ますよ。

◎武藤委員長 全部見るってことですか。

◎三橋委員 はい。

◎武藤委員長 では、私もできた後で見ます。

では、日程をいつまでかということですが、今回は31日ですので、その前、1週間前に集約をして、訂正をして、26日の週に送ってもらうようにしましょうか。そうすると、26日に送ってもらいたいとなると……。直前でいいか。26日に訂正できるように、26日の月曜日が明けるところまで、そこに届いているように。

◎事務局 26日の朝9時まで。

◎武藤委員長 26日の朝9時まで。その作業を見え消しで直すということですが、どこを削ってどこを加えた。加えたところに下線を入れ、削ったところは消し線を入れということですね。つくっていただいて、それを月曜日、火曜日ぐらいの作業で、27日か28日ぐらいには送っていただく。そうすると、週末までに見ておいて、31日土曜日の午前中の起草委員会で議論をすると。こういうのでいかがですか、よろしいですか。

◎事務局 とにかく今日の議論を反映した原稿をメールでお送りして、履歴が見れるようにしておけば、自動的に入るので。

◎三橋委員 渡辺さんは手でなされていますけれども、もしかしたら、事務局のほうで違ったりすると、後がややこしいと思うので……。

◎武藤委員長 事務局から送ってもらったものを……。

◎三橋委員 今日は今日で、1回送ってもらったほうがいいんじゃないですかね。

◎渡辺委員 同じものでしょう。

◎三橋委員 いや、でも、多分直し方が。

◎渡辺委員 いやいや、このところは直してない。

◎三橋委員 施策の大綱についてということですか。

◎渡辺委員 そうそう。

◎三橋委員 施策の大綱までは一緒かな。

◎渡辺委員 まあ、どっちでもいい。

◎武藤委員長 ちょっとそこは、施策の大綱は施策の大綱で分割したほうがいいと思うんですけどもね。

◎渡辺委員 僕は全体を見ますけれども、特に地域と経済ということですね。

◎武藤委員長 はい。

じゃ、スケジュールは、26日の9時までに訂正したものをお送りくださいということですね。

◎三橋委員 じゃ、僕はこっちのほうにあまり力を入れないので、事務局と細かい文言とか少し拾ってみて、全体的な1から4章とか。これを主語とか。

◎武藤委員長 でも、もう寝る時間もないくらいだから、そんなに無理しなくていいですよ。

◎三橋委員 無理しない程度に頑張ります。

◎武藤委員長 それでは、こういうことで、5時ちょっと前ですから、朝10時からですから、7時間、途中休憩入れて6時間というところですが……。

◎淡路委員 1ついいですか。これはこうやっていくんですけども、基本計画もこの起草でやるんですか。

◎武藤委員長 もちろんここで何かやらないとだめかなと思うんですけども。

◎淡路委員 私の経験した審議会と起草委員会と比べると、起草委員会で考えることがちょっと多過ぎるなと思うんですね。ベースとして、相当分析した資料が出てきて、それについて起草委員会が市民の観点からたたくというケースがちょっと多かったかなと。それから比べると、果たして我々が乏しい知識で書きあらわすという形態をこれからずっととっていいのかなという疑問が1つあるんです。

それともう1つは、事務局から出てくる案が、ほとんど前回と同じようなものが出てくるので、そこはちょっと事務局の体制を強化してもらって、もうちょっと最新とか、前と違ったとか、あるいはもっとたたき台がきっちりしたもので出てくるような体制にしていかないと、ほんとうに的確なものができるかどうか、ちょっと不安なところもあるんですけども。

そういう意味で、このままの体制で続けていいかどうかの議論を、どこかで1回、部長さんとか課長さんあたりで議論していただいてもいいかなと思っているんです。時間があれば、そんな検討もしていただきたいと思います。

◎三橋委員 少なくとも、このメンバープラスアルファで、計画には団体の人がかなり個別に参加されるということが多くなるかなと思います。それでも、文章を書くところまでやるかやらないかというところは若干あるかもしれませんが、いろいろと細かいところがあると思うので。

◎淡路委員 それと、協働といっても、成熟度があるわけですよね。フィフティーフィフティーでやるところでもなくて、これは相当、職員の方が内容を理解していないと、政策、施策に実は展開していけないということもあるんで、もっと行政側が参加すべきかなと思うんですけ

れども。

◎**渡辺委員** いずれにしろ、我々素人が書いた文章を、最後はきっちり精査してもらって、おかしいのは全部直してもらおうという手続が要るよね。

◎**淡路委員** というより、土台が低いと、いい家が建たないと思うんですよね。やっぱり土台が低過ぎるパターンが多いんで。

◎**三橋委員** 市の政策の整合性とか、判断が入るようなところはなかなか難しいかもしれませんが、普通に行政文書としておかしくないような、体裁を整えたりとか何とかってところはあると思うので。

◎**淡路委員** あるけれども、基本的なところ、我々が柱を見逃しているかもしれないという不安があるんです。

◎**渡辺委員** そうそう。

◎**淡路委員** だから、プロにやってもらったほうがいいかなと。

◎**武藤委員長** ですから、今回は、ここまでのところは、課題なんかも三橋委員が書いたりしているんですが、今後、ここは大綱から、前回は大分委員が書きました。でも、今回はあまりそれを想定していなくて、施策の大綱の素案を直すことでいきたいなと思っているんです。これを全部書いてくれと言っているわけじゃなくて、ここに書かれていることで気になる点、こう直したほうがいいんじゃないか、こういう視点がちょっと弱いんじゃないかということを中心に見ていただく。

さらにその次の計画になってくると、計画をつくれというのは無理ですから、出てきた基本計画を、基本構想の趣旨を踏まえてできているかどうかというところに重点を置きながら、弱い施策にここをもうちょっと強くなりませんかとか、こういうモデル事業を入れたらどうでしょうとかという今井さんのご意見のようなことを加えたりというようなことが多くなってきて、基本計画は、こちらでつくるのはそれは無理です。

◎**淡路委員** そうですよ。

◎**武藤委員長** この大綱についても、今度はこれを全部なしで、ゼロから文章を書いてくださいということでは全くありません。

◎**三橋委員** 自分たちが書いた施策の大綱が、どういうふう to 実際の施策になるのかというところが見えていないで書いちゃうと、これは当然大変なことになっちゃうと思うんですよ。だから、我々の中で、これは足りないんじゃないか、こういうふうにしたほうがいいんじゃないかとか、重点的に何に強弱をつけるのかというような観点だと思うんですけども。

◎**武藤委員長** そういう視点でコメントする方もいらっしゃるし、そうでない場合もあると思うんですよね。今までのところは、三橋さんが書いてくれるって言うから、淡路先生が書いてくれるって言うからお願いしているんで、これから皆さん、書いてくださいと私はお願いしません。

◎**淡路委員** ですね。だから、行政が……。

◎武藤委員長 そう。行政が常に研究会も踏まえていろいろ議論した上で出てきていることですので。そこを行政で足りない視点があれば、こちらはコメントしましょうということです。

ですから、そんなに今後、作業が起草委員会でふえることはないと思うんですけども。

◎淡路委員 前半結構やっちゃったわけでしょう。後半はある程度ふえてもいいんですけども、行政の案が出てくることを期待したいということなんですよ。政策のブレークダウンの体系がやっと出てきているわけですから、これが先にどうつながるかというところが見えていないわけですよ。

◎武藤委員長 その意味ではね。その意味では、計画の素案が出てくるというのはいつでしたっけ。

◎淡路委員 というより、この体系の検討ですよ。施策の大綱はこれにつながるんですよ。

◎三橋委員 結局、文章を書くというよりは、それをどういうふうに直すかというほうがポイントだと思うんですね。文章の細かい表現とか何とかってというのは、これを単に直すだけですよ。

◎淡路委員 行政から出てきたものについて見ればいいと思っているんですけども。ただ、これとの関連もちゃんとつけてやらないと……。

◎三橋委員 これとこれは関連はついているんですよ。

◎武藤委員長 それは関連できている。

◎三橋委員 だから、これを直すイコール、こっちが直るといふ。

◎淡路委員 これはどちらかといえば、ものすごく書き過ぎているんですよ。

◎武藤委員長 そう。結構書いています。

◎淡路委員 だから、基本計画の状況をすごく書き過ぎている。

◎武藤委員長 基本構想としてはね。

◎淡路委員 ここをとると、基本計画に書けるところがなくなるから、ものすごいダブるところが出てきますから、そういう意味で、もっと行政が参加して、行政の案を出していただきたい。この体系の合理性とか、あるいはそれなんか全然検討していないわけですよ。

◎三橋委員 そうですね。

◎淡路委員 一応限定でいいと。これは直すということですから。次回、いろいろな案が出てきて、大体時間がなしで、これでやりましょうということになりがちなんだよね。

◎渡辺委員 ここは議会じゃないからさ。別に我々は市民から選ばれたわけでもなく、市民の代表でもなくて、市長に委嘱されただけで、行政のお手伝いに来ているわけですから。いろいろだめなのはだめとってもらおうほうが本当はいいんですよ。

◎武藤委員長 最後は、答申した後、市長が直す。ただ、市長は答申を尊重することになっていきますので……。だから、修正は最低限。あるいは、もしも修正すべき点があったら、答申の前に行政からの意見で、ここはという意見が一応行政からも出ていきますので、それを、いや、それじゃ困りますというようなことをやり合うということになると思うんですよ。

◎長期総合計画等担当部長 ほかの段階で、かなり枠組みが、もともとお出ししたものと変わっていますので、ちょっと1回、庁内のほうにはフィードバックして、ここのすり合わせは若干やらせていただきたいと。今日やっている部分について、どうしてもここは直してほしいというふうなことがあれば、なるべく早くお知らせしたいと思うので、どこの段階でやっていいよというのがあれば、言っていただければと思います。

◎三橋委員 多分そういうのは早いほうがいいですね。

◎武藤委員長 そうですね。一応案ができたなら、次の11月のところでは、完成案がこちらの訂正の部分がまとまりますので、その段階で意見をまとめておいていただいたほうがいいですね。

◎淡路委員 でも、大分前に変わっちゃったから、実は頭の中で、こっちのほう困ったなどさんざん思っているわけでしょう。

◎武藤委員長 そうですね。最後の段階で戻すのは大変だから。今度、26日の9時までという訂正がありますけれども、前半のところで重大な変更点があれば、言っていただいたほうがいいかなと思います。

そういうことでよろしいですか。

◎淡路委員 基本的には、前半のところが主としてかかわるということだと思うけど。後半は行政マンに任せたほうがいい。

◎三橋委員 僕が委員の方に聞くと、逆のことを言う方もいるんですよ。総論的なところは学識の方で、そうでない個別のところは僕らやりたいという委員も結構いらっしゃいますから、そのところは、多分立場によって、基本計画になったときこそ自分たちが意見を言って、いろいろとやりたいんだという方もいらっしゃると思います。だから、また体制が変わるんじゃないかなと思いますけれども、ちょっとそのところはまた、どういうやり方がいいのかというところがあると思うので、そこは相談……。

◎渡辺委員 個別具体的な話になると、利益がかかわって……。

◎三橋委員 そういうことです。それも含めてですね。いい意見は言っていくということで。

◎武藤委員長 じゃ、これで第3回の起草委員会を終わらせていただきます。どうも1日中ありがとうございました。

(午後4時00分 閉会)